部

912
61

捕　鯨　業

昭和十四年三月

農林省水産局編

912
61

664.9
N96

緒言

本篇ハ我國及世界ニ於ケル捕鯨業ノ實情ヲ察知センガ爲當局ニ於テ蒐錄セル資料ヲ取纒メタルモノナリ

即チ之ヲ上梓シテ執務上ノ參考ニ供ス

昭和十三年十月

農林省水産局

昭和十五年十二月

912
61

捕　鯨　業

目　次

第一　我國の捕鯨業……1
（一）　沿岸捕鯨業……1
（二）　母船式捕鯨業……2
（三）　本邦捕鯨會社一覽表……3
（四）　捕鯨船一覽表（沿岸捕鯨）……4
（五）　鯨漁根據地一覽表……5
（六）　最近十ヶ年間統計（沿岸捕鯨）……8
イ　鯨種別捕獲頭數及一頭當價格……8
ロ　捕獲鯨の組成……8
（七）　昭和十二年度捕鯨狀況（沿岸捕鯨）……9
イ　根據地別捕獲頭數……9
ロ　月別捕獲頭數及一頭當價格……10
（八）　鯨生產品價格表（沿岸捕鯨）……10
（九）　各種鯨處理一覽（沿岸捕鯨）……11
（一〇）　南氷洋母船式鯨漁業許可一覽表……17
（一一）　捕鯨母船及附屬捕鯨船一覽表……17
（一二）　母船式鯨漁業成績……19

第二　世界の捕鯨業……20
（一）帆船捕鯨業……20
イ　歐洲に於ける捕鯨業……20
ロ　亞米利加に於ける捕鯨業……21
（二）汽船捕鯨業（諾威式捕鯨業）……22
（三）母船式捕鯨漁業……23
（四）國際捕鯨條約及捕鯨取締協定……25
（五）關係統計……28
一　世界捕鯨狀況　1919—37年……28
二　國別捕鯨狀況　1928—37年……28
イ　捕獲頭數……28
ロ　捕獲頭數百分比……29
ハ　鯨油生產量……29
ニ　鯨油生產量百分比……30
三　南氷洋に於ける捕獲頭數　1928—37年……30
四　南氷洋に於ける鯨油生產量　1928—37年……31
五　世界捕鯨狀況（漁場別）　1936—37年及1937年夏期……31
（六）英國捕鯨狀況　1936—37年及1937年夏期……33
（七）諾威捕鯨狀況　1936—37年及1937年及夏期……33
（八）國別及鯨種別捕鯨狀況　1936—37年及1937年夏期……34
（九）南氷洋捕鯨狀況　1919—38年……35
（一〇）南氷洋國別捕鯨狀況　1919—37年……36

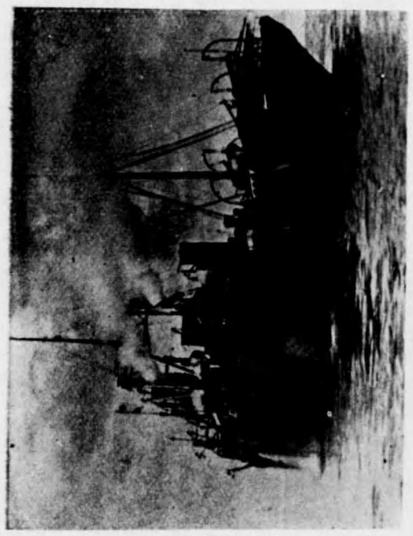
（一一）南氷洋母船式捕鯨狀況　1919—38年……37
（一二）南氷洋母船式捕鯨狀況(同別)　1937—33年……38
（一三）南氷洋に於ける捕獲鯨の組成(母船式)　1928—38年……38
（一四）南氷洋に於ける漁場別捕獲表　1936—37年……40
（一五）漁期別鯨種別捕獲狀況(南氷洋母船式)……48
（一六）漁期別鯨種別捕獲狀況百分比(南氷洋母船式)……50
（一七）未成熟及成熟鯨の捕獲狀況(南氷洋母船式)……52
（一八）白長須及長須の平均體長(全南氷洋)……52
（一九）換算白長須一頭當り產油量……53
（二〇）歐洲に於ける鯨油價格　1918—37年……53
（二一）鯨油生產量(工場別)　1934—38年……54
イ　英　國——南　氷　洋……54
ロ　英　國——其　他……54
ハ　諾　威——南　氷　洋……55
ニ　諾　威——其　他……56
ホ　獨　逸——南　氷　洋……56
ヘ　日　本——南　氷　洋……57
ト　日　本——其　他……57
チ　パナマ——南　氷　洋……57
リ　丁　抹——南　氷　洋……58
ヌ　丁　抹——フアーロー島……58
ル　北米合衆國——南　氷　洋……58

ヲ　北米合衆國——其　　他……58
ワ　中部及南部アメリカ——南氷洋……59
カ　中部及南部アメリカ——其他……59
ヨ　アイスランド……59
タ　南氷洋合計……59
レ　其他海面合計……60
(二二)　1937—38三八年度捕鯨成績(南氷洋母船別)……61
(二三)　換算白長須一頭當產油量 1937—38年南氷洋母船式……62
(二四)　世界捕鯨母船表……64
(二五)　捕鯨船調(南氷洋母船式)……66
イ　造船年度別……66
ロ　造船地及國籍……66
ハ　馬力及國籍……67
ニ　總噸數及國籍……67
(二六)　1937—38年度母船及捕鯨船總括(南氷洋)……67
(二七)　捕獲鯨の體長(1937—38年度南氷洋母船式)……68
イ　諸威母船隊……68
ロ　英國母船隊……70
ハ　獨逸母船隊……72
ニ　二七母船隊合計……74
(二八)　捕鯨母船操業一覽表 1930—38年……76
(二九)　外國捕鯨會社一覽表……78

(三〇)　外國捕鯨船の操業成績 1937—38年……84

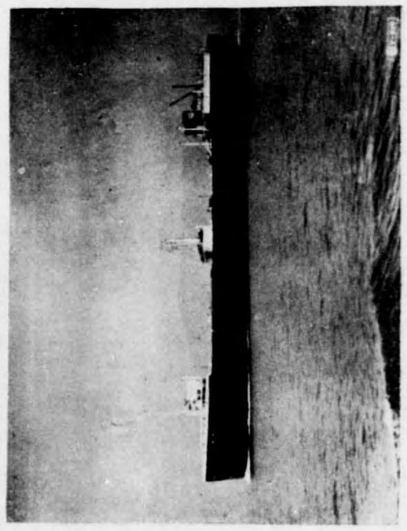
附　　錄

母船式漁業取締規則……89
鯨漁取締規則……101
鯨漁汽船船數制限ノ件……105
鯨漁取締協定(譯文)……106
國際捕鯨會議プロトコル(譯文)……116
國際捕鯨條約(譯文)……128
鯨漁取締協定(原文)……135
國際捕鯨會議プロトコル(原文)……149
國際捕鯨條約(原文)……167



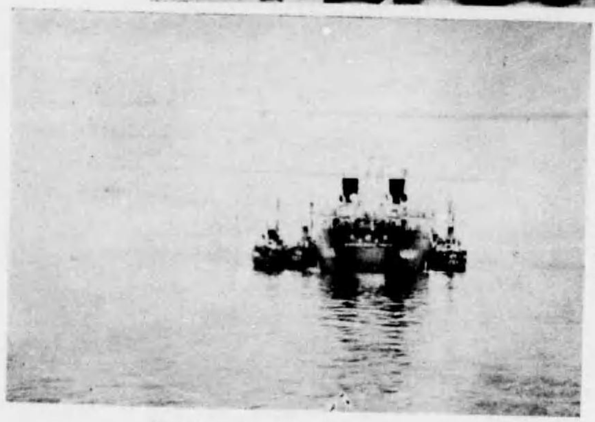
捕鯨母船岡南丸
（總噸數八、六六〇噸）

捕鯨母船第三岡南丸
（總噸數二、二〇九、七噸）



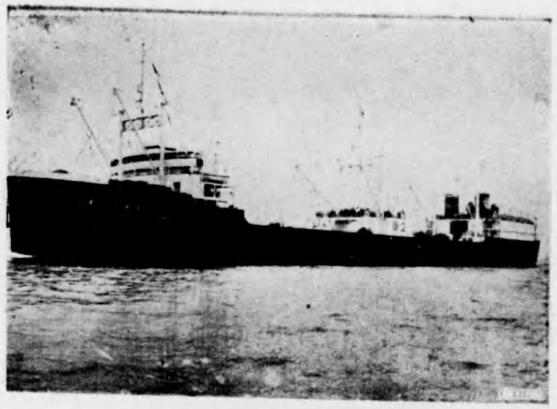
捕鯨母船日新丸
（總噸數二、七四二、三噸）

母船ノ甲板ニ於ケル赤道祭ノ催
（往路赤道通過ノ際）

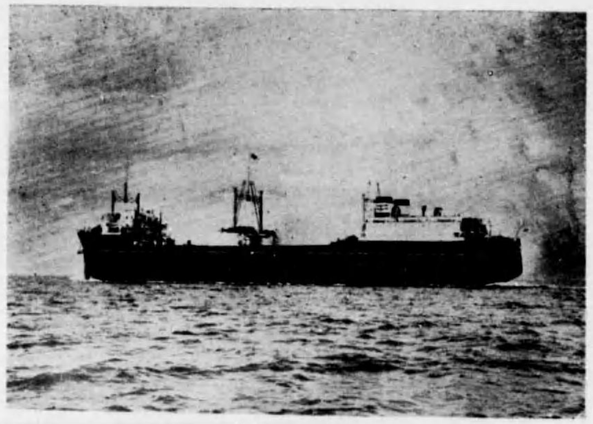


捕鯨船ニ給油中ノ日新丸

濠洲フリーマントル港ニ寄港セル捕鯨船

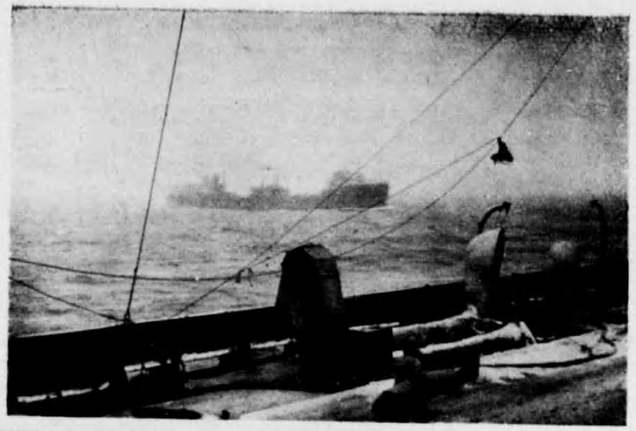


捕鯨母船第二日新丸
（總噸數二七、五三二、二六噸）



捕鯨母船極洋丸
（總噸數二七、五四八、八三噸）

外國母船テルエ、ヴィーケン（英）
（總噸數三〇、三八噸）

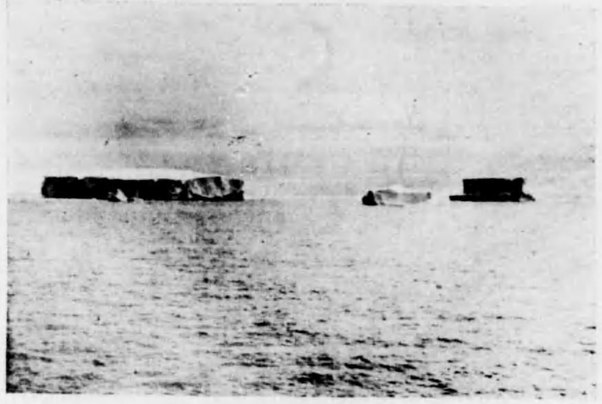


漁場ニ於ケル僚船トーカイゴー

捕鯨砲（前面ニハ浮ア氷山）

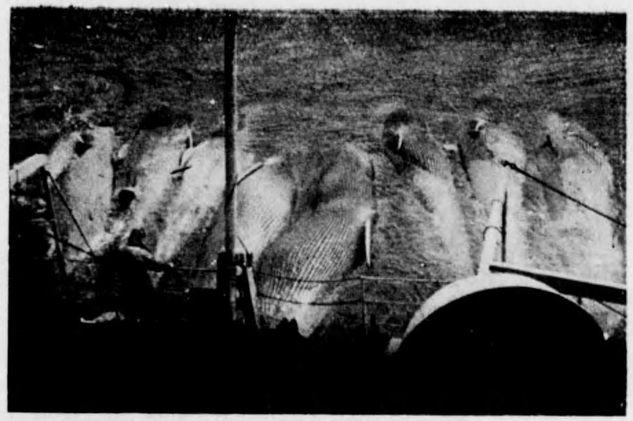
追尾

漁場到着（パック・アイス）

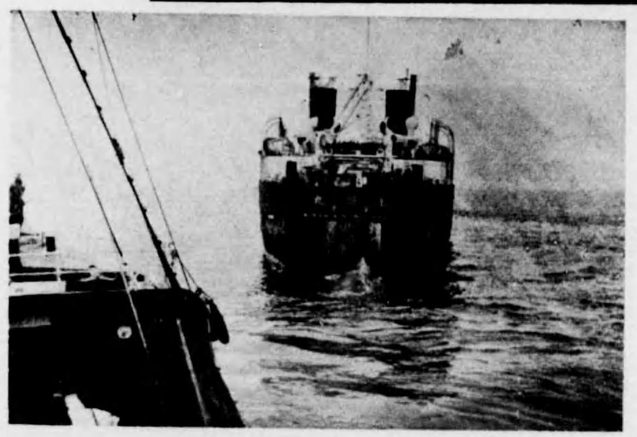


南氷洋ノ氷山（北氷洋ト異リ上部ノ平ラナルモノ多シ）

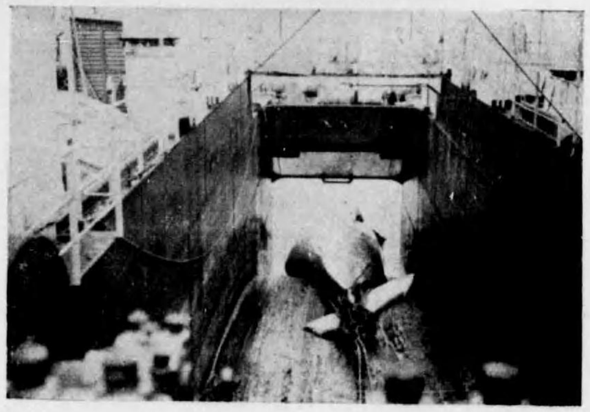
南氷洋ノ氷山



母船ノ船尾ニ繫レタ白長須鯨

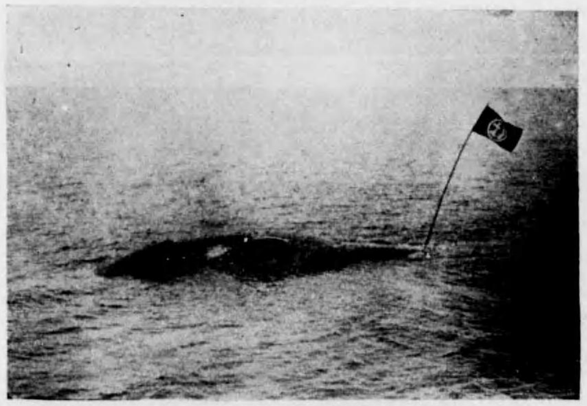


鯨體ノ曳揚ゲ

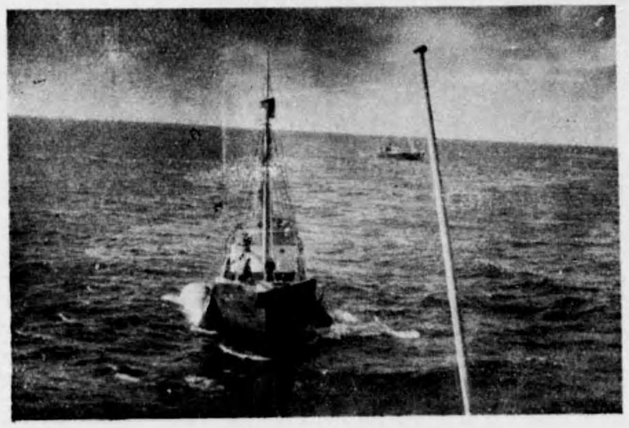


鯨體ノ曳揚ゲ

捕獲シタ鯨體ニ壓搾空氣ヲ送ル

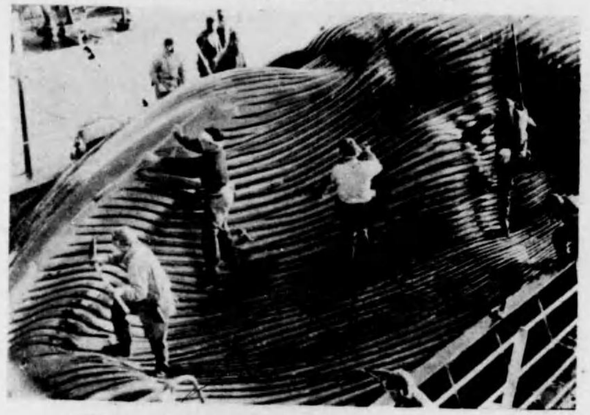


次ニ日印シノ旗ヲ立テタ



獲物ヲ曳イテ母船ニ到着シタ捕鯨船

母船ノ甲板上ニ曳揚ゲラレタ白長須鯨

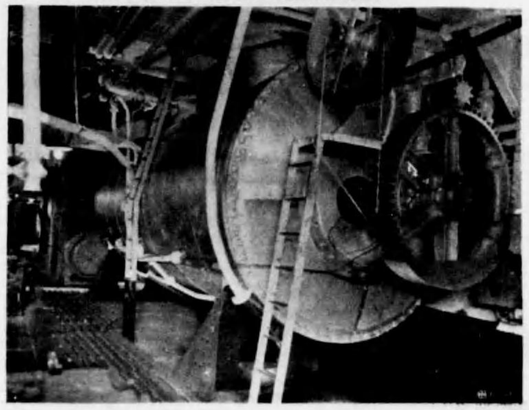


解剖開始（白長須鯨下顎部）

鯨解剖（先ヅ皮ヲ剝イデ）

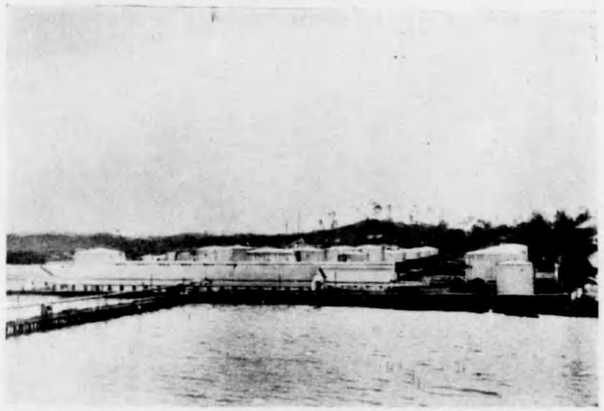
吊リ揚ゲタ晒

白長須鯨ノ上鰭



製油工場ノ一部（クワナー、ボイラー）

無聊ヲ慰メルペンギン鳥



寄港地　バリックパパン（ボルネオ島東海岸）

ロッテルダムニ於ケル鯨油ノ陸揚ゲ

第一　我國の捕鯨業

（一）沿岸捕鯨業

本邦に於ける捕鯨は相當古くより行はれてゐたもので、既に鎌倉時代の初期に於て突取法が行はれてゐたと傳へられてゐる。突取法は其後紀州、四國九州等各地の沿岸で行はれてゐたが、延寶年間に至り肥前大村に於て地形を利用し網を用ひて鯨を捕獲する所謂網取法が行はるゝに至つた。同法は文政天保、嘉永の頃には其の最盛期に達し全國に約四十箇所の捕鯨場を見るに至つたが、其の後漸次衰へ、諸威式捕鯨が行はるゝに至り全く其の跡を絶つに至つた。尙天保年間に於ては米國捕鯨船の本邦近海に來漁するもの多く、時に三百隻にも達し、これに刺戟されて房州の人關澤明清氏は所謂亞米利加式捕鯨法を金華山沖に試みたが遂に成功するに至らなかつた。

本邦に於ける諸威式捕鯨業は明治三十二年日本遠洋漁業株式會社の創立により初まつたもので、其の起因は「ロシヤ」の捕鯨船に刺戟された結果である即ち「ロシヤ」は明治二十四年以來浦鹽に捕鯨會社を設立し、韓國の特許を得て朝鮮沿岸にて捕鯨に從事し、鯨肉は多量に之れを長崎に輸送し巨利を博しつゝあつたのである。玆に於て、露國捕鯨船の我國近海にて操業を恣にするを默視するに忍びず、山口縣人岡十郎氏發起し前記捕鯨會社を設立し、捕鯨船長周丸（總噸數122噸27）を建造して操業を開始したのである。これ實に本邦に於ける諸威式捕鯨業の起源であり且同船は本邦に於て最初に建造せられた捕鯨汽船である。同社は何分初めてのことゝて、最初は經營面白からざりしも漸次回復して相當の收益を見るに至つた。これに刺戟せられて、他にも捕鯨會社の設立を企てる者多く、殊に日露戰役に於て露國捕鯨船隊は全部本邦に拿捕せられて全滅し本邦の獨占する處となり且拿捕した捕鯨船、處理船等は民間に貸下げられ、日露戰役後には急激に發展して、其數は十二會社

にも達した。而して多數の同業會社の濫興は健全なる斯業の發展を害すること多く且鯨族の蕃殖保護上も面白くないので、斯業の大合同を企て、明治四十二年以來着々實行せられた。又時の農商務省も明治四十二年十月二十一日省令を以て捕鯨取締規則を制定し且許可すべき捕鯨船數も三十隻以内に限定した。右制限隻數は其後昭和九年に至り更に制限して二十五隻以内とし今日に及んでゐる。

(二) 母船式鯨漁業

本邦の母船式捕鯨業は昭和九年時の日本捕鯨株式會社が諾威より捕鯨母船「アンタークチツク」號を購入し、同年本邦へ廻航の途中南氷洋に赴いたのを以て嚆矢とする。「アンタークチツク」號は其後船名を圖南丸と改め引續いて毎年南氷洋に出漁してゐる。

昭和十一年には大洋捕鯨株式會社の日新丸が川崎造船所に於て建造せられた。右は本邦に於て最初に建造せられた捕鯨母船である。而して同年には圖南丸日新丸の兩船が南氷洋に出漁した。

昭和十二年に於ては更に大洋捕鯨株式會社第二日新丸及日本水産株式會社第二圖南丸が夫々川崎造船所及大阪鐵工所に於て建造せられ、同年は合計四隻が南氷洋に出漁した。

昭和十三年には第三圖南丸及極洋捕鯨株式會社極洋丸の二隻が新たに建造せられ合計六隻が出漁した。

以上の如く現在本邦に於て母船式捕鯨業を營みつゝあるものは日本水産株式會社、大洋捕鯨株式會社及極洋捕鯨株式會社の三社であるが右の外未だ着業し居らざるも捕鯨母船二隻の許可を受有するものに大日本捕鯨株式會社(設立準備中)がある。

(三) 本邦捕鯨會社一覽表

社名	設立年月日	資本金	拂込金	代表者氏名	會社所在地	備考
日本水産株式會社	大正14年11月1日	9,300萬圓	6,748萬圓	田村啓三	東京市芝區田村町1丁目2番地	沿岸及母船式捕鯨
大洋捕鯨株式會社	昭和11年6月9日	1,500萬圓	1,250萬圓	中部幾次郎	東京市麹町區丸ノ内2丁目2番地1	母船式捕鯨
株式會社林兼商店	大正13年9月1日	1,500萬圓	1,250萬圓	中部幾次郎	山口縣下關市大字竹崎町66	沿岸捕鯨
極洋捕鯨株式會社	昭和12年9月3日	2,000萬圓	500萬圓	山地土佐太郎	東京市麹町區丸ノ内2丁目2番地1	母船式捕鯨
鮎川捕鯨株式會社	大正14年7月1日	30萬圓	30萬圓	山地土佐太郎	東京市麹町區丸ノ内2丁目2番地1	沿岸捕鯨
遠洋捕鯨株式會社	昭和5年8月28日	30萬圓	30萬圓	後藤喜三郎	東京市神田區旭町2番地	沿岸捕鯨
大日本捕鯨株式會社	(設立中)	5,000萬圓	1,250萬圓	樺山資英	東京市日本橋區2丁目1番地	母船式捕鯨

（四） 捕鯨船一覽表（沿岸捕鯨）

船名	許可番號	總噸數	速力	馬力	進水年	造船地	附屬會社名
		噸	浬	馬力			
鮎川丸	97	181.97	11	550	大正14年	大阪市	鮎川捕鯨株式會社
鯨洋丸	99	197.39	10	550	大正元年	英國ミドルスボロー	遠洋捕鯨株式會社
第一捕鯨丸	103	97.04	9	180	明治36年	諾威クリスチヤニヤ	日本水産株式會社
第三捕鯨丸	104	102.49	9	230	〃	〃	〃
レツクス丸	106	109.43	9	290	〃 35年	〃	〃
曙丸	107	109.91	10	290	〃 39年	〃	〃
第二東郷丸	108	110.47	8	270	〃 35年	〃	〃
第一東郷丸	109	107.24	10	290	〃 39年	〃	〃
第一大平丸	110	106.78	9	290	〃	〃	〃
漣丸	111	107.37	9	280	〃	〃	〃
第二博運丸	112	109.05	10	300	〃	〃	〃
第一博運丸	113	108.01	10	300	〃	〃	〃
第六捕鯨丸	114	126.31	9	310	〃 40年	大阪市	〃
昭和丸	115	187.88	10	500	昭和 3年	諾威オスロー	〃
諏訪丸	116	112.11	9	270	明治40年	諾威クリスチヤニヤ	〃
第一元日丸	117	211.98	12	580	大正15年	大阪市	〃
色丹丸	118	207.13	10	580	大正元年	英國ミツドルスボロー	〃
第二昭和丸	119	195.37	10	520	昭和 5年	諾威オスロー	〃
第五昭和丸	120	219.83	10	700	大正13年	英國ミツドルスボロー	〃
擇捉丸	121	207.11	9	640	〃 元年	〃	〃
福志滿丸	122	109.98	9	290	明治36年	諾威クリスチヤニヤ	株式會社林兼商店
丸三丸	123	103.03	10	290	〃 40年	〃	〃
第一大東丸	124	109.44	10	290	〃	〃	〃
第六昭和丸	126	217.41	9	740	大正14年	諾威トンスバルグ	日本水産株式會社
長門丸	127	279.33	10	990	昭和11年	函館市	株式會社林兼商店

（五） 鯨漁根據地一覽表

一、日本水産株式會社

根據地　　所在地

（イ） 内地

加熊別事業場	北海道幌筵島加熊別
紗那	北海道紗那郡紗那村字内岡海岸
單冠	北海道擇捉郡留別村内保
斜古丹	北色丹郡色丹村字斜古丹
網走	北海道網走郡網走町築港埋立地
霧多布	北海道厚岸郡濱中村字霧多布
鮫	青森縣八戸市大字鮫町
釜石事業場	岩手縣上閉伊郡釜石町大字釜石字瀧ノ澤
鮎川	宮城縣牡鹿郡鮎川村大字鮎川濱
小笠原	東京府小笠原島父島大字清瀬
大島	和歌山縣東矢婁郡大島村
外ノ浦	宮崎縣南那珂南郷村大字潟上字魚見海岸埋立地
呼子	佐賀縣東松浦郡呼子村大字加部島字小濱3943ノ2
大河内	長崎縣上縣郡豊崎村大字河内字藤内ケ内
壹岐	長崎縣壹岐郡田河村大字諸吉本村
有川	長崎縣南松浦郡有川町有川郷字鯨見山
久根津	鹿兒島縣大島郡東方村大字久根津

（ロ） 植民地

札塔	樺太長濱郡内知床村大字札塔
蔚山	朝鮮慶尚南道蔚山郡長生浦
濟洲島	朝鮮全羅南道濟州島西歸浦

大黑山島	朝鮮全羅南道務安郡大黑山島曳望
大青島	朝鮮黃海道長淵郡白翎面大青島
大板埼	臺灣高雄州恒春郡大板埼

二、株式會社林兼商店

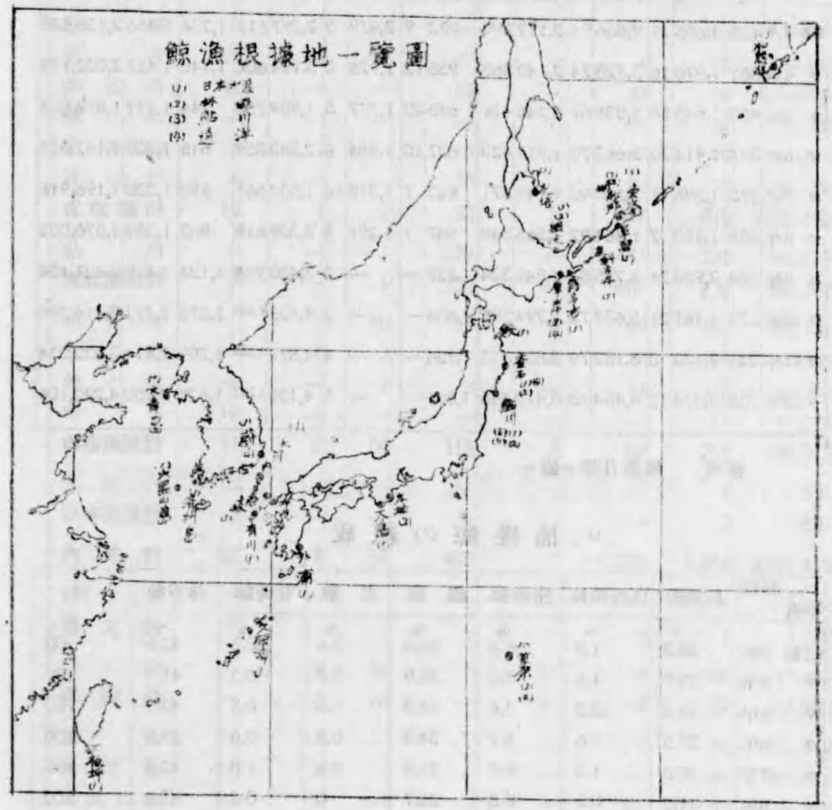
紗那	北海道千島國紗那郡紗那村大字有萌村1番地1號
網走	北海道網走郡網走町港內埋立地
厚岸	北海道厚岸郡厚岸町大字眞龍町20
釜石	岩手縣上閉伊郡釜石町大字釜石第一地割字東內ノ內小色濱
鮎川第一	宮城縣牡鹿郡鮎川村大字一八成濱字松下海岸
鮎川第二	宮城縣牡鹿郡鮎川村大字鮎川濱字松下海岸
小笠原	東京府小笠原島母島北村字東臺186
太地	和歌山縣東牟婁郡太地町大字太地海岸

三、鮎川捕鯨株式會社

蘂取	北海道千島國蘂取郡蘂取村大字蘂取村ポロサン
鮎川	宮城縣牡鹿郡鮎川村大字鮎川濱字清崎横川

四、遠洋捕鯨株式會社

紗那	北海道紗那郡紗那村
厚岸	北海道厚岸郡厚岸町大字眞龍町20
釜石	岩手縣上閉伊郡釜石町大字釜石第一地割
鮎川	宮城縣牡鹿郡鮎川村大字18成濱字長谷濱



（六） 最近十ヶ年間統計 （沿岸捕鯨）

イ、鯨種別捕獲頭數及一頭當り價格

年次＼鯨種	長須鯨		白長須鯨		座頭鯨		鰮鯨		克鯨		背美鯨		抹香鯨		計	
	頭數	1頭當價格	頭數	1頭當價格	頭數	1頭當價格	頭數	1頭當價格	頭數	1頭當價格	頭數	1頭當價格	頭數	1頭當價格	頭數	總價格
昭和3年	425	1,655	19	2,856	91	2,117	299	982	9	2,579	5	2,297	617	1,236	1,465	2,136,628
〃 4年	381	1,910	16	3,728	74	2,140	363	935	12	1,978	5	3.194	606	1,140	1,457	2,032,175
〃 5年	400	1,645	56	2,836	62	2,145	411	695	30	1,777	5	1,989	753	744	1,717	1,858,803
〃 6年	337	1,414	20	2,662	70	1,317	423	637	10	1,984	8	2,352	359	618	1,225	1,141,631
〃 7年	270	1,526	17	2,240	90	1,149	371	693	7	1,318	14	1,533	561	592	1,330	1,196,916
〃 8年	288	1,850	7	1,864	92	1,565	349	987	1	1,296	3	2,329	618	863	1,358	1,576,032
〃 9年	284	2,933	24	3,755	57	1,945	324	1,528	—	—	2	3,450	788	1,124	1,479	2,421,104
〃 10年	273	4,161	21	5,637	78	2,794	392	1,634	—	—	2	4,428	1,005	1,078	1,771	3,114,396
〃 11年	241	4,132	3	8,152	79	3,826	352	1,754	—	—	4	4,879	1,135	1,209	1,814	3,332,014
〃 12年	302	3,374	12	6,454	73	3,410	445	1,881	—	—	5	4,155	1,213	1,628	2,050	4,292,106

備考　鯨漁月報ニ據ル

ロ、捕獲鯨の組成

年次＼鯨種	長須鯨	白長須鯨	座頭鯨	鰮鯨	克鯨	背美鯨	抹香鯨	計
	%	%	%	%	%	%	%	%
昭和 3年	28.3	1.3	6.3	20.6	0.6	0.3	42.6	100
〃 4年	25.9	1.1	5,0	25.9	0.7	0.3	41.1	100
〃 5年	23.3	3.2	3.6	23.9	1.8	0.3	43.9	100
〃 6年	27.5	1.6	5.7	34.5	0.8	0.6	29.3	100
〃 7年	20.3	1.3	6.8	27.9	0.5	1.0	42.2	100
〃 8年	21.2	0.5	6.8	25.7	0	0.2	45.6	100
〃 9年	19.2	1.6	3.9	21.9	—	0.1	53.3	100
〃 10年	15.4	1.2	4.4	22.1	—	0.1	56.8	100
〃 11年	13.3	0.2	4.3	19.4	—	0.2	62.6	100
〃 12年	14.8	0.6	3.6	21.3	—	0.2	59.5	100

（七） 昭和十二年度捕鯨狀況 （沿岸捕鯨）

イ、根據地別捕獲頭數

根據地＼鯨種	長須鯨	白長須鯨	座頭鯨	鰮鯨	背美鯨	抹香鯨	計	價格
紗那	3	—	—	—	1	488	452	939,041
單冠	41	—	2	27	1	4	75	182,502
斜古丹	21	—	—	18	—	35	74	214,259
藥取	—	—	—	—	—	67	67	150,020
鬱多布	5	1	—	15	—	49	70	160,573
厚岸	6	—	—	33	—	38	77	181,100
北海區計	**76**	**1**	**2**	**93**	**2**	**641**	**815**	**1,827,495**
鮎川	3	—	1	239	—	487	730	956,767
東北海區計	**3**	**—**	**1**	**239**	**—**	**487**	**730**	**956,767**
小笠原	—	1	50	56	2	59	167	388,741
大島	—	5	3	57	1	7	73	123,855
外ノ浦	—	—	1	—	—	14	15	19,903
呼子	11	—	—	—	—	—	11	73,074
西南海區計	**11**	**6**	**54**	**113**	**3**	**80**	**267**	**605,573**
大河內	2	—	—	—	—	—	2	7,591
日本海區計	**2**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**2**	**7,591**
內地計	**92**	**7**	**57**	**445**	**5**	**1,208**	**1,814**	**3,397,426**
樺太	1	—	—	—	—	—	1	1,370
樺太計	**1**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**1**	**1,370**
臺灣	—	2	16	—	—	4	22	67,938
臺灣計	**—**	**2**	**16**	**—**	**—**	**4**	**22**	**67,938**
蔚山	81	—	—	—	—	1	82	323,642
濟州島	57	2	—	—	—	—	59	205,556
大黑山島	71	1	—	—	—	—	72	296,174
朝鮮計	**209**	**3**	**—**	**—**	**—**	**1**	**213**	**825,372**
植民地計	**210**	**5**	**16**	**—**	**—**	**5**	**236**	**894,680**
總計	**302**	**12**	**73**	**445**	**5**	**1,213**	**2,050**	**4,292,106**

ロ、月別捕獲頭數及一頭當價格表

年次＼鯨種	長須鯨		白長須鯨		座頭捕		鱈鯨		背美鯨		抹香鯨		捕獲數頭計
	頭數	一頭當價格	頭數	一頭當價格	頭數	一頭當價格	頭數	一頭當價格	頭數	一頭當價格	頭數	一頭當價格	
1 月	16	5,164	4	8,067	17	4,859	8	3,745	—	—	36	1,232	81
2 月	18	4,644	1	3,872	24	3,506	16	1,263	—	—	24	1,434	83
3 月	15	4,018	1	9,827	17	2,721	29	1,837	2	4,821	65	983	129
4 月	19	3,860	1	4,547	9	2,779	7	1,508	—	—	69	1,734	105
5 月	13	3,729	1	5,544	4	2,013	11	1.189	2	3,220	142	1,823	173
6 月	11	2,656	—	—	1	1,463	22	1,527	—	—	320	1,269	262
7 月	17	2,479	1	3,245	1	1,421	106	1,351	1	4,894	136	1,634	354
8 月	36	3,235	—	—	—	—	133	1,486	—	—	154	2,086	323
9 月	39	4,602	—	—	—	—	10	2,163	—	—	96	2,344	145
10 月	86	3,282	2	5,084	—	—	37	2.662	—	—	93	1,408	218
11 月	29	3,990	1	7,985	—	—	59	3,239	—	—	55	1,454	144
12 月	3	8,727	—	—	—	—	7	3,889	—	—	23	2,987	33
計	302	—	12	—	73	—	445	—	5	—	1,213	—	2,050

（八） 鯨生產品價格表（岸沿捕鯨）（單價は鯨油は噸當り其他は百斤當り價格とす）

品名＼年次	昭和十一年			昭和十二年		
	數量	單價	金額	數量	單價	金額
食用赤肉	12,896,704 斤	10.96 円	1,413,940 円	14,447,681 斤	12.89 円	1,829,814 円
肥料赤肉	8,728,545	.44	83,314	5,956,085	.87	29,926
生皮畝類	5,729,878	5.76	227,518	229,115	13.61	288,398
鹽藏畝類	4,186,661	12.72	532,418	3,833,528	14.16	542,955
煎粕	1,611,358	11.26	181,402	1,589,861	13.69	217,701
長須油	871 噸	179.58	156,416	965.93 噸	249.19	240,703
抹香鯨	3,448 噸	243.14	838,356	4,543.22 噸	304.01	1,381,206
其他雜品	6,228,677 斤	1.33	82,808	11,562,576 斤	1.74	200,853
計	—	—	3,516,172	—	—	4,764,556

（九） 各種鯨處理一覽（沿岸捕鯨）

一、白長須（つゞく）

品名＼體長	八〇尺	七五尺	七〇尺	六五尺	六〇尺	五五尺	五〇尺	四五尺	備考
赤肉	6,080 貫	5,120 貫	4,320 貫	3,680 貫	2,880 貫	2,080 貫	1,440 貫	960 貫	食料
胸板	640	480	400	320	240	192	144	112	上等食料
須ノ子	1,200	1,008	800	608	432	304	208	160	罐詰食料
剝	1,600	1,280	960	720	560	448	336	224	食用なるも時には肥料
切出	288	240	192	144	112	80	64	48	同
皮	1,920	1,600	1,280	960	800	672	560	448	鹽漬用
厚皮	1,280	960	720	560	400	240	144	96	製油用
畝腮	1,360	1,120	912	752	496	352	272	208	鹽藏用
尾羽	192	160	128	104	80	61	46	37	同
立羽	48	40	32	27	22	18	13	8	同
傳胴	128	104	80	56	32	21	16	11	同
廻	31	27	22	18	14	11	8	5	食料
筋	27	24	21	18	14	11	8	5	鹽藏用
咭	368	320	272	224	176	112	72	48	食料
骨	2,080	1,600	1,280	1,040	960	800	640	480	製油
臟腑	960	800	640	496	368	256	160	96	肥料
臟油肉	880	720	560	400	240	128	96	48	製油
鬚	96	80	67	54	42	29	16	8	工藝品
蒸骨	624	480	384	312	288	240	192	144	肥料
トシ粕	32	27	22	18	13	8	3	2	食肥料
臟粕	128	96	64	40	24	13	10	5	肥料
皮粕	320	240	180	140	100	60	36	24	同
咭粕	88	80	68	56	44	28	18	12	食料
咭油	13 函	20 函	17 函	14 函	10 函	6 函	4 函	2.5 函	食料
皮油	80	57	40	31	22	13	7	5	肥料
骨油	60	40	28	20	15	10	6	3	食肥料
臟油	55	45	35	25	15	8	6	3	肥料
計	19,803	16,163	13,070	10,493	8,156	6,055	4,435	3,146	同

備考　鯨油五函は一「バレル」一「バレル」は $\frac{1}{6}$ 噸

二、長　須（つよく）

品名＼體長	七〇尺	六五尺	六〇尺	五五尺	五〇尺	四五尺	四〇尺	三五尺	備考
	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	
赤肉	4,480	3,680	2,880	2,240	1,760	1,280	880	560	
胸板	448	368	120	208	160	128	96	80	
須ノ子	640	480	352	256	192	160	144	128	
剝肉	960	768	576	464	325	240	176	144	
切出	208	160	112	80	48	32	16	8	
皮	1,040	880	736	608	496	400	320	256	
厚皮	560	432	320	224	144	80	48	32	
畝腮	800	640	480	352	256	192	160	128	
尾羽	112	93	75	59	45	35	29	24	
立羽	29	24	19	16	13	10	6	3	
傳胴	56	48	40	32	24	16	8	5	
廻	21	18	13	10	8	6	5	3	
筋	19	16	13	10	7	5	3	2	
咭	224	176	144	96	64	40	24	19	
骨	1,200	1,008	848	720	592	464	352	240	
臓腑	640	480	336	240	160	112	80	48	
臓油肉	400	228	176	96	64	32	16	8	
鬚	53	45	40	29	21	14	10	6	
咭粕	56	44	35	24	16	10	6	5	
皮粕	140	108	80	56	36	20	12	8	
蒸骨	360	302	254	216	178	139	106	72	
トシ粕	21	18	14	11	8	5	2	1	
臓粕	40	29	18	10	6	3	2	1	
	瓩	瓩	瓩	瓩	瓩	瓩	瓩	瓩	
咭油	14	11	9	5	3	2	1.5	1	
皮油	35	27	20	13	8	4	2	1	
骨油	26	19	14	10	7	4	2	1	
臓油	25	18	11	6	4	2	1	0.5	
計	12,250	9,906	7,534	6.306	4,583	3,385	2,479	1.766	

三、鱷　鯨

品名＼體長	五五尺	五〇尺	四五尺	四〇尺	三五尺	三〇尺	二五尺	備考
	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	
赤肉	2,880	2,400	1,920	1,440	960	480	288	
胸板	240	192	160	128	96	64	32	
須ノ子	224	192	144	112	80	48	24	
剝肉	480	368	288	240	192	144	96	
切出	128	112	88	64	48	32	16	
皮	688	560	432	320	224	144	80	
厚皮	208	160	128	96	64	32	16	
畝腮	240	192	144	112	80	56	40	
尾羽	56	48	40	34	27	21	16	
立羽	10	8	6	5	3	2	1	
傳胴	13	11	10	6	5	3	2	
廻	8	6	5	3	2	1	—	
筋	11	8	6	5	3	2	1	
咭	64	56	48	40	32	24	16	
骨	720	592	480	384	288	208	128	
臓腑	352	272	208	160	112	80	48	
臓油肉	224	192	144	96	48	32	16	
鬚	24	19	16	13	10	6	3	
咭粕	16	14	12	10	8	6	4	
皮粕	52	40	32	24	16	8	4	
蒸骨	216	178	144	115	86	62	38	
トシ粕	3	2	2	1	—	—	—	
臓粕	24	19	14	10	5	3	2	
	瓩	瓩	瓩	瓩	瓩	瓩	瓩	
咭油	3.5	3.0	2.5	2.0	1.5	1.0	0.5	
皮油	13	10	8	6	4	2	1	
骨油	15	11	7	5	2	1	—	
臓油	15	12	9	6	3	2	1	
計	6,786	5,566	4.411	3,373	2,360	1,441	861	

四、座　頭　鯨

品名＼體長	五五尺	五〇尺	四五尺	四〇尺	三五尺	三〇尺	二五尺	備考
赤肉	4,480貫	2,400貫	1,920貫	1,440貫	960貫	480貫	288貫	
胸板	240	192	160	128	96	64	32	
須ノ子	224	192	144	112	80	48	24	
剝肉	480	368	288	240	192	144	96	
切出	128	112	88	64	48	32	16	
皮	688	560	432	320	224	144	80	厚皮ノミヲ採取スルモノトス
厚皮	208	160	128	96	64	32	16	
畝聰	240	192	144	112	80	56	40	
尾羽	56	48	40	34	27	21	16	
立羽	10	8	6	5	3	2	1	
傳胴	24	19	14	10	6	4	2	
廻	16	13	10	6	4	2	2	
筋	11	8	6	5	3	2	1	
咯	240	190	144	112	80	48	24	
骨	800	640	512	400	288	208	128	
臓腑	672	528	400	288	192	112	64	
臓油肉	400	320	240	160	112	64	32	
鬚	24	19	14	10	6	5	3	
咯粕	60	48	36	28	20	12	6	
皮粕	80	60	40	28	16	8	—	
蒸骨	240	192	154	120	86	62	38	
トシ粕	8	6	5	3	2	1	—	
臓粕	40	32	24	16	11	6	3	
咯油	13瓩	11瓩	8瓩	6瓩	4瓩	2瓩	1瓩	
皮油	18	13	9	6	3	1.5	—	厚皮ノミヲ採取スルモノトス
骨油	10	8	6	4	2	1	—	
臓油	25	20	15	10	7	4	2	
計	9,181	6,161	4,844	3,668	2,551	1,530	903	

五、抹　香　鯨

品名＼體長	六〇尺	五五尺	五〇尺	四五尺	四〇尺	三五尺	三〇尺	二五尺	備考
赤肉	2,880貫	2,240貫	1,760貫	1,360貫	1,040貫	720貫	480貫	320貫	
胸板	240	192	144	96	56	24	16	8	
剝肉	560	480	400	320	256	192	128	80	
切出	240	192	160	128	96	64	32	16	
床肉	2,560	1,760	1,120	720	480	320	192	112	
皮	3,200	2,720	2,240	1,760	1,280	880	560	320	
頭皮	800	560	400	272	192	144	112	80	
尾羽	192	144	112	88	64	48	32	21	
立羽	29	24	19	16	13	10	6	3	
廻	16	13	10	6	5	3	2	1	
筋	16	13	10	6	5	3	2	1	
千筋	32	27	22	18	13	8	3	—	乾燥重量
骨	960	800	640	528	400	320	240	160	
臓腑	352	272	192	144	96	64	40	24	
臓油肉	320	272	224	176	128	80	32	16	
齒	10	6	5	3	2	2	1	—	
皮粕	800	680	560	440	320	220	140	80	
蒸骨	288	240	162	158	120	96	72	48	
臓粕	32	27	22	18	13	8	3	2	
臓油	150瓩	120瓩	9瓩	60瓩	30瓩	15瓩	8瓩	4瓩	
皮油	180	153	126	99	64	44	28	16	
骨油	15	10	6	4	2	1	0.5	—	
臓油	20	17	14	11	8	5	2	1	
計	14,095	11,045	8,458	6,339	4,516	4,300	2,022	1,246	

六、克　　鯨

體長 / 品名	四五尺	四四尺	四二尺	四〇尺	三七尺	三五尺	三〇尺	備考
赤肉	1,760貫	1,440貫	1,200貫	960貫	752貫	640貫	480貫	
剝肉	240	208	192	176	160	120	64	
眉肉切出	160	160	160	144	120	96	96	
胸板	192	260	120	88	72	56	48	
皮	1,760	1,600	1,280	1,120	1,040	800	640	
尾羽	88	77	72	64	59	40	27	
立羽	48	45	40	32	29	24	13	
廻	13	10	8	8	6	6	5	
皓身	88	80	77	72	64	42	16	
臟肉	640	544	400	256	208	160	112	
臟腑	136	128	112	104	96	80	64	
百尋	96	88	80	77	72	64	48	
筋	5	4	4	3	3	2	2	
骨	464	448	400	368	352	304	256	
鬚	4	4	3	3	3	2	1	
蒸骨	11	10	8	8	6	6	4	
計	5,705	5,006	4,156	3,483	3,042	2,442	1,876	

（十）南氷洋母船式鯨漁業許可一覽表（昭和十三年）

漁業者	許可年月日	漁船名	總噸數	附屬捕鯨船數
日本水産株式會社	昭和9年11月27日	圖南丸	9,866噸	6隻
同		第二圖南丸	19,425	8
同		第三圖南丸	19,209	8
同		第四號母船未定		8
大洋捕鯨株式會社	昭和11年7月1日	日新丸	16,764	10
同		第二日新丸	17,553	9
同		第三號母船未定		9
極洋捕鯨株式會社	昭和12年9月17日	極洋丸	17,548	9
大日本捕鯨株式會社設立發起人	昭和12年6月18日	第一號母船未定	18,000（計畫）	10
同		第二號母船未定	18,000（計畫）	10

（十一）捕鯨母船及附屬捕鯨船一覽表

（イ）母船一覽表（昭和十三年）

會社名	母船名	總噸數	附屬捕鯨船數	製油設備 プ	ハ	ク	フ	備考
日本水産株式會社	圖南丸	9,866.05	5隻	13	3	2	—	
	第二圖南丸	19,425.09	8隻	—	4	12	—	
	第三圖南丸	19,209.71	8隻	—	4	14	—	
大洋捕鯨株式會社	日新丸	16,764.31	10隻	23	6	—	—	
	第二日新丸	17,558.61	9隻	—	4	4	3	
極洋捕鯨株式會社	極洋丸	17,548.83	9隻	—	4	8	—	
計	六隻	100,367.15	49隻	36	25	40	3	

註　プ……プレスボイラー
　　ハ……ハートマンボイラー
　　ク……クワイーボイラー
　　フ……フアウトボイラー

（ロ） 附屬捕鯨船一覽表 （昭和十三年）

母船	船名	船舶番號	大サ 總噸數	大サ 馬力	備考
圖南丸	第三昭和丸	39662	222.34	750	
	第七昭和丸	41979	264.44	750	
	第八昭和丸	41980	264.44	750	
	第十昭和丸	41981	264.44	750	
	第一昭南丸	45072	350.50	1,000	
第二圖南丸	第一拓南丸	43502	343.46	990	
	第二拓南丸	43503	343.46	990	
	第三拓南丸	43628	343.46	990	
	第五拓南丸	43629	343.46	990	
	第六拓南丸	43932	343.46	990	
	第七拓南丸	43933	343.46	990	
	第八拓南丸	43652	343.46	990	
	第十拓南丸	43653	343.46	990	
第三圖南丸	第二昭南丸	45073	350.50	1,000	
	第三昭南丸	45089	350.50	1,000	
	第五昭南丸	45090	350.50	1,000	
	第六昭南丸	45142	355.79	1,000	
	第七昭南丸	45143	355.79	1,000	
	第八昭南丸	45144	355.79	1,000	
	第十昭南丸	45136	350.50	1,000	
	第十一昭南丸	45137	350.50	1,000	
日新丸	玉丸	42349	264.14	770	
	第二玉丸	42339	264.14	770	
	第三玉丸	42332	257.50	790	
	第五玉丸	42333	257.50	790	
	第六玉丸	42329	275.26	790	
	第七玉丸	42330	275.26	790	
	第八玉丸	42334	279.33	790	
	長門丸	42335	279.33	790	
	第三利丸	43860	298.82	790	デイゼル船
	第二關丸	45495	359.74	920	〃
第二日新丸	利丸	43946	293.97	790	

	第二利丸	43347	293.97	790	
	第五利丸	43861	298.82	790	
	第六利丸	43862	297.75	870	
	第七利丸	43863	297.75	870	
	第八利丸	43864	297.75	870	
	第十一玉丸	43865	297.75	870	
	關丸	43991	297.80	710	デイゼル船
	文丸	45433	359.74	920	〃
極洋丸	第一京丸	44389	340.90	960	
	第二京丸	45132	340.91	990	
	第三京丸	45155	341.53	990	
	第五京丸	45201	341.53	990	
	第六京丸	45092	340.90	970	
	第七京丸	45093	340.88	970	
	第八京丸	45128	340.83	970	
	第十京丸	45134	340.90	970	
	第十一京丸	45199	385.05	1,300	

（十二） 母船式鯨漁業成績

年次	母船名	會社名	附屬捕鯨船數	捕獲頭數 白長須	捕獲頭數 長須	捕獲頭數 座頭	捕獲頭數 計	鯨油生産量	價格
			隻					噸	圓
昭和9—10年度	圖南丸	日本水産株式會社	3	125	83	4	213	2,006	473,639
昭和10—11年度	圖南丸	同	5	456	174	9	639	7,358	2,180,149
昭和11—12年度	圖南丸	同	5	589	166	94	849	10,809	3,662,277
	日新丸	大洋捕鯨株式會社	8	807	279	30	1,116	15,280	5,000,000
	計		13	1,396	445	124	1,965	26,089	概算 8,662,277
昭和12—13年度	圖南丸	日本水産株式會社	5	399	361	89	850	10,025	
	第二圖南丸	同	8	637	1,048	148	1,833	20,085	
	日新丸	大洋捕鯨株式會社	9	640	769	177	1,586	18,540	
	第二日新丸	同	9	718	518	59	1,296	15,394	
	計		31	2,394	2,696	473	5,565	64,044	

第二 世界の捕鯨業

(一) 帆船捕鯨業

イ、歐洲に於ける捕鯨業

歐洲に於ける捕鯨業も相當古くより行はれて居り殊に「ビスケー」灣沿岸の住民は最も早くより捕鯨を行ひつつあつたもので、其の起源は詳かでないが既に十二世紀時代に捕鯨に對し課税を爲したる等の記錄も存してゐる。然しながら當時の捕鯨は規模も極めて小さく生産額も僅少で産業的には未だ重要のものではなかつた。

然るに十七世紀に至り北歐「スピツツベルゲン」の漁場が發見せられてからは躍進的に發展して捕鯨業は歐洲に於ける重要産業の一となつた。

「スピツツベルゲン」は諸威北方の北氷洋中に存在する島で、同島附近に鯨の豐富なることは英國探險隊の發見した所である。即ち十五世紀末「コロンブス」が「アメリカ」大陸を發見して以來各國の航海業は頓に勃興したのであるが、適々北氷洋を通過して東洋に出でんとした英國探險隊は結局其の目的を達成することは出來なかつたが計らずも「スピツツベルゲン」附近の海面に多數の鯨の棲息することを發見し歸國後右の事實を報告した爲捕鯨業者の奮起を促し遂に1610年英國「ムスコビー」會社は調査の爲捕鯨船二隻を出漁せしめた。其の結果鯨族の豐富なることを認め引續いて多數の捕鯨船を同方面に出漁せしめた。

英國捕鯨船の好成績は他國をも刺戟し和蘭、丁抹、佛蘭西等よりも捕鯨船を出漁せしめるに至つた。就中和蘭は多數の捕鯨船と之が警備の任に當る軍艦とを送り英國、和蘭兩國間に激烈なる國際鬪爭を起すに至つた。

初期に於ては英國が最も成功を收めて居たが、漸次和蘭が勢力を得て1623

年には「スピツツベルゲン」に家屋處理場其の他の材料を運搬し初めて陸上に作業場を設け同地を「スミレンブルグ」と命名した。

丁抹、佛蘭西等も多數の捕鯨船を出漁せしめ、此の方面の捕鯨業は急激に發展し「アムステルダム」「ロツテルダム」「ホルン」「エンクイゼン」「フラツシング」ミドルスブルグ」「デルフト」等の諸港は捕鯨船の出港の爲殷盛を極め「スピツツベルゲン」に於ても各國共に上陸作業場を設け製油場、炊事場等も完備せられ寺院迄も設けられるに至つた。事實「スミレンブルグ」繁榮時代には各國より合計一千隻以上の捕鯨船が出漁したと謂はれ一大國際漁場を現出した。

然るに濫獲の結果は漸次漁場の荒廢を來し凋落の傾向を示すに至つた。此處に於て和蘭捕鯨業者は更に「グリーンランド」「アイスランド」「ダビス」海峽等に迄出漁し、和蘭は十八世紀の初期迄北大西洋に於て捕鯨に覇を唱へて居つた。英國は和蘭の爲壓迫せせられて殆んど屏息狀態になつたのであるが當時和蘭其の他より英國に輸入せらるる鯨鬚及鯨油の金額は非常なる額に達し英國政府も之を默視するに忍びず自國捕鯨業發展の爲種々の方策を考究するに至り1720年には關税税金等は免税し、後更に積極的に捕鯨船建造に對しては奬勵金を交付し1749年には一噸當り四十志の奬勵金を交付するに至つた。これが爲英國捕鯨業は再興して「グリーンランド」方面に發展したが長年月に亘り捕鯨が行はれたる爲鯨族のストツクに減少を來し永續するに至らず18世紀に至り終熄するの止むなきに至つた。

ロ、亞米利加に於ける捕鯨業

亞米利加に於ても捕鯨は大西洋岸に於て相當古い時代より行はれてゐたがこれが大成を爲したのは 18 世紀の初期「ナンタケツト」島の捕鯨業者により抹香鯨の漁場が發見せられたのに始まる。爾來亞米利加捕鯨業は抹香鯨をを主目的として發達し「ナンタケツト」「ニユーベツドフオード」等は捕鯨

業の中心地となり繁榮を極めるに至つた。

亞米利加捕鯨業の勃興は歐洲の捕鯨業者をも刺戟し、英國よりも多數の捕鯨船が出漁するに至つた。然しながら北太西洋の漁場は濫獲の結果鯨族のストツク減少せる後であつた爲英米の捕鯨業者は船型を大にし漸次南方に漁場を求め南半球にて操業するに至り、更に「ケープホルン」を廻つて太平洋に出で、日本近海「ベーリング」海峽等にも操業するに至つた。又地方に於ては希望岬を廻つて「マダカスカル」「ジヤバ」「スマトラ」方面にも操業するに至り全世界の海面に亘つて操業せられ、一航海に二年三年と長年月を要するに至つた。而して 1850 年頃には其の最盛期に達したが、一方に於て鯨族は減少を來し且主生產物たる鯨油の價額は石油の發見により著しく低落し、これに反し地方に於ては造船費、勞働賃金等は昂騰して遂に收支相償はざるに至り凋落の止むなきに至つた。

（二） 汽船捕鯨業諸威式捕鯨業

十九世紀迄の捕鯨業は前述した通りであるが、歐洲に於ても亞米利加に於ても何れも二百噸乃至四百噸の帆船を使用し、鯨を發見するや短艇を下し、この短艇によつて鯨を捕獲鯨油及鯨鬚を生產したもので、從つて當時にあつては游泳の速力遲く且殺した場合鯨體は水中に沈下しないで水上に浮ぶものでなければ捕獲の目的とはなり得なかつた。それ故背美鯨、抹香鯨を主として捕獲してゐたのであるが、諸威の「スベンドフオイン」は苦心の結果1864年所謂諸威式捕鯨法を發明した。この方法は現在行はれてゐるもので、即ち汽船を用ひ船首に捕鯨砲を据付け鯨を發見するや之を追尾して捕鯨砲により銛を鯨體に發射し、鯨が斃死せる時は銛に結着せる綱により鯨體を曳き寄せ之を舷側に吊して根據地に歸港するもので、從來捕獲不能とされてゐた白長須鯨、長須鯨、座頭鯨等を捕獲するに至り且鯨體も完全に利用することを得捕鯨業は此處に再興した。幾多の捕鯨會社が設立せられ 1886 年には諸威に

十九の會社と三十五隻の捕鯨船の出現を見るに至つた。

斯くして諸威に於て捕鯨は急激なる勢にて發展したが、諸威沿岸の捕鯨は鰊漁業者の反對に遭ひ遂に一時諸威沿岸で禁止されるに至つた。其の理由とする所は、諸威沿岸に來游する鰊は鯨群に追はれて岸近く迄群來するものであるが、激しき鯨漁により鯨群を追擊する爲鰊漁業を不振ならしめると云ふのであつた。之に對しては學者側の反對があつたのであるが遂に採用せられて禁止せらるるに至つたのである。此處に於て諸威の捕鯨業者は他に漁場を求め「アイスランド」「フアーロー」島等に於て操業したが北太西洋に於ては鯨群の洞游僅少にて永續性少きことを悟り其の他の海面殊に南半球に進出するに至つた。而して新漁場として最初に出漁したのは南アメリカ大陸の南方に存在する南「ジョージヤ」島である。1901 年「ラルセン」氏は南極探險に赴いたのであるが不幸同探險隊は途中遭難し「アルチエンチン」軍艦に救助せられた。而し同氏は同方面に鯨族の棲息豐富なることを認め 1904 年捕鯨會社を設立し南「ジョージヤ」島「グリートヴイケン」に於て事業を開始した。これ實に南氷洋に於ける捕鯨業の嚆矢である。而して其の成績良好であつた爲諸威人により多數の捕鯨會社が設立さるるに至つた。

（三） 母船式捕鯨業

南「ジョージヤ」島方面の捕鯨は急激に發展し、附近の「フオークランド」南「シエツトランド」南「オークニー」等の諸島にも行はれるに至つた。而して此等南氷洋中の諸島に陸上作業場を設置することは諸種の困難が伴ふ爲陸上作業場の代りとして工船が使用せらるるに至つた。當時代の工船は鯨體を其儘船上に曳揚ぐることなく舷側で解剖し、剝ぎ取つた脂皮は之を船上に吊り上げて船内にて採油した。從つて工船は公海にて作業することは不可能にて波靜かな入江、内灣等沿岸附近に碇繫する必要があつた。

然るに此等の諸島は何れも英國政府の所有にて、英國政府は同方面の捕鯨

業に對し許可制度を執るに至つた。即ち捕鯨業自體は諸威人の營む處であつても英國政府の許可を受け之が支配を受ける有樣であつたので、他に漁場を開拓せんとし 1942年「ラルセン」氏は「ロス」海に出漁する計畫を發表した。然るに英國は直ちに「ロス」海沿岸は南緯六十度以南に於ける東經百六十度より西經百五十度間の各島嶼と共に英國の領域なることを宣言し、同方面の捕鯨も許可を受けしむることゝした。此處に於て諸威人は英國政府に許可を出願したのであるが、英國は是以上に許可しないことを條件として右出願を許可した。

右の如き有樣であつたので諸威捕鯨業者は陸地を遠く離れた公海に於て操業する母船式捕鯨業を計畫するに至つた。

從來の工船は鯨體を海中で解剖した爲大江又は内灣に碇泊する必要があつたのであるが、この不便を除く爲工船の船尾に「スリツプウエー」を設け鯨體はこれを其儘工船の甲板上に曳き揚げ此處にて解剖處理する方法が考案せらるるに至つた。「スリツプウエー」は既に 1904 年「クリスチヤニア」の「マルヒ」氏によつて特許がとられたのであるが實際には試みられなかつた。然るに 1924 年に至り初めて工船「ランシング」號に試みられ、同船は 1925 年操業の結果は極めて良好にてこれに刺戟されて南氷洋の公海に於ける母船式捕鯨業は急激に發展した。尙當初にあつては鯨體曳揚の際は陸上作業場の場合と同じく尾部を「ワイヤー」を以て縛り曳き揚げたのであるが、右は公海に於ては作業が極めて困難であつた。然るに 1932 年に至り鋏形の鯨體曳揚用「クロー」が發明せられ作業は一層容易となり今日の如き大成を爲したのである。

而して漁場は太平洋南側の一部を除き南極大陸を廻る南氷洋全般に亘つて操業せられてゐる。又最初は諸威が優位にあつたが英國其の他の諸國もこれを營むに至り、殊に近年は日本及獨逸が躍進的に發展して 1937——38 年度漁期に於ては、國籍別に見れば英國十隻、諸威十一隻、日本四隻、獨逸四隻

米國一隻「パナマ」一隻計三十一隻の母船が南氷洋に出漁した。

本邦の母船式捕鯨に付ては既に述べた通りであるが、諸外國の母船に於ては實際事業に從事する乘組員は殆んど全部諸威人であるが、本邦の母船にあつては數名の砲手を除き他は總て本邦人である。

（四） 國際捕鯨條約及捕鯨取締協定

南氷洋に於ける捕鯨は著々として發達し捕獲頭數は年を追ふて增加したが斯くては鯨族のストツクを減少せしめ、捕鯨業は遂に終熄を告ぐるに至る惧があり又其の他の海面に於ても脊美鯨の如きは中世紀帆船捕鯨時代の濫獲の結果其の洄游は極めて稀となつた爲各國に於て鯨の蕃殖保護が眞劍に考究せらるるに至り 1930 年 4 月伯林に於て專門委員會が開催せられ、各國の專門家が會合して討議した結果國際捕鯨條約が成立した。而して同條約は其の効力發生に關しては諸威及英國の批准を必要條件とした爲永らく効力を發生しなかつたが昭和10年 1 月16日に至り始めて其の効力を發生した。本邦は未だ本條約には加入して居らない。

他方に於て、1930——31 年度漁期に於ては、南氷洋に於ける捕鯨は未曾有の大豊漁にて鯨油の生產過剩に加ふるに油脂市場一般の惡化が原因となつて鯨油の價額は慘落を來した。翌 1931——32 年度漁期に於ては諸威捕鯨船隊は鯨油市價安定の爲大部分は操業を取止めた。爾來每年南氷洋に於ける捕鯨に對しては何等かの制限が加へらるるに至つた。最初は鯨油市場の安定を主目的としてゐたのであるが、最近では鯨族の蕃殖保護も併せて考究せらるるに至つた。

1932——33 年度及 1933——34 年度漁期に於ては大部分の會社間で決議せられた。生產協定に依て制限あられた。

1934——35 年度に於ては生產協定は行はれなかつたが、諸威政府は漁期を十二月一日より翌年三月三十一日迄に制限した。

1935——36 年度に於ては英諾兩國政府間の協定により漁期は更に十二月一日より翌年三月十五日迄に短縮せられた。又兩國當業者大部分の間にも各母船の能力に應じて割當た生産協定が行はれた。

1936——37 年度漁期に關しては 1936 年五月頃より「オスロー」に於て討議が開始せられ英諾兩國の政府並に當業者代表が之れに參加した。而して討議の結果は兩者の意見一致せず遂に兩國間に悶著が生じ、適々當時諾威「サンデフヨルド」の造船所で修理中の英國母船二隻に居た諾威人は同盟罷業を行ふ等事態は惡化したのであるが、接衝の結果遂に同年九月末に至り協定成立し、漁期を十二月八日より翌年三月七日迄とし且母船一隻當捕鯨船の數を五隻乃至七隻に限定した。

1937——38年度漁期に對しては會社間の協定等は行はれなかつたのであるが、鯨族の蕃殖保護は全捕鯨關係國の協調を必要とするとの見地より1937年六月「ロンドン」に於て國際捕鯨會議が開催せられ茲に國際間の捕鯨取締協定が成立したのである。同會議には南阿聯邦、北米合衆國、「アルヂエンチン」濠洲、獨逸、英國、「アイルランド」「ニユージーランド」諸威の各國が參加した。

次で本年六月「ロンドン」に於て再度國際捕鯨會議が開催せられ 1937 年度協定に對して若干の追加及修正が行はれたのである。本年度會議には南阿聯邦、北米合衆國、「アルヂエンチン」濠洲、「カナダ」丁抹「アイルランド」「フランス」獨逸、英國、日本「ニユーフアウンドランド」諸威の各國が代表を派遣し「ポルトガル」は「オヴザーバー」を派遣した。

本邦は昨年度會議には代表者を派遣せず協定にも加入しなかつたのであるが、諸外國は右協定の趣旨を徹底せしむる爲には關係諸國全部の協調を必要とする建前より特に本年は本邦が右會議に參加せんことを希望し、殊に主催國たる英國よりは熱心なる招請があつたのである。我國としては元より鯨族の保護及鯨油市價の安定は充分顧念する所であるが沿岸捕鯨に付ては客年協

定其の儘では之が適用は實情に副はざるものがあり又南氷洋の捕鯨に付ては未だ着業日尚淺く今直ちに先進國同樣高度の制限に服し得ざる特殊事情があるので漸進的に他國と同一歩調を取ることを適當と認むる見地より當初「オヴザーバー」派遣の意向であつたが、其の後の情勢は諸外國の誤解を生ぜしめ種々面白からざる結果を來す虞もあつたので寧ろ進んで帝國の眞意を諸國に認識せしめ誤解を一掃せしむる必要を感じ正式代表を派遣した。

會議に於ては我國の特殊事情を篤と說明し昨年度協定の規定及本年度新提案の事項に付本邦に適用することを不當と認むる點に付修正を要求し改正せられた。結果本邦は明年より協定に參加することとする樣國內法上の必要なる手續を進める用意ある旨並に協定に正式參加する以前に於ても出來得る限り協定の精神に副ふ樣措置する旨を聲明した。

一、世界捕鯨狀況 1919年—37年

年次	南氷洋	北氷洋	アフリカ	北太平洋	日本	カムチヤツカ	其他	計
1919—20	5,441	1,456	1,310	1,763	1,279	—	120	11,369
1920—21	8,448	310	1,263	129	1,487	—	537	12,174
1921—22	7,023	918	2,335	1,356	1,506	—	802	13,940
1922—23	9,910	1,204	3,105	1,363	1,422	—	1,116	18,120
1923—24	7,271	1,667	3,649	1,102	1,526	—	1,624	16,839
1924—25	10,488	1,523	4,384	1,892	1,875	—	3,091	23,253
1925—26	14,219	1,588	4,646	1,804	2,148	—	3,788	28,193
1926—27	12,665	1,403	4,144	2,064	1,546	—	2,353	24,175
1927—28	13,775	1,561	3,835	1,412	1,607	—	1,334	23,524
1928—29	20,341	1,159	3,362	1,241	1,463	—	330	27,896
1929—30	30,167	1,472	3,498	975	1,312	—	250	37,674
1930—31	40,201	703	823	—	1,147	—	—	42,874
1931—32	9,572	827	1,043	319	1,036	—	—	12,797
1932—33	24,327	1,004	1,168	591	1,122	203	253	28,668
1933—34	26,087	583	2,392	1,019	1,436	339	311	32,167
1934—35	31,808	568	3,004	855	1,787	487	745	39,254
1935—36	30,991	705	3,768	857	1,840	501	6,120	44,782
1936—37	34,579	1,843	3,966	730	2,066	418	7,654	51,256

備考 International whaling statistics xl. Oslo 1938に據る

二、國別捕鯨狀況 1928—37年

イ、捕獲頭數

年次	全世界	英國	諸威	パナマ	日本	北米合衆國	丁抹	獨乙	アルセンチン	ソ聯邦	チリー	其他
1928—29	27,896	8,230	14,996	—	1,463	1,107	178	—	1,592	—	約 330	—
1929—30	37,674	12,204	21,609	—	(1) 1,312	655	258	—	1,386	—	約 250	—
1930—31	42,874	13,019	25,952	—	1,147	536	1,046	—	1,174	—	—	—
1931—32	12,797	9,765	797	—	1,036	319	30	—	850	—	—	—
1932—33	28,668	12,940	12,644	—	1,122	382	128	—	996	203	—	253
1933—34	32,167	14,564	13,657	—	1,436	669	123	—	1,139	339	—	240
1934—35	39,254	17,476	16,939	—	2,000	583	117	—	809	487	469	374
1935—36	44,782	19,850	15,670	2,449	2,479	1,989	97	—	944	501	238	565
1936—37	51,256	21,331	15,943	2,389	4,025	3,659	1,022	920	1,014	418	168	367

ロ、捕獲頭數百分比

年次	全世界	英國	諸威	パナマ	日本	北米合衆國	丁抹	獨乙	アルセンチン	ソ聯邦	チリー	其他
1928—29	100.0	29.5	58.8	—	5.2	4.0	0.6	—	5.7	—	約 1.2	—
1929—30	100.0	32.4	57.3	—	3.5	1.7	0.7	—	3.7	—	約 0.7	—
1930—31	100.0	30.4	60.5	—	2.7	1.3	2.4	—	2.7	—	—	—
1931—32	100.0	76.3	6.2	—	8.1	2.5	0.2	—	6.7	—	—	—
1932—33	100.0	45.1	44.1	—	3.9	1.3	0.5	—	3.5	0.7	—	0.9
1933—34	100.0	45.3	42.4	—	4.5	2.1	0.4	—	3.5	1.1	—	0.7
1934—35	100.0	44.5	43.1	—	5.1	1.5	0.3	—	2.1	1.2	1.2	1.0
1935—36	100.0	44.3	35.0	5.5	5.5	4.5	0.2	—	2.1	1.1	0.5	1.3
1936—37	100.0	41.6	31.1	4.7	7.9	7.1	2.0	1.8	2.0	0.8	0.3	0.7

ハ、鯨油生產量（單位バレル）

年次	全世界	英國	諸威	パナマ	日本	北米合衆國	丁抹	獨乙	アルセンチン	ソ聯邦	チリー	其他
1928—29	1,886,082	512,611	1,210,235	—	(2) 7,248	36,120	4,967	—	96,667	—	18,234	—
1929—30	2,799,042	856,797	1,756,221	—	(2) ?	29,437	8,772	—	95,451	—	12,364	—
1930—31	3,686,976	1,131,231	2,316,962	—	16,274	49,360	84,996	—	88,154	—	—	—
1931—32	915,842	803,955	28,590	—	20,230	14,350	—	—	48,717	—	—	—
1932—33	2,596,778	1,180,526	1,317,443	—	21,698	12,580	3,243	—	54,583	6,705	—	—
1933—34	2,573,155	1,190,924	1,253,694	—	22,766	24,800	3,013	—	65,790	12,168	—	—
1934—35	2,691,283	1,288,554	1,239,327	—	42,133	24,629	2,997	—	53,100	19,398	16,633	4,512
1935—36	2,871,117	1,238,688	1,162,742	205,801	74,289	80,991	2,972	—	75,192	18,238	8,789	3,415
1936—37	3,210,671	1,285,954	1,191,772	181,496	189,012	150,433	77,869	61,992	47,377	(3) 16,480	5,925	2,862

二、鯨油生産量百分比

年次	全世界	英國	諸威	パナマ	日本	北米合衆國	丁抹	獨乙	アルゼンチン	ソ聯邦	チリー	其他
1928—29	100.0	27.2	64.1	—	0.4	1.9	0.3	—	5.1	—	1.0	—
1929—30	100.0	30.6	64.2	—	.0	1.1	0.3	—	3.4	—	0.4	—
1930—31	100.0	30.7	62.8	—	0.5	1.3	2.3	—	2.4	—	—	—
1931—32	100.0	87.8	3.1	—	2.2	1.6	—	—	5.3	—	—	—
1932—33	100.0	45.5	50.7	—	0.8	0.5	0.1	—	2.1	0.3	—	—
1933—34	100.0	46.3	48.7	—	0.9	1.0	0.1	—	2.5	0.5	—	—
1934—35	100.0	47.9	46.0	—	1.6	0.9	0.1	—	2.0	0.7	0.6	0.2
1935—36	100.0	43.2	40.5	7.2	2.6	2.8	0.1	—	2.6	0.6	0.3	0.1
1936—37	100.0	40.0	37.1	5.7	5.9	4.7	2.4	1.9	1.5	0.5	0.2	0.1

備考 (1) 一月 —— 十二月の統計

(2) 食用に供する爲鯨油生産量は小額

(3) 報告なきを以て推定

International, whaling statistics xi, Oslo1938に據る

三、南氷洋に於ける捕獲頭數 1928年—37年

年次	全世界	南氷洋		其他	
		頭數	%	頭數	%
1928—29	27,896	20,341	72.9	7,555	27.1
1929—30	37,674	30,167	80.1	7.507	19.9
1930—31	42,874	40,201	93.8	2,673	6.2
1931—32	12,797	9,572	74.8	3,225	25.2
1932—33	28,668	24,327	84.9	4,341	15.1
1933—34	32,167	26,087	81.1	6,080	18.9
1934—35	39,254	31,808	80.0	7,446	19.0
1835—36	44,782	30,991	69.2	13,791	30.8
1936—37	51,256	34,579	67.5	16,677	32.5

備考 International whaling statistics xl, Oslo 1938に據る

四、南氷洋に於ける鯨油生産量 1828年—37年

年次	全世界	南氷洋		其他	
		生産量	%	生産量	%
1928—29	1,886,082 バレル	1,631,340 バレル	86.5	254,742 バレル	13.5
1929—30	2,799,042	2,546,759	91.0	252,283	9.0
1930—31	3,686,976	3,608,348	97.9	78,628	2.1
1931—32	915,841	808,560	88.3	107,282	11.7
1932—33	2,596,778	2,456,462	94.6	140,316	5.4
1933—34	2,573,155	2,395,544	93.1	177,611	6.9
1934—35	2,691,263	2,453,999	91.2	237,284	8.8
1935—36	2,871,117	2,436,338	84.9	434,779	15.1
1934—37	3,210,671	2,658,108	82.8	552,563	17.2

備考 一バレルは$\frac{1}{8}$噸

International whaling statistics xl, Oslo 1938に據る

(五) 世界捕鯨狀況 (漁場別)

1936—37年及1937年夏期

漁場	捕獲頭數							鯨油	陸作業上場	母船	捕鯨船
	白長須	長須	座頭	鰮	抹香	其他	計	生産量			
サウスジョージヤ	121	1,079	17	471	70	—	1,758	(1) 81,629 バレル	2	—	12
南氷洋母船式	14,183	13,302	4,460	19	856	(2) 1	32,821	2,576 479	—	30	184
アフリカ沿岸											
ナタール	67	755	240	64	503	—	1,629	67,979	2	—	16
ケープコロニー	57	398	28	49	207	(3) 43	782	34,515	1	—	13
コンゴ	—	—	298	—	—	—	298	13,778	—	1	4
マダカスカル南岸	4	22	1,223	8	—	—	1,257	53,500	—	1	6
太西洋及北氷洋											

漁場	捕獲頭數 白長須	長須	座頭	鰮	抹香	其他	計	鯨油生産量	陸作業上場	母船	捕鯨船
ポルトガル（アゾア島）	—	—	—	—	80	(4) 208	(5) 288	—	—	—	—
諸威	9	223	—	55	20	(6) 35	342	9,467	4	—	12
フアロー島	6	86	3	9	4	—	108	3,199	1	—	3
アイスランド	1	56	1	—	21	—	79	2,862	1	—	2
グリーンランド西岸	4	9	4	—	—	—	17	—	1	—	1
ニューフアウンドランド	8	439	9	7	19	(2) 1	483	19,075	2	—	5
北太西洋及北氷洋（母船式）											
アイスランド南側	25	198	1	3	37	—	264	9,862	—	1	4
ダビス海峡	3	263	6	97	181	—	550	22,513	—	1	7
北太平洋											
アラスカ	45	170	104	1	56	—	376	17,668	2	—	6
ブリテツシユコロンビヤ	1	44	7	—	265	—	317	14,719	2	—	6
カリホルニヤ	8	14	3	12	—	—	37	1,002	—	1	2
ペルー沿岸	67	97	9	3	3,776	—	3,952	95,831	—	3	22
チリー沿岸	14	33	9	—	112	—	168	5,925 (7)	2	—	(7) 3
カムチヤツカ沿岸	—	142	65	1	198	(8) 12	418	(9) 16,480	—	1	3
日本及朝鮮	12	300	68	435	640	(10) 611	2,066	32,425	8	—	24
西濠洲	—	1	3,242	—	3	—	3,246	131,763	—	2	14
計	14,635	17,631	9,797	1,234	7,048	911	51,25	3,210,671	28	41	349

備考 （1） 一バレルは$\frac{1}{6}$噸、一噸は一、〇一六瓩とす
（2） 背美鯨
（3） 背美鯨七頭、プライド鯨三六頭
（4） 種類不明
（5） 一九三七年一月一日より同年十一月三十日迄の捕獲頭數
（6） 小型鯨數種
（7） 會社に就て確めず
（8） 克鯨一一頭、脊美鯨一頭
（9） 鯨油生産量に付報告なきを以て推定
（10）, 小型鯨數種及脊美鯨五頭
Ientrnation[whaling statistics XI, Oslo 1938に據る

(六) 英國捕鯨狀況

1936—37年及1937年夏期

漁場	捕獲頭數 白長須	長須	座頭	鰮	抹香	其他	計	鯨油生産量	陸作業上場	母船	捕鯨船
サウスジヨウジヤ	56	478	5	184	21	—	744	バレル 34,252	1	—	6
南永洋母船式	5,492	4,407	1,490	2	226	—	11,617	943,570	—	10	65
ケープ、コロニー	57	398	28	49	207	(1) 43	782	34,515	1	—	13
ナタール沿岸	67	755	240	64	503	—	1,629	67,979	2	—	16
マダガスカル南岸	4	22	1,223	8	—	—	1,257	53,500	—	1	6
ダビス海峡	3	263	6	97	181	—	550	22,513	—	1	7
ニユーフアウンドランド	8	439	9	7	19	(2) 1	483	19,075	2	—	5
ブリテイツシユコロンビヤ	1	44	7	—	265	—	317	14,719	2	—	6
ペルー沿岸	67	97	9	3	3,776	—	3,952	95,831	—	3	22
計	5,755	6,903	3,017	414	5,198	44	21,331	1,285,954	8	15	146

備考 （1） 脊美鯨七頭、プライド鯨三六頭
（2） 脊美鯨
Internationl whaling statistics XI, Oslo 1938 に據る

(七) 諸威捕鯨狀況

1936—37年及1937年夏期

漁場	捕獲頭數 白長須	長須	座頭	鰮	抹香	其他	計	鯨油生産量	陸作業上場	母船	捕鯨船
南氷洋母船式	6,081	5,667	2,468	8	514	1	15,039	バレル 1,158,665	—	14	82
コンゴ沿岸	—	—	298	—	—	—	298	13,778	—	1	4
諸威沿岸	9	223	—	55	20	(2) 35	342	9,467	4	—	12
アイスランド南側	25	198	1	3	37	—	264	9,862	—	1	4
計	6,115	6,388	2,767	66	571	36	15,943	1,191,772	4	16	102

備考 （1） 脊美鯨
（2） 小型鯨數種
Internationl whaling statistics XI, Oslo 1938 に據る

(八) 國別及鯨種別捕鯨狀況

1936—37年及1937年夏期

國名	捕獲頭數 白長須	長須	座頭	鰮	抹香	其他	計	鯨油生產量	陸作業上場	母船	捕鯨船
								パレル			
英國	5,755	6,903	3,017	414	5,198	(1) 44	21,331	1,285,954	8	15	146
諾威	6,115	6,388	2,767	66	571	(2) 36	15,943	1,191,772	4	16	102
日本	1,402	745	191	435	641	(3) 611	4,025	189,012	8	2	37
パナマ	673	1,331	294	2	89	—	2,389	181,495	—	2	13
北米合衆國	53	185	3,349	13	59	—	3,659	150,433	2	3	22
丁抹	325	651	29	9	8	—	1,022	77,369	1	1	9
獨逸	232	596	63	7	22	—	920	61,692	—	1	6
アルヂェンチン	65	601	12	287	49	—	1,014	47,377	1	—	6
ソビエツトロシヤ	—	142	65	1	198	(4) 12	418	(5) 16,480	—	1	3
チリー	14	33	9	—	112	—	168	5,925	(6) 2	—	3
アイスランド	1	56	1	—	21	—	79	2,862	1	—	2
ポルトガル	—	—	—	—	80	(7) 208	(8) 288	—	—	—	—
計	14,635	17,631	9,797	1,234	7,048	911	51,256	3,210,671	27	41	349

備考 (1) 脊美鯨八頭、ブライド鯨三六頭
(2) 小型鯨數種及脊美鯨一頭
(3) 小型鯨數種及脊美鯨五頭
(4) 克鯨十一頭、脊美鯨一頭
(5) 鯨油生產量に付報告なき爲推定
(6) 會社に就て確めず
(7) 種類不明
(8) 一九三七年一月一日より同年十一月三十日迄の捕獲頭數に據る
International whaling statistics XI. Oslo 1938

(九) 南氷洋捕鯨狀況 1619—38年

年次	捕獲頭數 白長須	長須	座頭	鰮	抹香	其他	計	鯨油生產量	陸作業上場	母船	捕鯨船	雙捕鯨船當頭數
								パレル				
1919—10	1,874	3,213	261	71	8	(1) 14	5,441	272,817	6	6	44	124
1920—21	2,617	5,491	260	36	31	(1) 13	8,448	390,627	6	8	47	180
1921—22	4,416	2,492	9	103	3	—	7,023	452,517	6	8	46	153
1922—23	5,683	3,677	517	10	23	—	9,910	614,547	6	13	60	165
1923—24	3,732	3,035	233	193	66	(1) 12	7,271	464,678	7	13	66	110
1924—25	5,703	4,366	359	1	59	—	10,488	697,091	6	13	65	161
1925—26	4,697	8,916	364	195	37	(1) 10	14,219	783,307	6	15	70	203
1926—27	6,545	5,102	189	778	39	(1) 12	12,665	872,362	6	17	80	158
1927—28	8,334	4,459	23	883	72	(1) 4	13,775	1,037,392	6	18	84	164
1928—29	12,734	6,689	48	808	62	—	20,341	1,631,340	6	26	111	183
1929—30	17,487	11,539	852	216	73	—	30,167	2,546,759	6	38	194	156
1930—31	29,410	10,017	576	145	51	(1) 2	40,201	3,608,348	6	41	232	173
1931—32	6,488	2,871	184	16	13	—	9,572	808.560	2	5	45	213
1932—33	18,891	5,168	159	2	107	—	24,327	2,456,462	1	17	118	206
1933—34	17,349	7,200	872	—	666	—	26,087	2,395,544	2	19	126	207
1934—35	16,500	12,500	1,965	266	577	—	31,808	2,453,999	2	23	153	208
1935—36	17,731	9,697	3,162	2	399	—	30,991	2,436,338	2	14	175	177
1936—37	14,304	14,381	4,477	490	926	(1) 1	34,579	2,658,108	2	30	196	176
1937—38									2	31	258	

備考 (1) 脊美鯨
International whaling statistics XI, Oslo 1938 に據る

(十) 南氷洋國別捕鯨狀況 1919—37年

年次	諸威		英國		其他	
	捕獲頭數	產油量	捕獲頭數	產油量	捕獲頭數	產油量
		バレル		バレル		バレル
1919—20	3,425	176,595	1,638	75,907	378	20,315
1920—21	5,761	265,990	2,037	92,914	650	31,723
1921—22	4,482	279,965	2,103	132,552	438	40,000
1922—23	5,651	346,732	3,439	213,823	820	53,991
1923—24	4,371	276,852	2,364	153,124	536	34,702
1924—25	6,450	418,315	3,257	229,753	781	49,023
1925—26	8,699	481,245	4,441	247,636	1,079	54,426
1926—27	8,410	557,979	3,443	254,702	812	59,681
1927—28	8,960	700,729	3,374	269,274	1,441	67,389
1928—29	13,993	1,163,992	4,756	270,681	1,592	96,667
1929—30	19,821	1,728,112	8,960	723,196	1,386	95,451
1930—31	25,269	2,291,694	12,196	1,094,145	2,736	222,509
1931—32	—	—	8,722	759,843	850	48,717
1932—33	11,768	2,285,853	11,563	1,116,026	996	54,583
1933—34	12,308	1,218,054	12,640	1,111,700	1,139	65,790
1934—35	15,463	1,183,897	15,323	1,204,047	1,022	66,055
1935—36	14,421	1,116,033	12,538	995,167	4,032	325,138
1936—37	15,039	1,158,665	12,361	977,822	7,179	521,621

備考 Internationl whaling statistics XI, Oslo 1937 に據る

(十一) 南氷洋母船式捕鯨狀況 1919—38年

年次	捕獲頭數							鯨油生產量
	白長須	長須	座頭	鰮	抹香	其他	計	
								バレル
1919—20	887	1,540	182	—	—	—	2,609	125,788
1920—21	1,761	2,848	157	—	—	—	4,766	213,490
1921—22	1,846	1,782	—	—	—	—	3,628	233,475
1922—23	2,114	2,232	197	—	4	—	4,547	266,994
1923—24	1,805	1,657	103	2	17 (1)	12	3,596	217,215
1924—25	2,191	2,347	97	—	35	—	4,670	290,915
1925—26	2,842	3,207	128	182	25 (1)	10	6,394	378,850
1926—27	2,856	3,958	189	413	22 (1)	12	7,450	455,070
1927—28	6,209	3,102	23	788	12 (1)	4	10,138	733,912
1928—29	11,174	3,559	33	412	31	—	15,209	1,282,711
1929—30	16,999	8,143	806	—	34	—	25,982	2,298,796
1930—31	28,325	8,601	510	1	27 (1)	1	37,465	3,420,410
1931—32	6,050	1,136	178	—	3	—	7,367	686,355
1932—33	18,624	4,441	159	—	107	—	23,331	2,401,879
1933—34	16,813	5,472	780	—	659	—	23,724	2,263,357
1934—35	15,944	11,664	1,928	141	556	—	30,233	2,345,858
1935—36	16,510	9,177	3,121	2	396	—	29,206	2,293,153
1936—37	14,183	13,302	4,460	19	856 (1)	1	32,821	2,576,479
1937—38	14,555	25,774	2,016	—	790	—	43,135	3,132,875

備考 (1) 春美鯨

1937年迄は Internationl whaling statistics X, Oslo 1937 に據る

1937—38年は Norsk Hvolfangst-Tidlnde Nr. 6, 1938 に據る

(獨逸母船 jan Wellem の分を含ます)

(十二) 南氷洋母船式捕鯨狀況 (國別) 1937—38年

國別	母船數	捕獲頭數					鯨油生産量			捕鯨船數
		白長須	長須	座頭	抹香	計	鯨油	抹香油	計	
							バレル	バレル	バレル	
諸威	9	4,099	8,017	316	369	12,801	953,306	22,914	976,220	69
英國	10	4,766	9,411	838	265	15,280	1,097,977	15,457	1,113,434	83
獨逸	6	2,326	3,673	246	142	6,387	531,981	8,032	540,013	44
日本	4	2,394	2,699	473	2	5,565	384,267	—	384,267	30
米國	1	555	955	47	3	1,560	114,000	—	114,000	9
パナマ	1	412	1,011	94	10	1,527	116,000	500	116,500	9
計	31	14,555	25,774	2,016	790	43,135	3,201,875	46,975	3,248,850	244

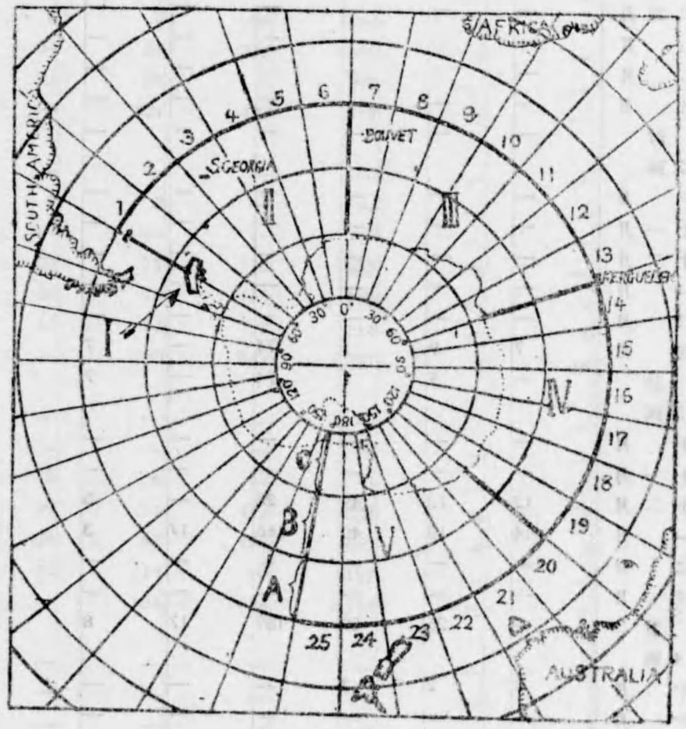
備考　獨逸の捕獲頭數中には母船 jau Wellem の分を含まず
Norsk Hvalfangst-Tibende Nr. 6. 1938 に據る

(十三) 南氷洋に於ける捕獲鯨の組成 (母船式)

1928—38年

年次	捕獲百分比					
	白長須	長須	座頭	抹香	鰮	計
1928—29	73.5	23.4	0.2	0.2	2.7	100.0
1929—30	65.8	31.0	3.1	0.1	—	100.0
1930—31	75.6	22.9	1.4	0.1	—	100.0
1931—32	82.1	15.4	2.4	0.1	—	100.0
1932—33	79.9	19.0	0.7	0.4	—	100.0
1933—34	70.9	23.1	3.3	2.7	—	100.0
1934—35	52.7	38.6	6.4	1.8	0.5	100.0
1935—36	56.5	31.4	10.6	1.4	0.1	100.0
1936—37	43.2	40.5	13.6	2.6	0.1	100.0
1937—38	33.7	59.8	4.7	1.8	—	100.0

備考　本表は本年度國際捕鯨會議の際英國にて取纒めたるものなり



(十四) 南氷洋に於ける漁場別捕獲表 1936—37年

	A. 自 南緯五〇度 至 南緯六〇度							B. 自 南緯六〇度 至 南緯七〇度						
	捕鯨船數	捕獲アリシ日	捕獲頭數 白長須	長須	座頭	其他	鯨油生産量	捕鯨船數	捕獲アリシ日	捕獲頭數 白長須	長須	座頭	其他	鯨油生産量
							バレル							バレル
第1區														
十月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十一月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十二月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一月	—	—	—	—	—	—	—	6	7	84	14	—	—	9,391
二月	—	—	—	—	—	—	—	34	88	332	608	1	—	80,641
三月	—	—	—	—	—	—	—	21	26	7	297	—	—	22,066
計	—	—	—	—	—	—	—	—	121	423	919	1	—	112,098
第2區														
十月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十一月	—	—	—	—	—	—	—	7	2	—	—	—	4	181
十二月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一月	—	—	—	—	—	—	—	30	71	370	637	3	—	80,384
二月	—	—	—	—	—	—	—	30	74	165	970	—	9	77,355
三月	7	9	1	74	—	7	5,495	12	13	7	114	—	1	8,716
計	—	9	1	74	—	7	5,495	—	160	542	1,721	3	14	166,636
第3區														
十月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十一月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十二月	12	12	49	23	—	5	9,357	5	6	44	3	—	—	5,040
一月	14	13	40	166	17	3	14,810	29	77	432	333	6	—	74,213
二月	—	—	—	—	—	—	—	24	67	168	672	4	7	62,845
三月	—	—	—	—	—	—	—	12	14	10	127	—	—	12,341
計	—	25	89	189	17	8	24,167	—	164	654	1,135	10	7	154,439
第4區														
十月	7	2	3	—	—	—	170	—	—	—	—	—	—	—
十一月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十二月	32	54	236	44	8	29	33,350	—	—	—	—	—	—	—
一月	13	14	60	67	2	1	9,424	11	34	150	177	20	6	31,810
二月	—	—	—	—	—	—	—	6	7	6	63	—	18	5,730

	A. 自 南緯 五〇度 至 南緯 六〇度						
	捕鯨船數	捕獲アリシ日	捕獲頭數 白長須	長須	座頭	其他	鯨油生産量
三月	—	—	—	—	—	—	—
計	—	70	299	111	10	30	42,944
第5區							
十月	—	—	—	—	—	—	—
十一月	13	14	96	—	1	20	9,367
十二月	41	68	401	87	30	26	53,099
一月	19	21	101	58	17	6	16,765
二月	—	—	—	—	—	—	—
三月	—	—	—	—	—	—	—
計	—	103	598	145	48	52	79,321
第6區							
十月	—	—	—	—	—	—	—
十一月	7	4	10	1	—	2	1,260
十二月	29	54	343	51	17	53	41,629
一月	18	48	339	90	27	3	48,273
二月	7	7	50	51	1	—	8,000
三月	13	5	2	21	2	—	3,133
計	—	118	744	214	47	58	102,295
第7區							
十月	—	—	—	—	—	—	—
十一月	7	5	19	5	—	4	2,135
十二月	18	59	397	84	1	57	50,556
一月	29	102	681	437	22	8	111,222
二月	17	34	80	340	25	8	29,334
三月	7	4	7	10	4	—	1,900
計	—	204	1,184	876	52	77	195,147
第8區							
十月	—	—	—	—	—	—	—
十一月	—	—	—	—	—	—	—
十二月	21	21	150	46	36	7	19,716
一月	19	49	288	340	265	6	58,690
二月	18	21	73	165	53	2	22,208
三月	—	—	—	—	—	—	—
計	—	91	511	551	354	15	100,61[illegible]

	B. 自 南緯 六〇度 至 南緯 七〇度					
捕鯨船數	捕獲アリシ日	捕獲頭數 白長須	長須	座頭	其他	鯨油生産量
—	—	—	—	—	—	—
—	41	156	240	20	24	37,540
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
20	20	29	83	12	4	9,767
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	20	29	83	12	4	9,767
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
20	25	157	227	5	—	33,601
20	34	105	341	9	—	33,140
7	7	8	26	—	—	3,450
—	66	*270	594	14	—	70,191
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
13	21	106	144	6	—	20,581
37	70	202	577	36	36	66,683
5	7	5	16	2	—	1,812
—	98	313	737	44	36	89,076
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
14	20	93	28	33	37	16,156
31	49	68	134	134	—	43,356
31	33	34	274	43	11	32,460
—	102	195	680	210	48	91,672

	A. 自南緯五〇度 至南緯六〇度						
	捕鯨船數	捕獲アリシ日	捕獲頭數 白長須	長須	座頭	其他	鯨油生產量
第9區							
十月	—	—	—	—	—	—	—
十一月	—	—	—	—	—	—	—
十二月	44	114	877	207	684	99	109,949
一月	31	81	314	501	887	2	90,411
二月	7	7	22	75	57	—	10,934
三月	—	—	—	—	—	—	—
計	—	202	1,213	783	1,628	101	211,294
第10區							
十月	—	—	—	—	—	—	—
十一月	6	3	—	—	—	6	360
十二月	25	61	529	32	91	35	49,739
一月	12	21	109	49	106	—	13,057
二月	—	—	—	—	—	—	—
三月	—	—	—	—	—	—	—
計	—	85	635	81	197	41	63,156
第11區							
十月	—	—	—	—	—	—	—
十一月	—	—	—	—	—	—	—
十二月	6	3	—	—	—	11	538
一月	12	—	—	—	—	—	—
二月	—	—	—	—	—	—	—
三月	—	—	—	—	—	—	—
計	—	3	—	—	—	11	538
第12區							
十月	—	—	—	—	—	—	—
十一月	—	—	—	—	—	—	—
十二月	—	—	—	—	—	—	—
一月	—	—	—	—	—	—	—
二月	—	—	—	—	—	—	—
三月	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—

B. 自南緯六〇度 至南緯七〇度						
捕鯨船數	捕獲アリシ日	捕獲頭數 白長須	長須	座頭	其他	鯨油生產量
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
13	13	98	2	75	—	11,996
25	53	226	132	29	7	39,487
38	82	273	655	125	15	87,851
24	31	49	215	24	12	27,530
—	179	696	1,014	253	34	466,864
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
7	7	68	14	—	—	5,679
20	33	167	89	34	40	24,721
6	7	36	121	4	2	12,290
—	—	—	—	—	—	—
—	47	271	224	38	42	42,690
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
6	7	31	22	4	12	4,725
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	7	31	22	4	12	4,725
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
13	92	19	42	—	28	5,653
—	—	—	—	—	—	—
7	5	48	26	1	—	7,122
—	17	67	68	1	28	12,775

	A. 自南緯五〇度 至南緯六〇度						
	捕鯨船數	捕獲アシリ日	捕獲頭數 白長須	長須	座頭	其他	鯨油生産量
第13區							
十月	—	—	—	—	—	—	—
十一月	—	—	—	—	—	—	—
十二月	—	—	—	—	—	—	—
一月	—	—	—	—	—	—	—
二月	—	—	—	—	—	—	—
三月	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—
第14區							
十月	—	—	—	—	—	—	—
十一月	—	—	—	—	—	—	—
十二月	—	—	—	—	—	—	—
一月	—	—	—	—	—	—	—
二月	—	—	—	—	—	—	—
三月	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—
第15區							
十月	—	—	—	—	—	—	—
十一月	5	8	33	—	—	—	2,473
十二月	—	—	—	—	—	—	—
一月	—	—	—	—	—	—	—
二月	—	—	—	—	—	—	—
三月	—	—	—	—	—	—	—
計	—	8	33	—	—	—	2,473
第16區							
十月	—	—	—	—	—	—	—
十一月	—	—	—	—	—	—	—
十二月	—	—	—	—	—	—	—
一月	—	—	—	—	—	—	—
二月	—	—	—	—	—	—	—
三月	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	918	5,307	3,024	2,353	400	827,354

備考 Internationl whaling statistics XI, Oslo 1937

B. 自南緯六〇度 至南緯七〇度						
捕鯨船數	捕獲アシリ日	捕獲頭數 白長須	長須	座頭	其他	鯨油生産量
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
7	14	140	91	12	—	17,888
—	—	—	—	—	—	—
13	19	57	151	3	4	19,170
—	33	197	242	16	4	37,058
—	—	—	—	—	—	—
5	13	99	—	—	—	8,453
25	67	590	23	155	16	56,387
31	111	897	212	349	55	116,495
25	26	124	56	21	—	19,016
31	43	174	151	13	18	37,208
—	260	1,884	442	538	89	237,559
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
12	19	155	14	12	12	14,412
23	33	277	76	176	—	36,662
43	154	894	590	555	8	176,752
5	9	37	15	20	1	5,301
—	215	1,363	695	763	21	233,127
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
12	21	196	52	31	—	19,635
12	62	489	515	57	—	72,000
7	7	68	42	10	—	11,875
—	—	—	—	—	—	—
—	90	753	609	98	—	103,510
—	1,620	7,344	9,425	2,024	363	1,570,027

(十五) 漁期別鯨種別捕獲狀況 (南氷洋母船式)

鯨種及漁期		九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	計
總數	1928—29	—	418	1,310	2,393	2,113	1,562	1,065	632	28	9,572
	1929—30	39	1,770	4,887	5,234	4,587	4,995	2,739	626	13	24,890
	1930—31	38	2,784	6,445	7,936	(1) 6,485	6,432	(1) 3,274	366	—	(2) 33,760
	1931—32	—	295	1,292	2,024	1,618	1,428	710	—	—	7,367
	1932—33	—	963	4,686	5,324	5,738	4,119	2,306	196	—	23,332
	1933—34	—	869	5,701	5,906	6,362	1,621	1,265	—	—	23,724
	1934—35	—	270	1,382	8,067	7,603	7,147	5,492	149	93	30,203
	1935—36	—	—	265	9,411	10,352	7,301	1,877	—	—	29,206
	1936—37	—	4	542	8,279	11,804	(1) 9,966	2,207	—	—	(1) 32,802
白長須	1928—29	—	409	1,266	2,152	1,672	779	326	97	—	6,701
	1929—30	33	1,507	4,245	4,491	2,200	2,549	1,327	170	4	16,526
	1930—31	38	2,398	5.518	6,715	4,215	4,018	2,129	174	—	25,205
	1931—32	—	277	1,181	1,909	1,424	861	398	—	—	6,050
	1932—33	—	922	4,472	5,117	4,654	2,094	1,278	98	—	18,635
	1933—34	—	805	5,139	4,993	3,579	1,656	641	—	—	16,813
	1934—35	—	270	928	6,183	4,474	2,572	1,430	55	—	15,912
	1935—36	—	—	100	6,874	5,244	3,311	981	—	—	16,501
	1936—37	—	3	409	5,235	5,332	2,701	497	—	—	14,177
長須	1928—29	—	9	29	230	438	775	480	437	28	2,426
	1929—30	3	256	574	552	2,089	2,344	1,377	456	9	7,660
	1930—31	—	377	.764	1,032	2,150	2,383	1,136	192	—	8,034
	1931—32	—	13	69	60	153	549	302	—	—	1,136
	1932—33	—	30	151	154	985	1,993	1,022	96	—	4,431
	1933—34	—	32	143	520	2,327	1,842	608	—	—	5,472
	1934—35	—	—	88	993	2,623	3,986	3,906	52	—	11,648
	1935—36	—	—	17	1,193	3,915	3,203	849	—	—	9,177
	1936—37	—	1	7	1,165	4,445	6,118	1,555	—	—	13,291

鯨種及漁期		九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	計
座頭	1928—29	—	—	10	4	2	2	—	—	—	18
	1929—30	3	3	51	187	294	102	35	—	—	675
	1930—31	—	8	152	184	110	30	8	—	—	492
	1931—32	—	15	39	55	41	18	10	—	—	178
	1932—33	—	2	49	34	37	29	6	2	—	159
	1933—34	—	29	383	156	147	49	16	—	—	780
	1934—35	—	—	6	828	437	543	125	4	—	1,943
	1935—36	—	—	4	1,214	1,107	749	47	—	—	3,121
	1936—37	—	—	10	1,462	1,854	1,038	96	—	—	4,460
抹香	1928—29	—	—	5	7	1	3	—	—	—	16
	1929—30	—	4	17	4	4	—	—	—	—	29
	1930—31	—	1	11	3	9	—	—	—	—	24
	1931—32	—	—	3	—	—	—	—	—	—	3
	1932—33	—	9	14	19	62	3	—	—	—	107
	1933—34	—	3	36	237	309	74	—	—	—	659
	1934—35	—	—	358	63	69	45	25	—	—	560
	1935—36	—	—	142	130	86	38	—	—	—	396
	1936—37	—	—	116	417	173	97	51	—	—	854
鰮	1928—29	—	—	—	—	—	3	260	148	—	411
	1929—30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	1930—31	—	—	—	2	—	1	—	—	—	3
	1932—33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	1933—34	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	1934—35	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	1935—36	—	—	2	—	—	1	6	38	93	140
	1936—37	—	—	2	—	—	—	—	—	—	2
	1937—38	—	—	—	—	—	11	8	—	—	19

備考 (1 春美一頭ヲ含ム
(2 春美二頭ヲ含ム
International whaling statistics X Oslo 1937 に據る

(十六)漁期別鯨種別捕獲狀況百分比（南氷洋母船式）

鯨種及漁期		九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	計
總數	1927—28	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	1928—29	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100,0
	……	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
	……	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
白長須	1928—29	—	97.9	96.6	89.9	79.1	49.9	30.6	14.2	—	70.0
	1929—30	84 6	85.1	86.9	85.8	48.0	51.1	48.4	27.2	30.8	66.4
	1930—31	100 0	86.2	85.6	84.7	65.0	62.5	65.0	47.5	—	74.7
	1931—32	—	93.9	91.5	94.3	88.0	60 3	56.1	—	—	82.1
	1932—33	—	95.7	95.4	96.1	81.1	50.8	55.4	50.0	—	79.9
	1933—34	—	92.6	90.2	84 6	56.3	45 7	50.7	—	—	70.9
	1934—35	94.8	100.0	67.2	76.6	53.8	36.0	26.0	36.9	—	52.7
	1935—36	—	—	37.7	73.0	50.7	45.3	52.3	—	—	56 5
	1936—37	—	75.0	75.5	63.2	45.2	27.1	22.5	—	—	43.2
長須	1928—29	—	2.1	2 2	9 6	20.7	49.6	45.0	64.1	100.0	25.3
	1929—30	7.7	14 5	11.7	10.5	45 5	46 9	50.3	72.8	69.2	30.8
	1930—31	—	13.5	11.8	13.0	33.2	37.0	34.7	52.5	—	23.8
	1931—32	—	1.0	5.3	3.0	9.5	38.4	42 5	—	—	15.4
	1932—33	—	3.1	3.2	2.9	17.2	48.4	44.3	49.0	—	19.0
	1933—34	—	3.7	2.5	8.8	36.6	50.9	48.1	—	—	23.1
	1934—35	—	—	6.4	12.3	34.5	55.8	71.1	34.9	—	38 6
	1935—36	—	—	6 4	12.7	37.8	43.9	45.2	—	—	31.4
	1936—37	—	25.0	1.3	14.1	37.7	61.4	70.5	—	—	40.5
座頭	1928—29	—	—	0.8	0.2	0.1	0.1	—	—	—	0.2
	1929—30	7.7	0 2	1.0	3.6	6.4	2.0	1.3	—	—	2.7
	1930—31	—	0.3	2.4	3.2	1.7	0.5	0.3	—	—	1.4
	1931—32	—	5.1	3.0	2.7	2.5	1.3	1.4	—	—	2.4
	1932—33	—	0.2	1.1	0.6	0.6	0.7	0.3	1.0	—	0.7
	1933—34	—	3.3	6.7	2.6	2.3	1.4	1.2	—	—	3.3
	1934—35	—	—	0.4	10.5	5.8	7.6	2.3	2.7	—	6.4
	1935—36	—	—	1.5	12.9	10.7	10.3	2.5	—	—	10.6
	1936—37	—	—	1.8	17,7	15.7	10.4	4.3	—	—	13.6

鯨種及漁期		九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	計
抹香	1928—29	—	—	0.4	0.3	0.1	0.2	—	—	—	0.2
	1929—30	—	0.2	0.4	0.1	0.1	—	—	—	—	0.1
	1930—31	—	—	0.2	—	0.1	—	—	—	—	0.1
	1931—32	—	—	0.2	—	—	—	—	—	—	0 1
	1932—33	—	1.0	0.3	0 4	1.1	0.1	—	—	—	0.4
	1933—34	—	0.4	0.6	4.0	4.8	2.0	—	—	—	2.7
	1934—35	—	—	25.9	0 8	0.9	0.6	0.5	—	—	1.8
	1935—36	—	—	53.6	1 4	0.8	0.5	—	—	—	1.4
	1936—37	—	—	21.4	5.0	1.4	1.0	2.3	—	—	2 6
鯨	1918—29	—	—	—	—	—	0.2	24 4	21.7	—	4.3
	1929—30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	1930—31	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	1931—32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	1932—33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	1933—34	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	1934—35	—	—	0.1	—	—	—	0.1	25 5	100.0	0.5
	1935—36	—	—	0.8	—	—	—	—	—	—	0.1
	1936—37	—	—	—	—	—	0 1	0.4	—	—	0.1

備　考

International whaling statistics XI, Oslo 1937に據る

(十七) 未成熟及成熟鯨の捕獲狀況 (南氷洋母船式)

年次 / 鯨種	1932—33		1933—34		1934—35		1935—36		1936—37	
	頭數	%	頭數	%	頭數	%	頭數	%	頭數	%
白長須										
未成熟牡	1,393	14.40	1,025	11.07	2,058	24.56	2,366	26.50	2,133	29.14
同 牝	1,721	19.32	1,415	18.78	2,489	33.20	2,804	37.07	2,600	37.91
計	**3,114**	**16.76**	**2.440**	**14.53**	**4,547**	**28.64**	**5,173**	**31.34**	**4,733**	**33.39**
成熟牡	8,280	85.60	8,232	88.93	6,320	75.44	6,571	73.50	5,186	70.86
同 牝	7,186	80.68	6,120	81.22	5,009	66.80	4,761	62.93	4,258	62.09
計	**15,466**	**83.24**	**14,352**	**85.74**	**11,329**	**71.36**	**11,332**	**68.66**	**9,444**	**66.61**
長須										
未成熟牡	307	12.99	282	9 87	1,055	17.07	798	16.65	1,015	13.61
同 牝	244	11.78	280	10.71	1,135	20.95	790	18,C3	1 003	17.20
計	**551**	**12.43**	**562**	**10.27**	**2,190**	**18.88**	**1,588**	**17.31**	**2.018**	**15.18**
成熟牡	2,056	87.01	2,574	90.13	5,126	82.93	3,996	83.35	6,443	86.39
同 牝	1,827	88.22	2,335	89.29	4,283	79.05	3,592	81.97	4,830	82.89
計	**3,883**	**87.57**	**4,909**	**89.73**	**9,409**	**81.12**	**7,588**	**82.69**	**11,273**	**84.82**

備考 Internationl whaling statistics XI, Oslo 1937に據る

(十八) 白長須及長須の平均體長 (全南氷洋)

年次 / 鯨種及漁場	1926 1927	1927 1928	1928 1929	1929 1930	1930 1931	1931 1932	1932 1933	1933 1934	1934 1935	1935 1936	1936 1937
白長須											
サウス・ジョーチ	呎 78.68	呎 76.94	呎 75.30	呎 74.07	呎 75.47	呎 70.90	呎 70.87	呎 72.67	呎 74.15	呎 74.27	呎 71.79
サウス・シエツトランド	76.95	78.95									
サウス・オークニー	75.07	—	81.11	80.19	79.84						
母船式	—	—				84.03	80.40	80.51	78.57	77.75	77.49
ロツス・シー	85.20	81.56		82.10	82.09						
長須											
サウス・ジョーチャ	69.12	66.69	—	66.05	65.74	62.16	63.96	64.44	65.76	44.66	63.56
サウス・シエツトランド	64.63	62.79									
サウス・オークニー	62.36	—	—	65.15	65.46	69.95	68.71	68.99	67.61	67.72	67.80
母船式	—	—									
ロツス・シー	—	—	—	71.17	69,89						

備考 International whaling statistics XI, Oslo 1937 に據る

(十九) 換算白長須一頭當り產油量

年次	サウス・ジョーチャ	母船式	年次	サウス・ジョーチャ	母船式
1924—25	バレル 87.5	バレル 85.0	1931—32	バレル 92.9	バレル 102.6
1925—26	84.0	84.8	1932—33	86.5	114.6
1926—27	96.4	91.1	1933—34	91.8	111.9
1927—28	106.4	92.8	1934—35	105.1	102.2
1928—29	108.2	98.3	1935—36	95.5	101.6
1929—30	110.7	109.6	1936—37	104.5	111.7
1930—31	100.0	105.6			

備考 International whaling statistics XI, Oslo 1937 に據る

(二十) 歐洲に於ける鯨油價格 1918—37年

年次	最高 £	最高 sh	最低 £	最低 sh	年次	最高 £	最高 sh	最低 £	最低 sh
1918年	60	10	53	—	1928年	31	10	28	—
1919〃	77	—	58	10	1928〃	29	10	25	—
1920〃	90	—	82	—	1930〃	26	—	17	—
1921〃	47	—	27	—	1931〃	15	—	10	—
1922〃	33	10	31	—	1932〃	14	10	10	—
1923〃	34	—	32	10	1933〃	15	10	10	—
1924〃	40	—	33	—	1934〃	12	—	8	10
1925〃	37	—	34	—	1935〃	20	5	8	10
1926〃	34	—	30	—	1936〃	23	—	17	10
1927〃	30	—	26	10	1937〃	22	10	17	—

備考 Internationl whaling statistics IV, X, に據る

(二十一) 鯨油生産量 (工場別) 1934—38年

イ 英國—南氷洋

工場	鯨油生産量 (單位バレル) 1934—35年	1935—36年	1936—37年	1937—38年	備考
Polar chief	—	—	41,500	—	1930—36年及1937—38年休漁
Hektoria	88,850	106,130	70,600	94,000	
New sevilla	122,300	99,084	107,496	118,600	
Tafelberg	129,000	125,000	82,378	* 117,300	* 抹香油を含む
Salvestria	118,440	107,520	93,395	129,182	
Sourabaya	82,043	91,675	86,646	107,892	
Stronbus	24,100	—	43,792	—	1936—37年前はSlipwayなし。船籍は諸威、1937—38年休漁
Southern Empress	154,669	143,600	125,685	105,282	
Dohthern Princes	139,730	119,750	125,515	112,988	
Svend Foyn	184,350	130,300	94,700	124,200	
Terje Viken	—	—	102,000	111,500	
Vestfold	121,261	—	—	—	1935—36年船籍をパナマに移す
Uniwaleco	—	—	74,150	77,240	前名 Fraternitas
Anglo Norse	—	—	—	—	
S. georgia Cos Lond Station	51,500	68,000	34,300	38,500	
計	1,216,243	991,059	1,082,157	1,136,984	

ロ 英國 其他

工場	鯨油生産量 (單位バレル) 1934—35年	1935—36年	1936—37年	1937—38年	備考
New Sevilla	—	—	—	* 11,340	* 北氷洋にて操業す
Union Wheling co's Land Station	* 47,332	* 49,644	* 37,662	* 50,000	* 南アフリカ

工場	鯨油生産量 (單位バレル) 1934—35年	1935—36年	1936—37年	1937—38年	備考
Uniwaleco	—	—	—	* 57,600	* 印度洋にて操業
Irvin & Johnson	—	—	* 27,449	* 28,200	* 南アフリカ
Consolidated Whaling co., Ltd.	2,274	934	1,732	—	Vancouver I.
Salvestria	—	—	* 6,763	鯨油生産なし	* 南米西岸にて操業
Sourobaya	—	—	* 5,210	571	* 南米西岸にて操業
Anglo Norse	—	—	* 60,644	△ 6,591	* 濠洲にて操業 △ 南米西岸にて操業
Newboundland Whaling Co.	12,000	6,200	6,272	—	
計	61,606	56,778	145,732	154,302	

ハ 諸威—南氷洋

工場	鯨油生産量 (單位バレル) 1934—35年	1935—36年	1936—37年	1937—38年	備考
Thorshammer	145,700	95,350	90,800	* 10,800	* 抹香油を含む
Lancing	67,600	64,450	68,463	73,450	
Kosmes	154,553	120,000	117,600	—	1937—38年休漁
Kosmos II	142,086	120,000	119,200	148,000	
Sydis	63,140	72,600	51,600	* —	* 現在は Rüdmeer (獨逸)
Solglimt	92,475	95,350	75,500	* 117,000	* 抹香油を含む
Ole Weggor	82,340	97,083	92,700	* 126,000	* 抹香油を含む
Pelagos	128,500	95,950	105,120	126,500	
N. T. Nielsen alonso	—	64,200	76,837	89,000	
Sir J. C. Rors	115,236	122,976	114,094	133,800	
Snderoy	44,000	45,300	50,000	53,700	
Mandie	— *	—	—	—	* Sydis 1935—36年中に含まる
Skytteren	90,600	95,950	—	—	1936—37年及1937—38年獨逸に傭船さる

工場	鯨油生産量（單位バレル）				備考
	1934—35年	1935—36年	1936—37年	1937—38年	
Pioner	9,083	—	—	—	
計	1,135,313	1,089,209	961,914	878,250	

ニ 諾威——其他

工場	鯨油生産量（單位バレル）				備考
	1934—35年	1935—36年	1936—37年	1937—38年	
Roald Amundsen	—	* 22,100	* 14,549	—	* 西アフリカにて操業
Pioner	* 21,040	* 17,681	—	—	* 西アフリカにて操業
Hangar	* 6,720	* 10,612	* 9,569	* 14,000	* 西アフリカにて操業
Norskehavet	—	—	* 13,127	—	* コンゴにて操業
Brodr Saebjornsen	* 3,000	* 1,995	* 3,157	—	* 西諾威にて操業
A/S Blomvoay Hval	* 2,196	* 1,535	* 1,909	—	* 西諾威にて操業
A/S Norsk Hvolfangst	—	* 863	* 1,146	—	* 西諾威にて操業
Alent	* 7,700	△ 19,398	△ 12,817	△ 12,000	* 北氷洋にて操業 △ カムチヤツカにて操業
Labor	—	—	—	* 8,200	* 北氷洋にて操業 前名Rsala Amundsen
Aukrahval A/S	—	—	* 691	—	* 西諾威にて操業
計	40,656	74,189	57,065	34,200	

ホ 獨乙——南氷洋

工場	鯨油生産量（單位バレル）				備考
	1934—35年	1935—36年	1936—37年	1937—38年	
C. A. Lassen	—	—	56,000	* 86,000	* 抹香油を含む
Skytteren	—	—	70,750	* 95,000	* 抹香油を含む
Jan Wellem	—	—	60,939	* 80,000	* 抹香油を含む

工場	鯨油生産量（單位バレル）				備考
	1934—35年	1935—36年	1936—37年	1937—38年	
Südmeer	—	—	—	* 60,000	* 抹香油を含む
Unitas	—	—	—	* 118,422	* 抹香油を含む
Walter Rau	—	—	—	* 100,000	* 抹香油を含む
計	—	—	187,689	539,422	

ヘ 日本——南氷洋

工場	鯨油生産量（單位バレル）				備考
	1934—35年	1935—36年	1936—37年	1937—38年	
圖南丸	12,955	49,000	64,200	60,153	
第二圖南丸	—	—	—	125,510	
日新丸	—	—	91,290	111,240	
第二日新丸	—	—	—	96,708	
計	12,955	49,000	155,490	393,611	

ト 日本——其他

工場	鯨油生産量（單位バレル）				備考
	1934—35年	1935—36年	1936—37年	1937—38年	
日本沿岸	4,853	3,415	5,113	5,000	

チ パナマ——南氷洋

工場	鯨油生産量（單位バレル）				備考
	1934—35年	1935—36年	1936—37年	1937—38年	
Vestfold	121,261	114,963	105,509	116,000	1934—35年に於ては船籍は諾威
Vikingen	—	88,028	70,936	—	1937—38年休漁
計	121,261	202,991	176,445	116,000	

リ 丁抹——南氷洋

工場	鯨油生産量（單位バレル）				備考
	1934—35年	1935—36年	1936—37年	1937—38年	
Fraternitas	—	—	—	—	現在は Uniwaleco

ヌ 丁抹——ファーロー島

工場	鯨油生産量（單位バレル）				備考
	1934—35年	1935—36年	1936—37年	1937—38年	
G. Mortensen	2,600	2,663	2,430	3,200	
P/F Vidair Hval	—	—	600	2,000	
計	2,600	2,663	3,030	5,200	

ル 北米合衆國——南氷洋

工場	鯨油生産量（單位バレル）				備考
	1934—35年	1935—36年	1939—37年	1637—38年	
Ulysses	—	—	—	114,000	

ヲ 北米合衆國——其他

工場	鯨油生産量（單位バレル）				備考
	1934—35年	1935—36年	1936—37年	1937—38年	
Frango	—	—*	61,014△	60,000	* 印度洋にて操業 △ 濠洲にて操業
Ulysses	—	—	—*	79,275	* 濠洲にて操業
American Pacific Whaling Co.	16,219	15,628*	13,452	—	* アラスカにて操業
California Whaling Co.	6,000	5,144*	2,490	—	* カリホルニヤにて操業
計	22,219	20,772	76,956	139,275	

ワ 中部及南部アメリカ——南氷洋

工場	鯨油生産量（單位バレル）				備考
	1934—35年	1935—36年	1936—37年	1937—38年	
Cia Argentina de Pesca	63,100	84,800	59,980	61,721	サウス、ジョージヤ

カ 中部及南部アメリカ——其他

工場	鯨油生産量（單位バレル）				備考
	1934—35年	1935—36年	1936—37年	1937—38年	
Soc. Ballenera Corral	3,232	3,605	3,605	—	チリー
Cia chilena Moruega de Pesca	—	3,000	—	—	チリー
Soc. Pescadora dechite y Noruego	2,000	—	—	—	チリー
Cia Ballenora mexicana. Bryde	—	3,415	—	—	メキシコ
計	5,232	10,020	3,605	—	

ヨ アイスランド

工場	鯨油生産量（單位バレル）				備考
	1934—35年	1935—36年	1936—37年	1937—38年	
H/F Kopar Talknafjord	—	691	3,034	—	
A/S Astella	—	—	3,158	—	
計	—	691	6,192	—	

タ 南氷洋合計

國別	鯨油生産量（單位バレル）				備考
	1934—35年	1935—36年	1936—37年	1937—38年	
英國	1,216,243	991,059	1,082,157	1,136,984	

國別	鯨油生產量（單位バレル）				備考
	1934—35年	1935—36年	1936—37年	1937—38年	
諸威	1,135,313	1,089,209	961,914	878,250	
獨逸	—	—	187,689	539,422	
日本	12,955	49,000	155,490	393,611	
パナマ	12,261	202,991	176,445	116,000	
北米合衆國	—	—	—	114,000	
アルヂエンチン（陸上作業場）	63,100	84,800	59,980	61,721	
計	2,548,872	2,417,059	2,623,675	3,239,988	

レ 其他海面合計

國別	鯨油生產量（單位バレル）				備考
	1934—35年	1935—36年	1936—37年	1937—38年	
英國	61,606	56,778	145,732	154,302	
諸威	40,656	74,189	57,065	34,200	
日本	4,853	3,415	5,113	5,000	
フアーロー島	2,600	2,663	3,030	5,200	
北米合衆國	22,219	20,772	76,956	139,275	
中部及南部アメリカ	5,232	10,020	3,605	—	
アイスランド	—	691	6,192	—	
計	137,166	168,528	297,693	337,977	

備考　以上イ——レの諸表は本年度國際捕鯨會議の際英國にて取纒めたるものなり。

(二十二) 1937—38年度捕鯨成績 (南氷洋母船別)

母船名	種類別捕獲頭數					鯨油生產量			捕鯨船	換算	換算白長須一頭當り產油量
	白長須	長須	座頭	抹香	計	長須油	抹香油	計		白長須	
Thorshammer	395	776	19	45	1.235	105.200	2.975	108.175	8	786.6	133,7
Svend Foyn	331	1.277	56	39	1.703	124.225	2.500	126.725	9	991.9	125.2
New Sevilla	347	1.212	33	18	1.610	118.608	1.080	119.688	9	966.2	122.8
Skytteren	463	533	28	69	1.093	90.860	3.940	94 800	7	740.7	122.7
Vestfold	412	1.011	94	10	1.527	116,000	500	116.500	9	955.1	121.5
Kosmos II	658	1.074	46	11	1.789	147.300	700	148.000	9	1,213.0	121.4
Salvestria	383	1.367	47	31	1·828	129.482	1.592	131.074	8	1,085.3	119.3
Ole Wegger	560	860	87	76	1.583	121.470	4.630	126.100	8	1,024.8	118.5
Solglimt	646	536	58	108	1.348	110.530	6.700	117.230	8	934.2	118.3
C. A. Larsen	423	533	69	40	1.065	83.800	2.150	85.950	7	715.6	117.1
Südmeer	225	567	20	4	816	60.321	200	60.521	6	516.5	116 8
Sir James Clark Ross	522	1.299	9	23	1.853	134.500	1.400	135 900	9	1,175.1	114.5
Tafelberg	392	1,066	272	6	1.736	117.000	300	117.300	10	1,027.4	113.9
Suderöy	234	459	47	1	741	53.656	44	53.700	5	481.8	111.4
Sourabaya	238	1.465	—	—	1.703	107 892	—	107.892	8	970.5	111.2
Terje Viken	521	933	41	94	1.589	111.500	5.950	117.450	10	1,003.9	111.1
Southern Princess	714	562	71	3	1.350	112.988	125	113.113	8	1,023.4	110.4
N, T, Nielsen-Alonso	156	1.164	—	7	1.327	80.900	370	81.270	7	737.5	109.7
Ulysses	555	955	47	3	1,560	114.000	—	114.000	9	1,043.0	109.3
Pelagos	676	933	46	96	1.751	126.300	6.000	132.300	8	1,160.5	108.8
Walter Ran	392	1.213	71	22	1.698	110.000	1.320	111.320	8	1,026.9	107.1
Lancing	252	916	4	2	1.174	73.450	95	73.545	7	711.6	103.2
Southern Empress	658	718	22	9	1.407	105.282	570	105.852	7	1,025.8	102.6
Nisshin Maru	640	769	179	—	1,586	111.240	—	111.240	8	1,095.3	101.6
Hektoria	674	425	105	61	1.265	94.000	3.100	97.100	8	928.5	101.2
Uniwaleco	508	386	191		1.089	77.000	240	77.240	6	772.1	99.7
Tonan Maru II	629	1.054	148		1,831	120.510	—	120.510	8	1,215.2	99.2
Tonan Maru	404	365	90		860	60.153	72	60.225	5	622.5	96.6
Nisshin Maru II	724	519	60		1.303	96.708	—	96.708	9	1,007.5	96.0
Unitas	823	827	58		1.715	118.000	422	118 422	8	1,259.7	93.7
Jan Wellem 1)	—	—	—		—	69.000	—	69.000	8	—	—
Total	14.555	25.774	2.016	790	43.135	3,201.875	46.975	3,248·850	241	28,218.1	111.0

備考 (1) 捕獲頭數の報告なし　以下28表迄Norsk Hvalfangst-Tidende Nr.6.1938に據る

(二十三) 換算白長須一頭當リ鯨油生產量

1937—38年度南氷洋母船式

母船	捕獲頭數 白長須	長須	座頭	抹香	計	鯨油生產量	換算白長須一頭當產油量	備考
パナマ						バレル		
ヴエストフオールド	412	1,011	94	10	1,527	116,000	121.5	
諸威								
トルスハンマー	395	776	19	45	1,235	105,200	133.7	
コスモスII	658	1,074	46	11	1,789	147,300	121.4	
オレ・ヴエッガー	560	860	87	76	1,583	121,470	118.5	
ゾルグリムト	646	536	58	108	1,348	110,530	118.3	
クラーク・ロス	522	1,299	9	23	1,853	134,500	114.5	
スデローイ	234	459	47	1	741	53,656	111.4	
ニールセン・アロンゾー	156	1,164	—	7	1,327	80,900	109.7	
ペラゴス	676	933	46	96	1,751	126,300	108.8	
ランシング	252	916	4	2	1,174	73,450	103.2	
計	4,099	8,017	316	369	12,801	953,306	115.9	
英國								
スヴエント・フオイン	331	1,277	56	39	1,703	124,225	125.2	
ニユー・セヴイラ	347	1,212	33	18	1,610	118,608	122.8	
サルヴエストリヤ	383	1,367	47	31	1,828	129,482	119.3	
ターフエルベルグ	392	1,066	272	6	1,736	117,000	113.9	
サウザン・プリンセス	714	562	71	3	1,350	112,988	110.4	
スラバヤ	238	1,465	—	—	1,703	107,892	111.2	
テルエ・ヴイーケン	521	933	41	94	1,589	111,500	111.2	
サウザン・エンプレス	658	718	22	9	1,407	105,282	102.6	
ヘクトリヤ	674	425	105	61	1,265	94,000	101.2	
ユニワレコ	508	386	191	4	1,089	77,000	99.7	
計	4,766	9,411	838	265	15,280	1,097,977	112.1	
米國								
ウルツセス	555	955	47	3	1,560	114,000	109.3	

母船	捕獲頭數 白長須	長須	座頭	抹香	計	鯨油生產量	換算白長須一頭當產油量	備考
獨乙								
シユツテレン	463	533	28	69	1,093	90,860	122.7	平均 119.9
シー・エー・ラーセン	423	533	69	40	1,065	83,800	117.1	
ジユードメーヤー	225	567	20	4	816	60,321	116.8	平均 102.9
ワルターラウ	392	1,213	71	22	1,698	110,000	107.1	
ウニタス	823	827	58	7	1,715	118,000	93.7	
計	2,326	3,673	246	142	6,387	462,981	108.7	
日本								
日新丸	640	769	177	—	1,586	111,240	101.6	
第二圖南丸	629	1,0[illegible]4	148	—	1,831	120,510	99.2	
圖南丸	404	365	90	1	860	60,153	96.6	
第二日新丸	724	519	60	—	1,303	96,708	96.0	
計	2,397	2,707	475	1	5,580	388,611	98.6	
計								
パナマ	412	1,011	94	10	1,527	116,000	121.5	
諸威	4,099	8,017	316	369	12,801	953,306	115.9	
英國	4,766	9,411	838	265	15,280	1,097,977	112.1	
米國	555	955	47	3	1,560	114,000	109.3	
獨乙	2,326	3,673	246	142	6,387	462,981	108.7	
日本	2,397	2,707	475	1	5,580	388,611	98.6	
計	14,555	25,774	2,016	790	43,135	3,132,875	111.0	

(二十四) 世界捕鯨母船表

母船	總噸數	備考
諸威		
1. C. A. Larsen	13,246	
2. Kosmos	17,801	
3. Kosmos II	16,966	
4. Labor	4,479	斜路ナシ
5. Lancing	—	
6. N. T. Nielsen-Alonso	9,348	
7. Ole Wegger	12,201	
8. Pelages	12,083	
9. Sir James Clark Ross	14,362	
10. Skytteren	12,358	
11. Solglimt	12,246	
12. Strombus	6,549	
13. Suderöy	7,552	
14. Thorshammer	12,215	
計	159,282	

注意 No. 2 前漁期ハ操業セズ
No. 4 ハ1937年夏期アイスランド沿岸ニテ操業セリ
No. 12 ハ前漁期ハ操業セズ
其他ハ皆南氷洋ニ於テ操業セリ

母船	總噸數	備考
英國		
15. Anglo-Norse	7,988	
16. Hektoria	13,797	
17. New Sevilla	13,800	
18. Polar Chief	7,166	
19. Salvestria	11,938	
20. Sevilla	7,022	斜路ナシ
21. Sourabaya	10,107	
22. Southern Empress	12,398	
23. Southern Princess	12,156	
24. Svend Foyn	14,596	
25. Tafelberg	13,640	
26. Terje Viken	20,638	
27. Uniwaleco	9,755	
計	155,001	

注意 No. 15 ハ 1937年春ペルー沿岸ニテ操業セリ
No. 18 ハ前期操業セズ
No. 20 ハ 1930—31年以來操業セズ
其他ハ皆南氷洋ニ於テ操業セリ

母船	總噸數	備考
日本		
28. 日新丸	16,764	
29. 第二日新丸	18,000	
30. 圖南丸	9,839	
31. 第二圖南丸	16,760	
32. 第三圖南丸	16,760	
33. 極洋丸	16,760	
計	94,883	

注意 No. 32—33 ハ新造船

母船	總噸數	備考
獨乙		
34. Jan Wellem	11,776	
35; Südmeer	8,133	
36. Unitas	21,845	
37. Vikingen	14,526	Wikingerト改名ス
38. Walter Rau	15,000	
計	71,280	

注意 No. 37 ハ前漁期ハ操業セズ
其他ハ皆南氷洋ニ於テ操業セリ

母船	總噸數	備考
米國		
39. California	953	斜路ナシ
40. Frango	6,400	
41. Ulysses	10,780	
計	18,133	
パナマ		
42. Vestfold	14,547	

注意 No. 42 ハ前漁期南氷洋ニ於テ操業セリ

母船	總噸數	備考
アルゼンチン		
43. Ernesto Tornguist	6,547	斜路ナシ
ソ聯邦		
44. Aleut	5,055	斜路ナシ

注意 No. 43 ハ 1930—31年以後操業セズ
No. 44「ハカムサツカ」沿岸ニテ操業セリ

母船數	總噸數	備考
總計		
諸威 14	159,282	一母船ハ斜路ナシ
英國 13	155,001	〃
日本 6	94,883	
獨乙 5	71,280	
米國 3	18,133	
パナマ 1	14,547	
アルゼンチン 1	6,547	〃
ソ聯邦 1	5,055	〃
合計 44	524,728	五母船ハ斜路ナシ

(二十五) 捕鯨船調 (南氷洋母船式)

イ 造船年度別

造船年次及國籍							造船地											
年	諾威	英國	パナマ	獨乙	日本	亞國	Smith	Framnes	Akers	Kaldness	Nylands	Fredrikstad	Jarlsø	Porsgrunn	Moss	獨乙	日本	計
1920	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
1921	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1922	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1623	—	1	—	—	—	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1
1924	—	—	—	3	—	—	—	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	3
1925	6	6	2	3	1	—	8	2	2	2	—	—	3	1	—	—	—	18
1926	3	4	—	—	1	1	3	—	—	—	6	—	1	—	—	—	—	10
1927	2	2	2	—	—	2	—	—	—	2	3	—	2	—	—	—	—	7
1928	5	2	—	—	—	—	5	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	7
1929	25	20	2	1	—	2	24	—	8	5	8	1	3	—	1	—	—	50
1930	19	12	—	—	—	—	10	—	7	4	7	—	—	—	3	—	—	31
1931	1	2	—	—	—	—	—	—	1	—	2	—	—	—	—	—	—	3
1932	6	1	—	—	—	—	6	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7
1933	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1934	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1
1935	7	2	1	—	—	—	1	2	—	2	1	1	—	—	3	—	—	10
1936	11	23	2	6	11	—	9	4	—	3	2	—	—	—	3	21	11	53
1937	12	7	—	18	17	—	11	3	—	3	—	—	—	—	1	19	17	54
計	98	82	9	31	30	6	77	13	22	22	31	2	9	1	11	40	28	256

ロ 造船地及國籍

造船地	諾威	英國	パナマ	獨乙	日本	亞國	計
Smith	27	42	7	1	—	—	77
Framnaes	7	3	—	3	—	—	13
Akers	18	2	—	2	—	—	22
K ldnes	12	8	2	—	—	—	22
Moss	8	2	—	—	—	1	11
Fr. stad	1	1	—	—	—	—	2
Nyland	19	6	—	—	1	5	31
Jarlsø	5	2	—	1	1	—	9
Rorsgrunn	1	—	—	—	—	—	1
獨乙	—	16	—	24	—	—	40
日本	—	—	—	—	28	—	28

ハ I. H. P. 及國籍

I.H.P.	諾威	英國	パナマ	獨乙	日本	亞國	計
700	10	—	—	—	—	—	10
800	31	20	—	6	13	—	70
900	20	17	—	1	8	—	46
1000	3	2	3	—	—	—	8
1100	—	4	—	—	—	—	4
1200	8	16	2	—	—	6	32
1300	12	1	—	8	8	—	29
1400	8	11	4	—	1	—	24
1500	—	1	—	8	—	—	9
1600	—	1	—	7	—	—	8
1700	3	—	—	—	—	—	3
1800	2	8	—	—	—	—	10
1900	—	—	—	—	—	—	—
2000	—	—	—	—	—	—	—
2200	1	—	—	—	—	—	1
2400	—	—	—	1	—	—	1
2700	—	1	—	—	—	—	1

ニ 總頓數及國籍

總噸數	諾威	英國	パナマ	獨乙	日本	亞國	計
200	3	1	—	2	—	—	6
225	4	3	—	4	2	—	13
250	54	31	—	1	5	1	92
275	4	3	2	—	10	4	23
300	15	8	5	—	4	1	33
325	3	13	—	6	—	—	22
350	11	17	2	17	8	—	55
375	1	—	—	—	—	—	1
400	2	—	—	—	1	—	3
425	—	4	—	—	—	—	4
500	—	—	—	1	—	—	1
569	1	—	—	—	—	—	1
590	—	2	—	—	—	—	2

(二十六) 1937—38年度母船及捕鯨船總括 (南氷洋)

船籍	母船				捕鯨船				總	平均	全船隊ノ總噸數	模ノ百分率 (柴セル全捕鯨船 元モ一天年度操規)
	母船數	總噸計數	平總噸均數	全ノ百母噸分船數率	捕鯨船數	總總噸計數	平總噸均數	全ノ百捕噸分鯨船數率	I.H.P.	I.H.P.		
諾威	11	130,453	11,859	32.07	98	27,311	279	36.21	100,480	1,025	157,764	32.72
英國	10	132,825	13,283	32.66	82	25,059	306	33.22	93,690	1,143	157,884	32.75
日本	4	61,363	15,341	15.09	30	8,728	291	11,57	29,400	980	70,091	14.54
獨乙	4	56,754	14,199	13.95	31	9,881	319	13,10	42,500	1,371	66,635	13.82
パナマ	1	14,547	14,547	3.58	9	2,803	311	3.72	11,250	1,250	17,350	3.59
米國	1	10,780	10,780	265	—	—	—	—	—	—	10,780	2.24
アルゼンチン	—	—	—	—	6	1,641	273	2.18	7,200	1,200	1,641	0.34
計	31	406,722	13,120	100.00	256	75,423	295	100.00	284,520	1,111	482,145	100.00

(二十七) 捕獲鯨の體長 (1937—38年度南氷洋母船式)

イ 諾威母船隊

白長須

呎	頭數 ♂	頭數 ♀	計
58	—	1	1
59	—	—	—
60	—	1	1
61	—	—	—
62	1	1	2
63	4	1	5
64	11	6	17
65	15	10	25
66	23	17	40
67	12	14	26
68	15	14	29
69	5	8	13
70	96	82	178
71	108	82	190
72	124	66	190
73	118	67	185
74	129	98	227
75	180	92	272
76	165	86	251
77	178	86	264
78	239	106	345
79	238	119	357
80	296	138	434
81	236	101	337
82	174	122	296
83	144	134	278
84	99	148	247
85	64	131	195
86	23	124	147
87	19	123	142
88	4	91	95
89	4	67	71
90	2	67	69
91	—	24	24
92	1	10	11
93	—	5	5
94	—	6	6
95	—	3	3
計	2,727	2,251	4,978

平均 ♂ 77.64呎　♂ 54.78%
♀ 80.29〃　♀ 45.22%
計 78.81〃

長須

呎	頭數 ♂	頭數 ♀	計
50	2	—	2
51	—	—	—
52	—	4	4
53	2	3	5
54	1	1	2
55	24	16	40
56	31	26	57
57	36	33	69
58	46	32	78
59	86	51	137
60	128	87	215
61	131	78	209
62	181	64	245
63	221	99	320
64	313	104	417
65	538	141	679
66	654	125	779
67	772	173	954
68	698	195	893
69	556	240	796
70	379	345	724
71	182	358	540
72	107	379	486
73	41	371	412
74	19	339	358
75	16	284	300
76	5	182	187
77	1	101	102
78	3	45	48
79	—	14	14
80	—	11	11
81	—	3	3
82	—	1	1
計	5,173	3,905	9,078

平均 ♂ 66.32呎　♂ 56.98%
♀ 69.89〃　♀ 43.02%
計 67.68〃

座頭鯨

呎	頭數 ♂	頭數 ♀	計
30	1	1	2
31	1	—	1
32	2	3	5
33	2	1	3
34	3	—	3
35	13	3	16
36	9	8	17
37	14	11	25
38	12	7	19
39	29	10	39
40	19	20	39
41	11	19	30
42	14	29	43
43	20	33	53
44	12	28	40
45	7	27	34
46	1	11	12
47	1	10	11
48	2	9	11
49	1	4	5
50	—	2	2
51	—	—	—
52	—	—	—
53	—	1	1
計	174	237	411

平均 ♂ 39.75呎　♂ 42.34%
♀ 42.34〃　♀ 57.66%
計 41.12〃

白長須

	頭數	%
Ⅰ 群 (70呎以下)	337	6.77
Ⅱ 群 (71～85呎)	4 068	81.72
Ⅲ 群 (86呎以上)	573	11.51
計	4,978	100.00
未成熟 ♂	532	19.51
〃 ♀	646	28.70
計	1,178	23.66
成熟 ♂	2,195	80.49
〃 ♀	1,605	71.30
計	3,800	76.34

長須

	頭數	%
Ⅰ 群 (55呎以下)	53	0.58
Ⅱ 群 (56～65呎)	2,426	26.73
Ⅲ 群 (66呎以上)	6,599	72.69
計	9,078	100.00
未成熟 ♂	668	12.91
〃 ♀	598	15.31
計	1,266	13.95
成熟 ♂	4,505	87.09
〃 ♀	3,307	84.69
計	7,812	86.05

ロ 英國母船隊

白長須

呎	頭數 ♂	頭數 ♀	計
56	—	1	1
57	—	—	—
58	—	—	—
59	—	—	—
60	—	1	1
61	2	2	4
62	4	5	9
63	4	4	8
64	6	1	7
65	11	10	21
66	11	4	15
67	15	13	28
68	16	12	28
69	5	9	14
70	207	168	375
71	123	116	239
72	116	83	199
73	111	82	193
74	125	101	226
75	186	129	315
76	164	99	263
77	180	92	272
78	165	105	270
79	162	99	261
80	201	122	323
81	163	109	272
82	153	131	284
83	113	102	215
84	98	114	212
85	50	113	163
86	31	115	146
87	26	98	124
88	12	68	80
89	3	57	60
90	3	51	54
91	4	25	29
92	—	20	20
93	—	13	13
94	—	5	5
95	—	4	4
96	—	2	2
97	—	2	2
計	2,470	2,287	4,757

平均 ♂ 77.06呎　♂ 51.92%
♀ 79.32〃　♀ 48.08%
計 78.15〃

長須

呎	頭數 ♂	頭數 ♀	計
48	—	1	1
49	—	1	1
50	—	1	1
51	1	1	2
52	—	1	1
53	2	2	4
54	3	4	7
55	36	26	62
56	48	39	87
57	52	38	90
58	68	53	121
59	55	58	113
60	215	111	326
61	155	74	229
62	223	114	337
63	287	126	413
64	333	133	466
65	574	204	778
66	519	167	686
67	560	226	786
68	675	257	932
69	472	232	704
70	467	391	858
71	221	258	479
72	161	356	517
73	76	299	375
74	39	327	366
75	21	293	314
76	9	131	140
77	5	96	101
78	1	58	59
79	1	31	32
80	—	13	13
81	—	5	5
82	—	2	2
83	—	1	1
計	5,279	4,130	9,409

平均 ♂ 66.20呎　♂ 56.11%
♀ 69.20〃　♀ 43.89%
計 67.52〃

座頭

呎	頭數 ♂	頭數 ♀	計
30	—	1	1
31	2	3	5
32	1	2	3
33	9	4	13
34	3	12	15
35	40	50	90
36	42	24	66
37	29	27	56
38	18	23	41
39	21	20	41
40	41	42	83
41	30	24	54
42	23	34	57
43	22	45	67
44	13	38	51
45	21	43	64
46	9	29	38
47	8	34	42
48	2	22	24
49	2	7	9
50	1	9	10
51	—	2	2
52	—	3	3
計	337	498	835

平均 ♂ 39.51呎　♂ 40.36%
♀ 41.50〃　♀ 59.64%
計 40.70〃

白長須

	頭數	%
Ⅰ群（70呎以下）	511	10.74
Ⅱ群（71～85呎）	3,707	77.93
Ⅲ群（85呎以上）	539	11.33
計	4,757	100.00
未成熟 ♂	631	25.55
〃 ♀	840	36.73
計	1,471	30.92
成熟 ♂	1,839	74.45
〃 ♀	1,447	63.27
計	3,286	69.08

長須

	頭數	%
Ⅰ群（55呎以下）	79	0.84
Ⅱ群（56～65呎）	2,960	31.46
Ⅲ群（66呎以上）	6,370	67.70
計	9,409	100.00
未成熟 ♂	858	16.25
〃 ♀	783	18.96
計	1,641	17.44
成熟 ♂	4,421	83.75
〃 ♀	3,347	81.04
計	7,768	82.56

ハ 獨逸母船隊

白長須

呎	頭數 ♂	頭數 ♀	計
56	—	1	1
63	1	2	3
64	—	1	1
65	3	3	6
66	2	—	2
67	4	2	6
68	1	3	4
69	4	1	5
70	57	48	105
71	34	13	47
72	40	28	68
73	33	25	58
74	36	27	63
75	93	74	167
76	78	40	118
77	56	41	97
78	70	41	111
79	62	42	104
80	88	34	122
81	56	34	90
82	48	39	87
83	42	30	72
84	35	49	84
85	28	35	63
86	20	49	69
87	7	35	42
88	5	28	33
89	1	29	30
90	—	17	17
91	—	12	12
92	—	5	5
93	1	6	7
94	—	5	5
95	—	3	3
96	—	1	1
97	—	1	1
98	—	1	1
計	905	805	1,710

平均 ♂ 77.57呎　♂ 52.92%
♀ 80.09〃　♀ 47.08%
計 78.76〃

長須

呎	頭數 ♂	頭數 ♀	計
55	12	12	24
56	21	21	42
57	18	11	29
58	25	23	48
59	25	15	40
60	71	51	122
61	64	38	102
62	66	46	112
63	70	39	109
64	126	53	179
65	193	62	255
66	178	57	235
67	215	78	293
68	186	86	272
69	163	76	239
70	151	132	283
71	70	109	179
72	42	105	147
73	27	131	158
74	5	131	136
75	8	86	94
76	5	63	68
77	—	39	39
78	1	29	30
79	—	20	20
80	1	11	12
81	—	5	5
計	1,743	1,529	3,272

平均 ♂ 66.07呎　♂ 53.27%
♀ 69.35〃　♀ 46.73%
計 67.60〃

座頭

呎	頭數 ♂	頭數 ♀	計
34	1	1	2
35	6	9	15
36	7	4	11
37	7	3	10
38	3	4	7
39	6	1	7
40	10	5	15
41	1	11	12
42	7	5	12
43	3	8	11
44	11	9	20
45	3	13	16
46	1	8	9
47	—	6	6
48	—	7	7
49	—	8	8
50	—	1	1
51	—	2	2
計	66	105	171

平均 ♂ 39.88呎　♂ 38.60%
♀ 42.96〃　♂ 61.40%
計 41.77〃

白長須

	頭數	%
Ⅰ群（70呎以下）	133	7.78
Ⅱ群（71～85呎）	1,351	79.01
Ⅲ群（86呎以上）	226	13.21
計	1,710	100.00
未成熟 ♂	179	19.78
〃 ♀	268	33.29
計	447	26.14
成熟 ♂	726	80.22
〃 ♀	537	66.71
計	1,263	73.86

長須

	頭數	%
Ⅰ群（55呎以下）	24	0.73
Ⅱ群（56～65呎）	1,038	31.73
Ⅲ群（66呎以上）	2,210	67.54
計	3,272	100.00
未成熟 ♂	302	17.33
〃 ♀	309	20.21
計	611	18.67
成熟 ♂	1,441	82.67
〃 ♂	1,220	79.79
計	2,661	81.33

ニ 27母船隊合計 （日本ノ母船ヲ除ク）

白長須

呎	頭數 ♂	頭數 ♀	計
56	—	2	2
58	—	1	1
60	—	4	4
61	3	3	6
62	5	6	11
63	9	8	17
64	17	8	25
65	30	26	56
66	36	23	59
67	32	32	64
68	35	32	67
69	14	18	32
70	399	334	733
71	286	225	511
72	305	195	500
73	278	189	467
74	302	244	546
75	480	318	798
76	428	244	672
77	435	233	668
78	523	265	788
79	490	272	762
80	631	324	955
81	477	254	731
82	418	318	736
83	324	287	611
84	265	345	610
85	164	305	469
86	85	314	399
87	60	288	348
88	23	203	226
89	9	175	184
90	5	163	168
91	4	73	77
92	1	39	40
93	1	28	29
94	—	17	17
95	—	13	13
96	—	4	4
97	—	3	3
98	—	1	1
計	6,574	5,836	12,410

平均 ♂ 7[illegible].45呎　♂ 52.97%
♀ 79.92〃　♀ 47.03%
計 78.61〃

長須

呎	頭數 ♂	頭數 ♀	計
48	1	1	2
49	—	1	1
50	3	1	4
51	1	1	2
52	—	7	7
53	6	5	11
54	4	5	9
55	80	62	142
56	104	93	197
57	119	85	204
58	150	121	271
59	175	128	303
60	440	271	711
61	375	199	574
62	495	235	730
63	622	284	906
64	810	309	1119
65	1365	435	1800
66	1438	370	1808
67	1649	516	2165
68	1672	578	2250
69	1300	593	1893
70	1140	956	2096
71	529	776	1305
72	371	937	1308
73	174	863	1037
74	72	882	954
75	54	766	820
76	22	450	472
77	9	285	294
78	7	174	181
79	2	78	80
80	1	36	37
81	—	16	16
82	—	4	4
85	—	1	1
計	13,190	10,524	23,714

平均 ♂ 66.31呎　♂ 55.62%
♀ 69.64〃　♀ 44.[illegible]8%
計 67.7[illegible]〃

座頭

呎	頭數 ♂	頭數 ♀	計
30	2	3	5
31	3	4	7
32	3	5	8
33	11	5	16
34	9	13	22
35	64	67	131
36	62	37	99
37	54	45	99
38	40	37	77
39	59	35	94
40	82	73	155
41	45	59	104
42	51	73	124
43	51	92	143
44	41	80	121
45	34	87	121
46	14	48	62
47	10	56	66
48	5	45	50
49	5	19	24
50	1	16	17
51	—	6	6
52	—	4	4
53	—	1	1
計	646	910	1556

平均 ♂ 39.71呎　♂ 41.52%
♀ 41.96〃　♀ 58.48%
計 41.03〃

白長須

	頭數	%
Ⅰ 群（70呎以下）	1,077	8.68
Ⅱ 群（71～85呎）	9,824	79.16
Ⅲ 群（86呎以上）	1,509	12.16
計	12,410	100.00
未成熟 ♂	1,449	22.04
〃 ♀	1,912	32.76
計	3,361	27.08
成熟 ♂	5,125	77.96
〃 ♀	3,924	67.24
計	9,049	72.92

長須

	頭數	%
Ⅰ 群（55呎以下）	178	0.75
Ⅱ 群（56～65呎）	6,815	28.74
Ⅲ 群（66呎以上）	16,721	70.51
計	23,714	100.00
未成熟 ♂	1,953	14.81
〃 ♀	1,808	17.18
計	3,761	15.86
成熟 ♂	11,237	85.19
〃 ♀	8,716	82.82
計	19,953	84.14

(二十八) 捕鯨母船操業一覽表 1930—1938年

1930—31	1932—33	1933—34	1934—35	1935—36	1936—37	1937—38
操業母船名	操業母船名	操業母船名	操業母船名	操業母船名	操業母船名	操業母船名
Anglo-Norse	—	—	—	—	—	—
Antarctic	—	—	圖南丸	圖南丸	圖南丸	圖南丸
C.A.Larsen	—	—	—	—	C.A.Larsen	C.A.Larsen
Congo	—	—	1934年解體ノ爲賣却	—	—	—
Ernesto Tornquist	—	—	—	—	—	—
Esperanza	—	—	—	—	—	1937年解體ノ爲賣却
Falk	—	—	—	—	1936年解體ノ爲賣却	—
Frango	—	—	—	—	—	—
Fraternitas	—	—	—	—	Fraternitas	Uniwaleco
Hektoria	Hektoria	Hektoria	Hektoria	Hektoria	Hektoria	Hektoria
Kosmos	Kosmos	Kosmos	Kosmos	Kosmos	Kosmos	—
Lancing	Lancing	—	Lancing	Lancing	Laneing	Lancing
Maudie	—	—	—	Maudie	—	母船ノ設備ヲ取除ク
N.T.Nielsen-Alonso	—	N.T.Nielsen-Alonso	—	N.T.Nielsen-Alonso	N.T.Nielsen-Alonso	N.T.Nielsen-Alonso
NewSevilla	NewSevilla	NewSevilla	NewSevilla	NewSevilla	NewSevilla	NewSevilla
OleWegger	OleWggeer	OleWegger	OleWegger	Ole Wegger	OleWegger	Ole Wegger
Orwell	—	—	—	—	—	1937年Tank ship＝改造
Pelagos	—	Pelagos	Pelagos	Pelagos	Polagos	Pelagos
—	—	—	Pioner	—	—	廢船
Polar Chief	—	—	—	—	Polar Chief	—
Pontos	—	—	1934年解體ノ爲賣却	—	—	—
Ready	—	—	1934年解體ノ爲賣却	—	—	—
Roald Amundsen	—	—	—	—	—	—
Ronala	—	—	—	—	—	母船トシテノ設備ヲ除ク

1930—31	1932—33	1533—34	1634—35	1935—36	1936—37	1937—38
操業母船名	操業母船名	操業母船名	操業母船名	操業母船名	操業母船名	操業母船名
Salvestria	Salvestria	Salvestria	Salvestria	Salvastria	Salvestria	Salvestria
Sevilla	—	—	—	—	—	—
S. J. Clark Ross	S. J. Clark Ross	S. J. Clark Ross	S. J. Clark Ross	S. J. Clark Ross	S. J. Clark Ross	S. J. Clark Ross
Skytteren	Skytteren	Skytteren	Skytteren	Skytteren	Skytteren	Skytteren
Solglimt	Solglimt	Solglimt	Solglimt	Solglimt	Solglimt	Solglimt
Solstreit	—	—	—	1935年解體ノ爲賣却	—	—
Saragossa	1932年焼失	—	—	—	—	—
Sourabaya	Sourabaya	Sourabaya	Sourabaya	Sourabaya	Sourabaya	Sourabaya
S. Empress	S. Empress	S. Empress	S. Empress	S. Empress	S. Empress	S. Empress
S. Princess	S. Princess	S. Princess	S. Princess	S. Princess	S. Princess	S. Princess
Strombus	—	—	Strombus	—	Strombus	—
Suderøy	—	Suderøy	Suderøy	Suderøy	Suφdery	Suderøy
Svend Foyn I	—	—	1934年解體ノ爲賣却	—	—	—
Tafelbery	Tafelbery	Tafelbery	Tafelbery	Tafelbery	Tafelbery	Tafelbery
Thor I	—	—	—	—	—	1937年解體ノ爲賣却
Thor-shammer	Thor-shammer	Thor-shammer	Thor-shammer	Thor-shammer	Thor-shammer	Thor-shammer
Torodd	—	—	Sydis	Sydis	Sydis	Südmeer
Vikingen	—	—	—	Vikingen	Vikingen	—
—	Vestfold	Vestfold	Vestfold	Vestfold	Vestfold	Vestfold
—	Kosmos II	Kosmos II	Kosmos II	Kosmos II	Kosmos II	Kosmos II
—	Svend Foyn	Svend Foyn	Svend Foyn	Svend Foyn	Svend Foyn	Svend Foyn
—	—	—	—	—	Terje Viken	Terje Viken
—	—	—	—	—	日新丸	日新丸
—	—	—	—	—	jan Wellem	jan Wellem
—	—	—	—	—	—	第二圖南丸
—	—	—	—	—	—	第二圖南丸
—	—	—	—	—	—	Unitas
—	—	—	—	—	—	WalterRau
—	—	—	—	—	—	Ulysses
計41隻	17隻	19隻	23隻	24隻	30隻	31隻

(二十九) 外國捕鯨

母……母船　運……運搬船

(威諾)

會社名	設立年	資本金 (クローネ)	所屬母船、運搬船、陸上作業場
„Antarctic" A/S, H.	1928	2,500,000	—
Ankra Hval A/S	1925	105,000	陸 Mere
Blomvaoog Hval A S	—	43,000	陸 Blomvaag
Blaahval A/S, H.	1936	50,000	母 C. A. Larsen
Bryde & Dabls H, A S	—	—	母 Thorshammer
Finnhval A S H.	1936	50,000	母 Skytteren
„Globus" A S, H.	1925	400,000	母 Lancing
„Haugar" A S, H.	1933	223,000	母 Haugar
„Hektor" A S	1910	700,000	陸 Deception 運 „Ronold"
Kosmos A S, H.	1928	4,500,000	母 Kosmos
Kosmos II A S H	1930	4,500,000	母 Kosmos II
Labor H.	1937	600,000	母 Lobor
Norsk Hvalfangst A S	1920	500,000	陸 Hestnes
Old, A/S	1920	5,440,000	母 Solglimt
„Pelagos" A S. H.	1928	2,800,000	母 Pelagos
„Polaris" A/S. H.	1926	400,000	母 N.T. Nielson Alonso
„Rossha et" H	1923	3,500,000	母 Sir james clar k Ross
Sevilla, Aktieselskapet	—	200,000	母 Strombus
Suderøy. H.	1928	340,000	母 Suderøy
Sæbjørnsen, Br/dr.	1925	—	陸 Harøy
Tønsbergs H. A/S.	1907	3,840,000	陸 Syd georgia 運 Orwell
„Ornen" A S	1903	9,123,000	母 Ole Wegger

會社一覽表

陸……陸上作業場　　* 印抹香油

捕鯨船數	漁場	乘組作業員數	捕獲成績 (バレル) 1935/36	1936/37	1937/38	備考
2	—	—	—	—	—	Folklanb Shipswners Limited ヨリ傭船
2	諸威西岸	—	691	—	* 2,004 991	
3	同上	—	* 1,909 74	—	* 1,000 198	
6	南氷洋	279	—	57,592	* 83,800 2,150	獨乙ニ傭船サル
9	同上	290	* 96,163 2,518	* 91,228 4,350	* 105,200 2,975	
6	同上	321	—	* 70,230 6.396	* 90,860 3,940	獨乙ニ傭船サル
7	同上	239	* 64,575 658	* 68,158 286	* 73,450 95	
5	西アフリカ	—	9,669	—	—	Slipway ナシ
3	—	—	—	—	—	ゲアノ工場
11	南氷洋	—	* 119,987 859	* 115,863 1,746	—	
10	同上	350	* 120,006 924	* 118,675 544	* 147,300 700	
4	北氷洋	—	* —	—	* 8,172 1,690	Slipway ナシ
3	諸威西岸	—	* 1,144 603	—	* 1,612 50	
9	南氷洋	291	* 96,197 2.609	* 76,148 3,678	* 110,530 6,700	
8	同上	316	* 95,995 2,098	* 105,224 2,900	* 126,300 6,000	
8	同上	252	* 64,160 115	* 76,252 549	* 80,900 370	
12	同上	334	* 122,976 55	* 114,094 748	* 134,500 1,400	
1	同上	—	—	* 43,121 35	—	
6	同上	203	44,230	50,030	* 53,656 44	
4	諸威西岸	—	* 3,159 415	—	* 3,303 309	
9	—	—	—	—	—	ゲアノ工場
9	南氷洋	289	* 97,257 4,841	* 92,554 6,542	* 121,470 4,630	

（其他）

會社名	漁場	所屬母船、運搬船、陸上作業場	捕鯨船數	乘組作業員數	捕獲成績（バレル） 1935/36	1936/37	1937/38	備考
American Pacific Whaling Company	アラスカ	陸 2ケ所	7	—	13,452	—	14,303	
The American Whaling Company Inc	オーストラリヤ	母 Frango	—	195	* 3,873 61,019	—	* 3,365 52,896	
California Whaling Company	カリホルニア	母 California	2	—	* 50 2,490	—	* 117 1,002	Slipway ナシ
Conpania Argentina de pesca S. A.	南ジョージヤ	陸 グアノ工場	5	402	* 112 △ 75,128	44,862	—	△之ノ外海豹油約 9,600 バレルアリ
〃 〃 〃	同上	母 Frnests Tornquist	4	—	* 64	* 2,515	—	Slipway ナシ
Consolidated Whaling Corporation Ltd.	ブリテイツシヨコロンビヤ	陸 1ケ所	1	—	—	—	—	
Erste Pentoche Walfang-Gesellshoft m. b. H.	南氷洋	母 Ian Wellerm	6	367	—	60,939	67,359	
Falkland Shipownors Ltd	濠洲—ペルー	母 Anglo-Norse	5	—	60,644	* 1,053 7,200	* 2,041	
Falklaud Whaling Company Ltd	南氷洋	母 Polar Chief	6	45	* 500	* 36,000 41,920	—	
Frango Corporatin	同上		3	—	—	—	—	
Grønlands Styrelse	グリーンランド		1	—	—	—	—	
Hans Ellefsen Ltd	サルダナ灣	陸 グアノ工場	—	—	—	—	—	
Hektoria Limited	南氷洋	母 Hektoria	5	295	106,130	71,287	94,000	
Irvin & Iohnson (South africa) Ltd	サルダナ灣	陸 1ケ所	12	—	* 27,449 4,350	* 1,094 —	* 3,100 26,369 * 8,146	
The Kerguelen Sealing & Whaling Co. Ltd	南氷洋	母 Tafellerg		345	125,806	81,663	117,000	
Kopur	Denmork-Strait	陸	2	—	3,158	714	* 300 1,726	
Margarine-Rohstoff-Beschaffungs-gesellschaft m. b. H. Berlin	南氷洋	母 C. A. Larsen	7	279	* 257 —	—	* 1,136 83,800	諸威ヨリ傭船
〃 〃 〃	同上	母 Skytteren	6	321	—	56,709 853 70,320	2,150 90,860	〃
Mortensen Gudmund	フアロー島	陸	3	85	2,400	* 6,596	* 3,940 2,945	
Newfoundland Whaling Co. Ltd	ニユフアウンドランド及ラブラドール	陸 3ケ所	3	—	* 572 6,272	—	* 254 18,250	
Oelmühlen-Walfang-Konaortinm. Berlin	南氷洋	母 Südmeer	7	—	* 914 —	—	* 825 59,970	
Olna Whaling Co. Ltd.	シエツトランド	陸 及グアノ工場	—	—	—	—	* 200 —	
Polar Whaling Co. Ltd.	南氷洋	母 Sevilla	3	—	—	—	—	Slipway ナシ
The Premier Whaling. Co. Ltd.	ナタール沿岸	陸	6	—	—	—	—	

會社名	漁場	所屬母船、運搬船、陸上作業場	
Sevilla Whaling Co. Ltd.	南氷洋	母	New Sevilla
Soviet Russia	カムチヤツカ	母	Aleut
Star Whaling Company Ltd.	南氷洋	母	Svend Foyn
The South Georgia Co. Ltd.	同上	母	Salvestria
		母	Sourabaya
		陸	2ケ所及グアノ工場
		運	Corsnda, Soluter Peder Bogen
The Southern Whaling & Sealing Co. Ltd.	同上	母	Southern Fmpress
	同上	母	Southern Princess
The Union Whaling Co. Ltd.	ナタール沿岸	陸	
	アフリカー南氷洋	母	Uniwaleco
Unitas Edpedition	南氷洋	母	Unitas
United Whalers Limited	同上	母	Terje Viken
Vestfold Corporation	同上	母 陸	Vestfold 南ジョージヤ
Viking Corporation	同上	母	Vikingen
Walter Ran Neusser Oelwerke A. G. Bremen	同上	母	Welter Ran
Western Operating Corporation	濠洲—南氷洋	母	Ulysses

備考 Norsk Hvalfangst-Tidende Nr. 8. 1938 に據る。

捕鯨船數	乘組作業員數	捕獲成績（バレル） 1955/56	1936/37	1937/38	備考
7	—	99,113	107,083 * 3,000	118,608 * 1,080	
3	—	12,817 * 5,421	—	6,776 * 9,504	Slipway ナシ
9	330	130,300	95,635 * 4,658	124,225 * 2,500	
} 34	353	107,562	94,001 * 2,640	129,482 * 1,592	
	333	92,318	86,546	107,892	
	325	68,000	43,121 * 35	—	
—	—	—	34,300 * 1,210	—	
8	342	143,249	125,685	105,282 * 570	
8	332	119,166	125,515 * 190	112,988 * 125	
18	—	37,462 * 26,908	—	53,103 * 14,871	
5	—	—	73,883 * 287	77,000 * 240	
8	—	—	—	117,500 * 462	
9	418	—	102,826 * 967	111,500 * 5,950	
8	335	114,963 * 1,552	105,509 * 2,149	116,000 * 500	
7	53	88,029 * 1,238	70,935 * 2,901	—	本船ハ獨乙ニ賣却セラレ wikinger ト改名セリ
8	—	—	—	107,330 * 14,10	
—	—	—	—	114,000	

(三十) 外國捕鯨船の操業成績 (1937—38)

(Hvalfangstliv Nr. 1938 に據る)

母船名	捕獲船名	砲手名	捕獲頭數	備考
Ulysses	Koss 6	Ole Iversen	201	
	Koss 7	Nils Iversen	211	
	Koss 9	Th Fagerli	201	
	Koss 11	Th Hansen	223	
	Koss 14	Johs Andersen	216	
	H. J. Bull	Mauritz Martinsen	378	
Sir James	Star 14	Ludvig Jørgensen	244	
Clark Ross	Star 16	Willy Andersen	151	
Sir James	Star 18	J. Kristoffersen	90	1月9日より
Clark Ross	Star 19	Pettersen	191	
	Star 20	Fredriksen	196	
	Star 21	Otto Olsen	229	
	Star 22	Anton Engeli	236	
	Star 23	Ingm Martinsen	241	
	Star 24	Mikkelsen	249	
Thorshammer	Ottern	Hans Hansen	260	
	Amos	A. Hansen	212	
	Thorfjell	A. Omli	175	
	Gribb	M. Arnesen	154	
	Thorlyn	M. Olsen	150	
	Torrarin	J. Fremstad	130	
	Thorgaut	A. Liverød	132	
	Thordr	L. Fremstad	42	
Pelagos	Gos 1	Harald Hansen	280	
	Gos 2	Torger Kaspersen	188	
	Gos 3	Th. Andreasen	83	
	Gos 4	Julius Jahre	121	
	Gos 6	Nils Jhonsen	250	
	Gos 7	Carsten Andersen	231	
	Gos 8	Karsten Kristensen	231	
	Gos 9	Andreas Antonsen	339	

母船名	捕鯨船名	砲手名	捕獲頭數	備考
Ole Wegger	Falk	K. Johansen	212	
	Klo	B. Andersen	257	
	Scott	Sverre Hansen	275	
	Nebb	Sigv Krathe	178	
	Bever	H. Jerpekjønm	234	
	ørnen	Th. Gulliksen	165	
	Thorvard	J. Johansen	186	
	Oter	Vindahl og Henriksen	86	2名
Suderøy	Suderøy 1	Thoresen	169	
	Suderøy 2	Mikkelsen	128	
	Suderøy 4	Hansen	167	
	Suderøy 5	Jacobsen	142	
	Suderøy 6	Martinsen	135	
Solglimt	Enern	B. Andersen	145	
	Toern	P. Berg	169	
	Treern	J. Breien	166	
	Eireren	J. Andersen	92	
	Femern	O. Olsen	30	
	Clifford	L. Basberg	249	
	Sekseren	H. Larsen	154	
	Syveren	S. Larsen	154	
	Tordøn	I. Marthinsen	146	
Svend Foyn	Helier 1	Nils Nilsen	272	
	Helier 2	Jul Andersen	251	
	Polar 5	Daniel Hansen	205	
	Busen 8	Harald Hansen	230	
	Busen 9	Ottmar Samuelsen	236	
	Busen 10	Olof Larsen	220	
	Busen 11	Peder Jacobsen	183	
	Busen 6	Lars Larsen	56	
	Polar 6	Haakon Vivesatd	50	
N. T. Nielsn-Alonso	Pol 3	Ole Hansen	120	
	Pol 4	Olafsen	102	
	Pol 6	Olaf Hansen	179	

母船名	捕鯨船名	砲手名	捕獲頭數	備考
	Pol 7	Marius Mikkelsen	176	
	Pol 8	A. Kristensen	216	
	Pol 9	Sigurd Andersen	281	
	Pol 10	Alfr Andersen	259	
Vestfold	Vestfold 1	Aksel Andersen	176	
	Vestfold 2	Finar Hansen	171	
	Vestfold 3	Karl Skontorp	172	
	Vestfold 4	Helge Hansen	89	
	Vestfold 5	Arne Moe	144	
	Vestfold 6	Iver Iversen	186	
	Vestfold 8	Johan Kjellström	234	
	Vikingen 6	Alfred Skontorp	227	
Terje Viken	Terje 1	Hilmar Hansen	152	
	Terje 2	Erling Karlsen	161	
	Terje 3	Bjarne Borgan	209	
	Terje 4	Asbj Kronaas	193	
	Terje 5	Didrik Solberg	188	
	Terje 6	Søren Beckmann	232	
	Terje 8	Daniel Aurstad	145	
Hektoria	Hektor 3	Marius Jacobsen	151	
	Hektor 4	Finn Ellefsen	153	
	Hektor 5	Johan Teodorsen	192	
	Hektor 6	Georg Kristiansen	204	
	Hektor 7	Victor Kristiansen	185	
	Kai	Karl Johansen	157	
	Terje 9	Frithjof Thoresen	223	
Tafelberg	Oddberg	S. Thoresen	185	
	Sydostlandet	N. Nielsen	183	
	Sørbøia	G. Johansen	98	
	Imhof	Ekenes	32	
	Gun	Kr. Engeli	172	
	Stenberg	Haakonsen	187	
	Stellenberg	T. Olsen	171	
	Sederberg	A. Hansen	260	

母船名	捕鯨船名	砲手名	捕獲頭數	備考
	Bleuvberg	E. Karlsen	246	
	Kometje	B. Karlsen	201	
Southern	Southern Pride	Hj Freberg	253	
Princess	Southern Isles	Theodor Hansen	197	
	Southern Maid		172	砲手3名乘組ミ操業
	Southern Sea	Sigurd Nilsen	225	
	Southern Flower	Olaf Karlsen	189	
	Southern Spray	A. Johannessen	181	
	Southern Chief	Bjarne Larsen, H. Wilhelmsen	128	2名
Southern	Southern Gem	Ingv. Antonsen	223	
Empress	Southern Floe	Oskar Thoresen	148	
	Southern Barrier	Hans Hansen	206	
	Southern Breeze	Jørgen Hansen	226	
	Southern Star	O. Wivestad	188	
	Southern Shore	Sig Andersen, Holger Pedersen	141	2名
	Southern Wave	John Antonsen	177	
	Southern Foam	Ludu. Liverød, Arnold Hansen, Mauritz Pettersen	97	3名
C. A, Larsen	Hval 2	Magne Nielsen	150	
	Hval 3	Olaf Jacobsen	166	
	Hval 4	Thorbjørn Larsen	161	
	Hval 5	Andersen Ula	141	
	Hval 6	Ernst Meyer	162	
	Hval 7	Soren Soresen	164	
	Southern Field	Asbj Schulstock	121	
Walter Rau	Rau 1	Alf Andreasen	232	
	Rau 2	Salomon Jorgensen	148	
	Rau 3	Arth, Iversen	164	
	Rau 4	Sivert Gjelstad	236	
	Rau 5	Jean Evensen	241	
	Rau 6	M. Martinsen	270	
	Rau 7	Alfred Pedersen	172	
	Rau 8	Alfred Andersen	240	
N w Sevilla	Sarsra	Jakob Jakobsen	293	

母船名	捕鯨船名	砲手名	捕獲頭數	備考
	Sondra	Thorvald Olsen	255	
	Sahra	Rolf Moe	212	
	Santa	Mikarlsen	201	
	Bouvet 2	Jørgen Abrahamsen	174	
	Bouvet 4	Bergstedt	168	
	Shirra	Alb. Jakobsen	156	
	Silja	Bjerke	83	
	Shera	Hansen, Flatten	60	2名
Unitas	Unitas 1	Arnt Karlsen	203	
	Unitas 2	Martin Karlsen	203	
	Unitas 3	Birth Ronander	178	
	Unitas 4	Alf Andersen	189	
	Unitas 5	Bredo Rimstad	229	
	Unitas 6	Aksel Hansen	248	
	Unitas 7	Arne Olsen	208	
	Unitas 8	Stokken Nielsen	257	
Skytteren	Skudd 1	Sohlsten	126	
	Skudd 2	Harald Andersen	15[illegible]	
	Skudd 3	Endresen	151	
	Skudd 4	Edv. Skontrop	190	
	Skudd 5	Jens Berntsen	169	
	Skudd 6	Eiv Evensen	162	
	Skudd 8	Rolf Berntsen	13[illegible]	
Südmeer	Süd 1	M. Martinsen	124	
	Süd 2	Joks Westdhal	86	
	Süd 3	Sev Ellefsen	137	
	Süd 4	Nils Jespersen	180	
	Süd 5	Søren Gram	160	
	Süd 6	And. Jespersen	18	

附　　錄

母船式漁業取締規則

昭和九年七月二十五日　農林省令第十九號
昭和十一年六月二十三日　農林省令第十二號
昭和十三年六月八日　農林省令第二十二號
昭和十三年十一月十八日　農林省令第四十二號

第一章　總　則

第一條　左ニ掲グル母船式漁業ハ漁業法第三十五條第一項ノ規定ニ依リ農林大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

一　母船式蟹漁業

二　母船式鱒鮭漁業

三　母船式鯨漁業

前項ニ於テ母船式蟹漁業ト稱スルハ罐詰製造設備ヲ有スル母船又ハ其ノ附屬漁船ニ依リ爲ス蟹漁業ヲ謂ヒ母船式鮭鱒漁業ト稱スルハ製造若ハ保藏ノ設備ヲ有スル母船又ハ其ノ附屬漁船ニ依リ爲ス鮭鱒漁業ヲ謂ヒ母船式鯨漁業ト稱スルハ鯨體處理設備ヲ有スル母船ノ附屬漁船ニ依リ爲ス鯨漁業ヲ謂フ

第二條　本則ニ於テ搭載附屬漁船ト稱スルハ母船ニ搭載スル附屬漁船ヲ謂ヒ獨航附屬漁船ト稱スルハ母船ニ搭載セザル附屬漁業ヲ謂フ

第三條　第一條第一項各號ニ掲グル母船式漁業ノ許可ヲ受ケントスル者ハ漁業毎ニ申請書ニ左ニ掲グル書類ヲ添附シ農林大臣ニ之ヲ提出スベシ

一　様式第一號ニ依ル事業計畫書

二　許可ヲ受ケントスル者法人ナルトキハ定款、登記簿ノ謄本、財產目錄及貸借對照表

三　二人以上共同シテ許可ヲ受ケントスルトキハ事業ニ關スル各共同者ノ出資額及權利義務ノ關係ヲ記載シタル書類

二人以上共同シテ許可ヲ受ケントスルトキハ内一人ヲ代表ト定メ其ノ氏名又ハ名稱ヲ申請書ニ記載スベシ

第一項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第四條　農林大臣母船式漁業ノ許可ヲ爲シタルトキハ様式第二號ニ依ル許可證ヲ交付ス

第五條　母船式漁業ノ許可ノ期間ハ五年以内トス

第六條　母船式漁業者ハ農林大臣ノ承認ヲ受ケタル母船ニ非ザレバ其ノ漁業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第七條　母船式漁業者前條ノ承認ヲ受ケントスルトキハ母船毎ニ申請書ニ左ニ掲グル書類ヲ添附シ農林大臣ニ之ヲ提出スベシ

一　船舶國籍證書寫及漁船檢査證書寫

二　様式第三號ニ依ル母船設備明細書

前項ノ申請書提出ノ際同項各號ニ掲グル書類ヲ提出スルコト能ハザル場合ニ於テハ之ニ代ヘ様式第四號ニ依ル船舶件名書ヲ提出スベシ

前項ノ規定ニ依リ船舶件名書ヲ提出シ前條ノ承認ヲ受ケタル者ハ農林大臣ノ指定スル期間内ニ第一項各號ニ掲グル書類ヲ提出スベシ

第八條　農林大臣母船使用ノ承認ヲ爲シタルトキハ様式第五號ニ依ル母船使用承認證ヲ交付ス但シ前條第二項ノ場合ニ於テハ同條第三項ノ規定ニ依リ當該書類ヲ提出シタル後之ヲ交付ス

第九條　母船式漁業者ハ母船使用承認證ヲ母船内ニ保持シ其ノ兩舷及附屬漁船ノ最モ見易キ場所ニ様式第六號ニ依ル母船使用承認番號ヲ表記スベシ

母船式漁業者ハ操業中様式第七號ニ依ル旗章ヲ母船及附屬漁船ノ最モ見易キ場所ニ掲揚スベシ

第十條　母船式漁業ハ許可證又ハ母船使用承認證ニ記載シタル條件若ハ制限又ハ第十九條、第二十條若ハ第二十一條ノ規定ニ依ル制限若ハ停止ノ處分

ニ違反シテ之ヲ營ムコトヲ得ズ

第十一條　許可證ニ記載シタル條件又ハ制限ノ變更ノ許可ヲ受ケントスル母船式漁業者ハ其ノ事由ヲ具シ申請書ヲ農林大臣ニ提出スベシ母船使用承認證ニ記載シタル條件又ハ制限ノ變更ノ承認ヲ受ケントスル者ニ付亦同ジ

第十二條　母船式漁業者ハ農林大臣ノ交付シタル様式第八號ニ依ル附屬漁船票ニ非ザレバ母船式漁業ノ爲之ヲ使用シ又ハ母船ニ之ヲ搭載スルコトヲ得ズ

母船式漁業者附屬漁船票ノ交付ヲ受ケントスルトキハ搭載附屬漁船ニ在リテハ母船毎ニ様式第九號ニ依ル申請書ヲ、獨航附屬漁船ニ在リテハ漁船毎ニ申請書ニ船舶國籍證書寫、漁船檢査證書寫及様式第十號ニ依ル獨航附屬漁船明細書ヲ添附シ農林大臣ニ提出スベシ

第十三條　母船式漁業者ハ附屬漁船票ヲ附屬漁船ノ船内ノ見易キ場所ニ釘著スベシ

第十四條　母船式漁業者ハ其ノ業務ヲ指揮スル管理人一人ヲ操業中母船ニ乘船セシムベシ

第十五條　母船式漁業者ハ毎年十二月三十一日迄ニ各母船ノ其ノ年ニ於ケル事業報告書ヲ農林大臣ニ提出スベシ農林大臣必要アリト認ムルトキハ隨時事業ノ報告ヲ命ズルコトアルベシ

第十六條　左ニ掲グル場合ニ於テハ母船式漁業者ハ遲滯ナク農林大臣ニ其ノ旨届出ヅベシ

一　母船式漁業者其ノ氏名若ハ名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキ

二　母船ノ船名又ハ船舶番號ニ變更アリタルトキ

三　附屬漁船ノ船名ニ變更アリタルトキ

四　本則ニ依リ許可又ハ承認ヲ受クベキ場合ヲ除クノ外母船式漁業者其ノ事業計畫書又ハ母船設備明細書ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキ

五　母船式漁業者タル法人其ノ定款ヲ變更シタルトキ

六　母船式漁業者タル法人ノ代表者ニ變更アリタルトキ

七　第三條第二項ノ代表者ニ變更アリタルトキ

八　母船式漁業者管理人ヲ選任シ又ハ變更シタルトキ

前項第八號ノ規定ニ依ル管理人選任ノ届書ニハ履歴書ヲ添附スベシ

第十七條　第十一條ノ許可若ハ承認ヲ爲シタルトキ又ハ前條第一項第一號、第二號、第七號若ハ第二十三條第二項ノ届出アリタルトキハ農林大臣ハ許可證又ハ母船使用承認證ヲ書換交付ス

第十八條　母船式漁業者許可證、母船使用承認證又ハ附屬漁船票ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交他ヲ申請スベシ

第十九條　母船式漁業ノ許可ヲ受ケタル後一年以内ニ其ノ漁業ニ著手セズ又ハ引續キ二年以上其ノ漁業ノ全部若ハ一部ヲ營マザルトキハ農林大臣ハ其ノ許可又ハ母船使用ノ承認ヲ制限シ又ハ取消スコトアルベシ

第二十條　水産動植物ノ蕃殖保護、漁業取締其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ農林大臣ハ母船若ハ附屬漁船ノ使用ヲ停止シ又ハ母船式漁業ノ許可若ハ母船使用ノ承認ヲ制限シ若ハ取消スコトアルベシ

第二十一條　母船式漁業者本則又ハ本則ニ基ク處分ニ違反シタルトキハ農林大臣ハ母船若ハ附屬漁船ノ使用ヲ停止シ又ハ母船式漁業ノ許可若ハ母船使用ノ承認ヲ制限シ若ハ取消スコトアルベシ

第二十二條　漁業取締其ノ他公益上必要アリノ認ムルトキハ農林大臣ハ母船式漁業者ニ對シ管理人又ハ母船若ハ獨航附屬船ノ船長ノ下船ヲ命ジ又ハ其ノ乘船ノ禁止ヲ命ズルコトアルベシ

第二十三條　母船式漁業者死亡シ若ハ解散シ又ハ母船式漁業ヲ廢止シタルトキハ母船式漁業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ死亡ノ場合ニ於テ其ノ相續人ガ引續キ其ノ漁業ヲ營ムトキハ被相續人ニ對シテ爲シタル母船式漁業ノ許可ハ爾後相續人ニ對シ之ヲ爲シタルモノト看做ス

前項但書ノ場合ニ於テハ相續アリタルコトヲ證スル書類ヲ具シ死亡ノ日ヨリ三十日以内ニ農林大臣ニ其ノ旨届出ヅベシ

第一項但書ノ場合ニ於テハ母船使用ノ承認ハ爾後相續人ニ對シ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十四條　左ニ揭クル場合ニ於テハ母船使用ノ承認ハ其ノ效力ヲ失フ

一　母船式漁業ノ許可ノ效力消滅シタルトキ

二　母船ノ使用ヲ廢止シタルトキ

三　母船滅失シ、沈沒シ、解撤シ又ハ國籍ヲ喪失シタルトキ

四　母船ヲ讓渡シ、之ヲ貸付シ借受ケタル母船ヲ返還シ其ノ他母船ヲ使用スル權利ヲ失ヒタルトキ

第二十五條　母船式漁業ノ許可ノ效力消滅シタルトキハ直ニ許可證ヲ返納スベシ但シ之ヲ返納スルコト能ハザルトキハ事由ヲ具シ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

第二十三條第一項ノ場合ニ於テハ相續人又ハ清算人ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スベシ

母船使用ノ承認ノ效力消滅シタルトキハ直ニ母船使用承認證ヲ返納スベシ

第一項但書及前項ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

條二十六條　左ニ揭グル場合ニ於テハ母船式漁業者ハ直ニ附屬漁船票ヲ返納スベシ

一　母船使用ノ承認ノ效力消滅シタルトキ

二　附屬漁船ノ使用ヲ廢止シ又ハ附漁船票ノ有效期間滿了シタルトキ

前條第一項但書及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二章　母船式蟹漁業　（略）

第三章　母船式鮭鱒漁業　（略）

第四章　母船式鯨漁業

第四十條　母船式鯨漁業ノ爲北緯二十度以北ノ北太平洋（「ベーリング」海、「オホーツク」海及北氷洋ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニ於テ使用シルコトヲ得ル母船ハ一隻ヲ限リ其ノ使用ヲ承認ス

第四十一條　母船式鯨漁業ハ東經百十八度及東經百五十九度ノ經線竝ニ北緯二十度及北緯五十二度三十分ノ緯度ニ依リテ圍マレタル海面ニ於テハ之ヲ營ムコトヲ得ズ

第四十一條ノ二　母船式鯨漁業者ハ北緯二十度以北ノ北太平洋以外ノ海面ニ於テハ克鯨又ハ背美鯨ヲ捕獲スルコトヲ得ズ

第四十一條ノ三　母船式鯨漁業者ハ左ニ揭グル鯨ヲ捕獲スルコトヲ得ズ

一　稚鯨、乳呑鯨又ハ稚鯨若ハ乳呑鯨ヲ隨伴スル母鯨

二　體長 19.81 メートル未滿ノ白長須鯨

三　體長 16.76 メートル未滿ノ長須鯨

四　體長 10.66 メートル未滿ノ座頭鯨

五　體長 10.66 メートル未滿ノ鰮鯨

六　體長 10.66 メートル未滿ノ抹香鯨

前項第二號乃至第六號ニ於テ體長トハ鯨ノ吻端ヨリ尾鰭ノ岐點ニ至ル迄ノ直線ノ長サヲ謂フ

第四十一條ノ四　母船式鯨漁業者ハ南緯四十度以南ノ海面ニ於テハ三月十六日ヨリ十月三十一日ニ至ル期間有鬚鯨ヲ捕獲スルコトヲ得ズ

第四十二條　母船式漁業者ハ農林大臣ノ承認ヲ受クルニ非ザレバ母船ノ鯨體處理設備ヲ改設スルコトヲ得ズ

第四十二條ノ二　母船式鯨漁業者ハ捕獲シタル鯨ヲ出來得ル限リ完全ニ利用スベシ

鯨油ノ採取ハ皮脂ノ外肉、骨其ノ他一切ノ部分ヨリ煮沸其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ爲スベシ但シ左ニ揭グルモノヨリハ鯨油ノ採取ヲ爲サザルコトヲ得

一　內臟、鬚又ハ鰭

二　食用、飼料用其ノ他適當ナル用途ニ供セラルベキ鯨又ハ其ノ一部

三　抹香鯨ノ肉

第四十二條ノ三　管理人其ノ他母船式鯨漁業者ニ代リテ業務ヲ指揮スル者ハ

鯨ヲ捕獲シタル時ヨリ三十六時間以內ニ母船ノ乘組員及鯨體處理設備ニ依リ前條ノ規定ニ從ヒ處理シ得ベキ程度ヲ超エテヲ鯨ヲ捕獲セシメザル爲必要ナル措置ヲ講ズベシ

第四十二條ノ四　母船又ハ附屬漁船ノ砲手、船員其ノ他ノ乘組員ニ對スル歩合ニ依ル報酬ハ捕獲シタル鯨ノ數ノ外其ノ大サ、種類及鯨油其ノ他ノ生產物ノ數量ヲ斟酌シテ其ノ額ヲ定ムベシ

本則ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ニ違反シテ捕獲シタル鯨ニ付テハ之ヲ捕獲シタル附屬漁船ノ砲手及船員ニ對シ歩合ニ依ル一切ノ報酬ノ支給ヲ爲スコトヲ得ズ

母船式鯨漁業者ハ船舶每ニ砲手、船員其ノ他ノ乘組員ノ全報酬計算書及其ノ算出ノ基準ヲ示シタル明細書ヲ作成シ之ヲ第十五條第一項ノ規定ニ依ル事業報告書ニ添附スベシ

第四十二條ノ五　母船式鯨漁業者ハ漁業監督吏員ノ母船又ハ附屬漁船ニ乘船スルコトヲ拒ムコトヲ得ズ

母船式鯨漁業者ハ乘船シタル漁業監督吏員ニ對シ必要ナル食料及居室ヲ實費ヲ以テ提供スベシ

第五章　罰　則

第四十三條　管理人其ノ他母船式漁業者ニ代リテ業務ヲ指揮スル者又ハ母船若ハ附屬漁船ノ船長若ハ船長ノ職務ヲ執ル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　母船式漁業ノ許可證又ハ母船使用承認證ニ記載シタル條件又ハ制限ニ違反シテ操業シタルトキ

二　第十九條、第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依ル制限又ハ停止ノ處分ニ違反シテ操業シタルトキ

三　第九條第一項ノ規定ニ依リ表記シタル母船使用承認番號ヲ隱蔽シ又ハ抹消シタルトキ

四　第十三條ノ規定ニ依リ釘著シタル附屬漁船票ヲ隱蔽シ、抹消シ又ハ破棄シタルトキ

第四十四條　（累）

第四十五條　（累）

第四十六條　管理人其ノ他母船式鯨漁業者ニ代リテ業務ヲ指揮スル者、母船若ハ附屬漁船ノ船長若ハ船長ノ職務ヲ執ル者又ハ附屬漁船ノ砲手第四十一條乃至第四十一條ノ四ノ規定ニ違反シテ操業シタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條　（累）

第四十八條　母船式漁業者第十四條又ハ第四十二條ノ五ノ規定ニ違反シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條ノ二　管理人其ノ他母船式鯨漁業者ニ代リテ業務ヲ指揮スルモノ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四十二條ノ二ノ規定ニ違反スル行爲ヲ爲シタルトキ

二　第四十二條ノ三ノ規定ニ違反シタルトキ

第四十九條　第九條、第十三條、第十五條第一項、第十六條第一項、第十八條第二十三條第二項、第二十五條、第二十六條、第三十條又ハ第三十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス第十五條第二項又ハ第二十二條ノ命令ニ從ハザル者亦同ジ

附　則

第一條　本令ハ昭和八年法律第三十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス以下（累）

様　式

第一號

母船式蟹（鮭鱒）（鯨）漁業事業計畫書

一　根據地

二　操業區域

三　漁獲物及製品ノ陸揚港

四　操業ノ時期

五　母船ノ數

六　母船ノ船種及總噸數

七　母船式蟹漁業ニ在リテハ母船ノ罐詰製造設備ノ概要

母船式鮭鱒漁業ニ在リテハ母船ノ製造設備又ハ保藏設備ノ概要

母船式鯨漁業ニ在リテハ母船ノ製油設備、製肥設備又ハ鯨肉及食用皮ノ貯藏設備ノ概要

八　附屬漁船ノ船種、數及大サ

九　漁具ノ種類、構造及數

十　母船式蟹漁業ニ在リテハ漁獲物ノ種類及罐詰製造數

母船式鮭鱒漁業ニ在リテハ漁獲物ノ種類別數量漁獲物ノ處理及製造ノ方法

母船式鯨漁業ニ在リテハ鯨ノ種類別捕獲頭數、鯨體處理、製油及製肥ノ方法竝ニ鯨肉及食用皮ノ採取方法

十一　乘組員其ノ他ノ從業員ノ職務別人員表

備　考

一　二隻以上ノ母船ヲ使用スル場合ニ在リテハ第五號以外ノ事項ハ母船別ニ之ヲ記載スベシ

二　及　三　ハ省略

四　母船式鯨漁業ニ在リテハ第九號ニ揭グル事項ノ記載ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第二號

第　　號	
母船式蟹(鮭鱒)(鯨)漁業許可證	
住　所 氏名又ハ名稱	
許可期間 條件又ハ制限	一　操業區域 一　漁獲物及製品ノ陸揚港 一　何々
年　月　日	
農林大臣	

第三號　母船式鯨漁業設備明細書

一　船舶及船舶番號

二　鯨體ノ曳揚其ノ他處理設備（見取圖添附ヲ要ス）

三　製油設備製肥設備又ハ貯藏設備（配置圖添附ヲ要ス）

四　醫療設備（見取圖添附ヲ要ス）

五　船員以外ノ者ニシテ專ラ漁撈又ハ漁獲物ノ製造若ハ保藏ニ從事スルモノ居室ノ場所、一人ニ充ツベキ面積及容積竝ニ採光通風ノ裝置ノ概要（見取圖添附ヲ要ス）

六　無線電信及無線電話ノ有無、信號符字、裝置方式及空中線電力

七　清水槽、石炭庫又ハ燃油庫ノ容積

右ノ通　年　月　日設備完成セシモノニ相違無之候也

年　月　日

氏名又ハ名稱㊞

第四號

船舶件名書（計畫又ハ現在）

一　船質、船種及船名

二　船體ノ長サ、幅及深サ

三　總噸數

四　甲板ノ層數

五　機關ノ種類、數及公稱馬力

六　汽罐ノ種類、數及制限汽壓

七　最强速力

八　進水年月日

九　所有者ノ住所及氏名又ハ名稱

備考　母船式鯨漁業ノ母船ニ在リテハ各號ニ揭グル事項ノ外船尾ノ構造ヲ附記スベシ

第五號

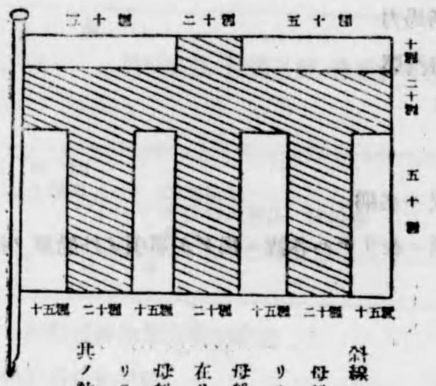
何第　　號	
母船式鯨漁業母船使用承認證	
住　所 氏名又ハ名稱	
母船式鯨漁業許可ノ番號及許可期間 母船ノ船舶番號 母船ノ船種及船名 母船使用承認期間 條件又ハ制限	一　操業區域 一　漁獲物及製品ノ陸揚港 一　何々
年　月　日	
農林大臣	

備考

一　各文字ノ大サハ五十糎大以上、文字ノ太サハ十糎以上、各文字ノ間隔ハ三十糎以上七十糎以下トシ明瞭ニ記載スルコトヲ要ス

二　附屬漁船ニ在リテハ其ノ船種及大小ニ應ジ前號ニ準ジ明瞭ニ記載スルコトヲ要ス

第七號



斜線ノ部分
母船式蟹漁業ニ在リテハ緋
母船式鮭鱒漁業ニ在リテハ藍
母船式鯨漁業ニ在リテハ綠
其ノ他ノ部分　白

斜線ノ部分
母船式鯨漁業ニ在リテハ綠
其ノ他ノ部分　白

鯨漁取締規則

明治四十二年十月二十一日農商務省令第四十一號
明治四十四年一月二十七日農商務省令第六號
昭和九年七月二十五日農林省令第二十一號
昭和十一年六月二日農林省令第五號

第一條　本則ニ於テ鯨ト稱スルハ小鰮鯨（ミンク）ヲ除ク有鬚鯨及抹香鯨ヲ謂フ

第一條ノ二　汽船捕鯨業トハ母船式鯨漁業ヲ除クノ外螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ依リ銛砲ヲ使用シテ爲ス鯨漁業ヲ謂

第一條ノ三　帆船ヲ使用シテ鯨漁ヲ爲サムトスル者ハ農林大臣ノ許可ヲ受クベシ

第二條　汽船捕鯨業又ハ前條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ船舶毎ニ願書一通ヲ作リ之ニ操業區域ヲ記載シ船舶國籍證書寫及船舶檢査證書寫ヲ添附スベシ、前項ノ場合ニ於テ船舶ガ製造前若ハ製造中ナルトキハ第一號書式ノ船舶件名書ヲ添附スベシ

第三條　鯨漁ノ根據地ヲ蒙ケトスル者ハ一根據地毎ニ農林大臣ノ許可ヲ受クベシ

第四條　根據地設置ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ願書ニ設計圖、設計說明書設置及其附近ノ圖面ヲ添附シ根據地所轄地方長官ヲ經由シテ差出スベシ

第五條　根據地ノ設備ヲ變更セムトスルトキハ事由ヲ具シ根據地所轄地方長官ヲ經由シテ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六條　農林大臣鯨漁ヲ許可シタルトキハ第二號書式ノ許可證ヲ交付ス

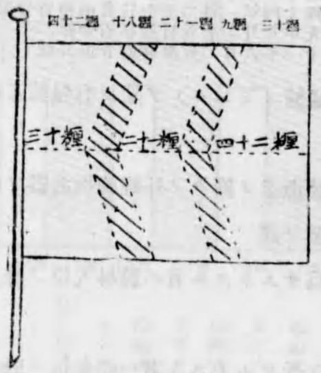
許可ノ期間ハ五年トス

許可證ハ之ヲ船舶內ニ保持スベシ

許可證ヲ亡失毀損シ又ハ許可證ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ許可證ノ再交附又ハ訂正ノ願書ヲ農林大臣ニ差出スベシ

第七條　鯨漁ノ許可ヲ受ケタル者ハ左記雛形ノ旗章ヲ船舶ノ見易キ場所ニ揭

揚スベシ



縱二尺五寸　横四尺
其他ノ部分　白
斜線ハ　赤

第八條　鯨漁又ハ根據地設置ノ許可ヲ受ケタル後一年以内ニ鯨漁ニ着手セズ若ハ根據地ニ於テ業務ニ着手セズ又ハ引續キ二年以上鯨漁ヲ爲サズ若ハ根據地ニ於テ業務ヲ爲サザルトキハ農林大臣ハ其ノ許可ヲ制限シ又ハ取消スコト

第九條　農林大臣必要アリト認ムルトキハ鯨ノ種類、鯨漁ノ時期、區域又ハ船數ヲ定メ鯨漁ヲ禁止若ハ制限シ又ハ其ノ船舶ニ標章ヲ附セシムルコトアルベシ此場合ニ於テ之ヲ告示スベシ

第十條　農林大臣ハ鯨ノ蕃殖保護其他公益上必要アリト認ムルトキハ鯨漁ノ許可ヲ制限シ又ハ之ヲ取消スコトアルベシ鯨漁ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ本則ノ規定又ハ本則ニ基ク處分ニ違背シタルトキ亦前項ニ同ジ

第十一條　農林大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ根據地設備ノ制限若ハ變更ヲ命令又ハ設置ノ許可ヲ取消スコトアルベシ

根據地設置ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ本則ノ規定又ハ本則ニ基ク處分ニ違反シタルトキ亦前項ニ同ジ

第十二條　鯨漁ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ許可ヲ取消サレ、許可ノ效力ヲ失ヒ又ハ業務ヲ廢止シタルトキハ一箇以内ニ許可證ヲ返納スベシ

鯨漁ノ許可ヲ受ケタル者死亡シ又ハ解散シタルトキハ其相續人又ハ清算人ヨリ前項ノ手續ヲ爲スベシ

第十三條　鯨漁ノ許可ヲ受ケタル者ハ各事業年度終了ノ日ヨリ一箇月以内ニ事業報告書ヲ農林大臣ニ差出スベシ

農林大臣必要アリト認ムルトキハ隨時報告書其他ノ書類ノ提出ヲ命ジ又ハ鯨ニ關スル調査ヲ命ズルコトアルベシ

第十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ情狀ニ因リ漁具及漁獲物ヲ沒收ス

一　第一條ノ二ノ許可ヲ受ケズシテ鯨漁ヲ爲シ又ハ第三條ノ許可ヲ受ケスシテ根據地ヲ設置シタルトキ

二　汽船捕鯨業者ニ非サル者ニシテ第九條ニ依リ告示シタル鯨ノ種類、鯨漁ノ時期及區域ノ禁止又ハ制限ニ違背シタルトキ

三　鯨漁又ハ根據地設置ノ許可ノ條件若ハ制限ニ違背シタルトキ

第十五條　第六條第三項、第七條、第十二條又ハ第十三條第一項ノ規定ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

第九條ニ依リ告示シタル鯨漁船舶ニ附スヘキ標章ヲ附セザルトキ又ハ第十三條第二項ニ依ル命令ニ從ハザルトキ亦前項ニ同ジ

附　則

第十六條　本則ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條　本則ニ依リ許可ヲ受クベキ船舶ヲ使用シテ本則施行前ヨリ鯨漁ニ從事シ又ハ根據地ヲ有スル者ハ明治四十三年一月三十一日迄本則ノ規定ニ拘ラズ引續キ鯨漁ヲ爲シ又ハ根據地ノ業務ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ漁業者カ前項ノ期日迄ニ鯨漁ノ許可又ハ根據地設置ノ許可ヲ出願シタルトキハ其諾否ノ處分ヲ受クル迄ノ間亦前項ニ同ジ

附　則（昭和九年十月二十五日農林省令第二十一號）

本令ハ昭和八年法律第三十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從來ノ雛形ニ依ル旗章ハ第七條ノ改正規定ニ拘ハラズ昭和九年十二月三十一日迄之ヲ掲揚スルコトヲ得

昭和十一年六月二日農林省令第五號　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（第一號書式）

船舶件名書

一　船　　種
二　外板及船骨材料
三　計劃總噸數
四　機關ノ種類及數
五　計畫實馬力
六　起工年月日又ハ起工スベキ年月日
七　竣工スベキ年月日
八　造船所ノ名稱及所在

（第二號書式）

鯨漁許可證		
番號		
住所		
氏名又ハ名稱		
船種及船名		
操業區域		
許可期間		
條件又ハ制限	根據地	
	鯨漁時期	
	其他	
年月日		農林省

鯨漁汽船數ノ制限ノ件

明治四十二年十月二十一日農商務省告示第四百十八號
昭和二年二月二十二日農林省告示第三十七號
昭和九年六月二十七日農林省告示第二百二十七號

鯨漁取締規則第九條ノ規定ニ依リ北緯二十度及北緯五十二度三十分ノ緯線並東經百十八度及東經百五十九度ノ經線ニ依リテ圍マレタル海面ニ於テ鯨漁ヲ許可スベキ汽船船數ヲ二十五隻以内ト定ム

昭和十三年六月八日農林省告示第二百號

左ニ掲グル鯨ノ鯨漁ハ鯨漁取締規則第九條ノ規定ニ依リ之ヲ禁止ス

一　稚鯨、乳呑鯨又ハ稚鯨若ハ乳呑鯨ヲ隨伴スル母鯨
二　體長 18.18 メートル未滿ノ白長須鯨
三　體長 15.15 メートル未滿ノ長須鯨
四　體長 10.60 メートル未滿ノ座頭鯨
五　體長 10.60 メートル未滿ノ鰮鯨
六　體長　9.09 メートル未滿ノ抹香鯨

第二號乃至第六號ニ於テ體長トハ鯨ノ吻端ヨリ尾鰭ノ岐點ニ至ル迄ノ直線ノ長サヲ謂フ

鯨漁取締協定

南阿聯邦、亞米利加合衆國、アルゼンチン共和國、オーストラリヤ自治植民地、獨逸、大ブリテン北愛蘭聯合王國、アイルランド自由國、ニユージーランド、諸威ノ各國政府ハ捕鯨業ノ隆盛ヲ確立スル事及此ノ趣旨ニ基キ鯨族ノ保護ヲ目的トシテ左ノ條項ヲ協定セリ。

第一條　締約各國政府ハ本協定ノ諸規定ノ適用及之ニ違反スル行爲ノ處罰ヲ確保スル爲適當ノ方法ヲ講ズベク特ニ其ノ管轄ニ屬スル各母船ニ捕鯨督視官ヲ少クトモ一名配置スベシ

監視官ハ政府ニヨツテ任命サレ給料ヲ支給セラルベシ

第二條　本協定ハ第十八條ニ規定セシ如ク締約國ノ管轄ニ屬スル母船、捕鯨船、陸上根據地及當該母船捕鯨船ニヨリ鯨漁ガ行ハルル總テノ水面ニ適用ス

第三條　本協定及之ニ基キテ發セラルル諸規則ノ違反ニ對スル告發ハ政府又ハ當該官廳ニヨツテ規定セラルベシ

第四條　克鯨及脊美鯨ノ捕殺ヲ禁ズ

第五條　左記ニ掲グル體長未滿ノ白長須鯨、長須鯨、座頭鯨、抹香鯨ノ捕殺ヲ禁ズ

一　白長須鯨　七〇呎
二　長須鯨　五五呎
三　座頭鯨　三五呎
四　抹香鯨　三五呎

第六條　稚鯨及乳呑鯨竝ニ稚鯨及乳呑鯨ヲ隨伴スル母鯨ハ之ヲ捕殺スルコトヲ得ズ

第七條　南緯四十度以南ノ水面ニ於テ十二月八日ヨリ翌年三月七日迄（兩日ヲ含ム）ノ期間以外ニ於テ有鬚鯨捕獲又ハ處理ノ目的ニテ母船及附屬捕鯨

船ノ使用ヲ禁ズ

但シ一九三七——三八年度漁期ニハ其ノ期間ハ一九三八年三月十五日迄延長セラルベキコトトス（當日ヲ含ム）

第八條　十二ケ月ノ期間中六ケ月以上ニ亘リテ凡ユル區域及水面ニ於テ鯨ヲ捕獲又ハ處理ノ目的ニテ陸上根據地及之ニ所屬スル捕鯨船ヲ使用スルコトヲ禁ズ

但シ右六ケ年ノ期間ハ繼續的ナル事ヲ要ス

第九條　左記ノ如何ナル區域ニ於テモ有鬚鯨族ノ捕獲或ハ處理ノ目的ニテ母船及其ノ附屬捕鯨船ヲ使用スルコトヲ禁ズ

一　南緯四十度以北ノ大西洋及「テーヴイス」海峽」「バフイン」灣「グリンランド」海

二　南緯四十度、北緯三十五度ノ緯線ノ間ニ於ケル西經百五十度以東ノ太平洋

三　南緯四十度北緯二十度ノ緯線ノ間ニ於ケル西經百五十度以西ノ太平洋

四、南緯四十度以北ノ印度洋

第十條　本協定ノ規定ニ拘ラズ各締約國政府ハ科學的調査ノ目的ニテ鯨ヲ捕殺、處理スル事ヲ鯨數ノ制限及締約國政府ガ適當ナリト認ムル其他ノ條件ヲ附シテ其ノ國民ニ特別ニ許可スルコトヲ得、本條ノ規定ニヨル鯨ノ捕殺及處理ハ本協定ノ施行ヨリ除外セラルベシ

各締約國政府ハ何時ニテモ本條ノ規定ニヨル許可ヲ取消スコトヲ得

第十一條　捕獲シタル鯨體ハ總テ出來得ル限リ完全ニ之ヲ利用スベシ、鯨體又ハ其ノ一部分ヲ食用及飼料ニ供スル場合ヲ除キ鯨油ハ母船又ハ陸上根據地ニ牽引セラレタル總テノ鯨ノ內臟、鯨鬚及鰭部以外ノ一切ノ皮能、肉（抹香鯨ノ肉ヲ除ク）及骨ヨリ煮沸其ノ他ノ方法ニヨリ搾出スベシ

第十二條　捕殺ノ時ヨリ三十六時間以內ニ其ノ設備及人員ニ依リ本協定第十

一條ニ從ヒ有效ニ處理セラタ得ル以上ノ鯨ヲ如何ナル場合ニ於テモ當該母又船ハ陸上根據地ニ引渡スコトヲ得ズ

第十三條　母船、陸上根據地竝ニ捕鯨船ノ砲手及船員ハ其ノ給料ガ捕獲シタル鯨ノ種類、大小及生產量等ニ依テ定メラルベク單ニ鯨ノ捕獲頭數ニノミ依ルコトナキ條件ヲ以テ雇傭セレザルベカラズ且ツ本協定ニヨリテ捕獲ヲ禁止セラレタル鯨ニ付テハ砲手及船員ニ對シ賞與乃至作業ノ結果ニ關聯シテ計算サルベキ其ノ他ノ報酬ヲ支出セザル可キモノトス

第十四條　前途ノ效力ヲ有セシムル爲各締約國ハ其ノ管轄ニ屬スル捕鯨船ニ關シ各砲手及船員ノ給料及其ノ給料ノ算出セラレタル仕譯書ヲ提出セシムベシ

第十五條　本協定ノ第五條、第九條、第十三條、第十四條ハ新タニ履行セラルル故ヲ以テ前記各條ノ規定ハ一九三七年十二月一日以前ニ於テハ現在操業シ或ハ右期日以前ニ鯨漁ニ關スル實際的行動ヲナセシ母船、陸上根據地及捕鯨船ニ適用セズ斯ル母船、陸上根據地及捕鯨船ニ關シ本協定ハ如何ナル事情アルモ右期日以降ハ效力ヲ發生スベシ

第十六條　締約國ハ其ノ管轄ニ屬スル總テノ母船又ハ陸上根據地ニ關シ各工場ニ於テ處理シタル各種鯨ノ頭數、等級別鯨油總生產量、肉粉、肥料及其ノ他ノ生產物ノ數量、竝ニ母船又ハ陸上根據地ニ於テ處理セラレタル鯨ノ捕獲ノ日時及場所、種類、性別、體長及若シ胎兒ヲ有スル場合ハ確メ得ラルルナラバ其ノ體長性別ノ記錄ヲ提出セシムベシ

第十七條　締約國ハ其ノ管轄ニ屬スル一切ノ捕鯨作業ニ關シ本協定ノ第十六條ニ規定シタル統計報告及鯨ノ哺育區域竝ニ回游路ニ關シ締約國ニ依リ集得シ得タル報告ヲ在「サンデヨールド」國際捕鯨統計局ニ通報スベシ

右報告ヲ通報スルニアタリ各條約國政府ハ特ニ左ノ事項ニ留意セラルベシ

(A)　各母船ノ名稱及噸數

(B)　捕鯨船ノ數及合計噸數

(C)　該當期間中ニ操業セル陸上根據地表

第十八條　本協定ニ於テハ左記ノ各用語ハ夫々下記ノ如キ意義ヲ有スルモノトス。即チ

"母船,, トハ船內又ハ甲板上ニ於テ鯨體ノ全部又ハ一部ガ處理セラルル船舶ヲ謂フ

"捕鯨船,, トハ鯨ヲ追跡シ捕獲シ牽引シ曳航シ監視シ又ハ偵察ノ目的ニ使用セラルル船舶ヲ謂フ

"陸上根據地,, トハ陸上又ハ之ニ近接スル領海內ニ於テ鯨體ノ全部又ハ一部ガ處理セラルル工場ヲ謂フ

"有鬚鯨類,, トハ有齒鯨類以外ノ總テノ鯨種ヲ謂フ

"白長須鯨,, トハ下記ノ名稱ノ鯨ヲ謂フ

「シツバルドス・ロルクオール」「サルハー・ボツトム」

"長須鯨,, トハ下記ノ名稱ノ鯨ヲ謂フ

「コンモン・フインバツク」「コンモン・フインナー」「コンモン・ロルクオル」「フイン・バツク」「フイン・ウエール」「ベーリング・ウエール」「レーゾア・バツク」「ツルー・フインウエール」

"克鯨,, トハ下記ノ名稱ノ鯨ヲ謂フ

「グレイ・ウエール」「カリフオルニア・グレイ」「デビル・フイツシユ」「ハード・ヘツド」「ムセル・デイツガー」「グレイ・バツク」「リツプ・サツク」

"座頭鯨,, トハ下記ノ名稱ノ鯨ヲ謂フ

「バンチ」「ハンプバツク」「ハンプバツク・ウエール」「ハンプバツクド・ウエール」「ハンプ・ウエール」「ハンチバツクド・ウエール」

"脊美鯨,, トハ下記ノ名稱ノ鯨ヲ謂フ

「アトランテツク・ライト・ウエール」「アークテツク・ライト・ウエール」「ビスケイアン・ライト・ウエール」「ボーヘツド」グレート・ボーラ

ー・ウエール」「グリンランド・ライト・ウエール」「グリンランドウエール」「ノルドカツパー」「ノース・アトランテイツク・ライト・ウエール」「ノース・ケープ・ウエール」「パーシフイツク・ライト・ウエール」「ピグミイ・ライト・ウエール」「サウザン・ピグミイ・ライト・ウエール」「サウザン・ライト・ウエール」

"抹香鯨" トハ下記ノ名稱ノ鯨ヲ謂フ

「スパーム・ウエール」「スパーマセト・ウエール」「カシヤロ」「ポツト・ウエール」

"體長" トハ如何ナル鯨種ニ於テモ水平ニ直線ニ測定セシ吻端ヨリ尾鰭ノ交點ニ至ル迄ノ長サヲ謂フ

第十九條　本協定ハ批准セラル如ク批准書ハ出來得ル限リ速ニ大「ブリテン」北愛蘭聯合王國政府ニ寄託セラルベキモノトス本協定ハ調印國ノ半數以上ガ批准書ヲ提出セル場合ニ效力ヲ發生シ右政府中ニハ大「ブリテン」北愛蘭聯合王國・獨逸・諾威ヲ包含スベシ。半數以上ノ右政府ニ包含セラレザル他ノ政府ニ於テハ批准書ノ提出ノ日ヨリ效力ヲ發生ス。聯合王國政府ハ本協定ガ斯クシテ效力ヲ發生セシ期日及其後批准書ヲ受理セシ場合ハ其ノ期日ヲ他ノ政府ニ通告スベシ

第二十條　本協定ハ調印セシ政府ガ夫々本協定ヲ履行シ得ル範圍ニ於テ一九三七年七月一日ニ假ニ效力ヲ發生スベシ、若シ本協定ニ署名セシ日ヨリ二ケ月以內ニ如何ナル政府ナリトモ本協定ニ批准スルヲ好マザル旨聯合王國政府ヘ通告セバ該政府ニ對スル本協定ノ假適用ハ消滅スベシ

聯合王國政府ハ本協定ニ批准スルヲ好マザル政府ノ名稱ヲ他國政府ヘ通告スベシ該通告ヲ受理セシ政府カ批准スルヲ好マザル場合ハ其通告受理ノ期日ヨリ一ケ月以內ニ其ノ批准及加入調印ヲ廢棄スル事ヲ得ベシ該政府ニ關スル協定ノ假適用ハ之ニ依リ消滅スベシ協定ノ加入取消シ及報告ハ總テ聯合王國政府ヘ通知セラルベク、右ハ聯合王國ニ依ツテ他ノ政府ニ通告セラ

ルベシ

第二十一條　本協定ハ前條ノ規定ニ依リ一九三八年七月三十日迄效力ヲ有スベク若シ右期日以前ニ聯合王國、獨逸、諾威ヲ包含スル締約國政府ノ半數以上ガ該期間ノ延長ニ同意スル場合ハ其後モ效力ヲ有スベシ有效期間ガ延長スル場合ニハ締約國政府ガ其ノ修正ニ同意ヲ見ル迄效力ヲ持續ス。但シ各締約國ハ一九三八年六月三十日以後何時ニテモ英國政府ニ對シ每年一月一日以前ニ豫告シテ本協定ヲ廢棄スル事ヲ得（英國政府ハ該通告ヲ受理セバ直チニ其レヲ他ノ端約國政府ヘ通告スベシ）該政府ニ關シテハ六月三十日以後協定ノ效力ヲ消失シ亦他ノ各締約國ハ本通告ヲ受理セシ日ヨリ一ケ月以內ニ同樣ノ手續ニ依リ本協定ヨリ脫退シ得ベシ其ノ場合ハ右期日（六月三十日）以後該政府ニ對シ本協定ハ失效ス

第二十二條　本協定ニ調印セザリシ如何ナル政府モ本協定ガ效力ヲ發生セシ以後期日ノ制限ヲ受ケル事ナク本協定ニ加入スル事ヲ得、加入ハ聯合王國政府宛書面ニテ通告スル方法ニ依リ爲サル可ク右加入書受理ノ斯日ヨリ直チニ其ノ效力ヲ發生ス。聯合王國政府ハ本協定ニ調印又ハ加入セシ總テノ政府ニ對シ寄託セラレシ加入書及加入書寄託ノ期日ヲ通告スベシ

正式ニ任命セラレシ下記署名者ガ本協定ニ署名セリ。本協定ハ英國政府ノ記錄所ニ保存セラル可キ單一ノ正本ニ對シ一九三七年六月八日ロンドンニ於テ調製セラレタリ。右ニ對シ英國政府ニヨリテ確認セラレタル謄本ガ他ノ締約國政府ニ交付セラル可キモノトス

南阿聯邦政府代表

F. J. Du TOIT.

亞米利加合衆國政府代表

HERSCHEL V. JOHNSON.

REMINGTON KELLOGG.

アルゼンチン共和國政府代表

MANUEL E. MALBRAN.

M. FICANTI.

T. L. MARINI.

オーストラリヤ自治植民地政府代表

S. M. BRUCE.

獨逸政府代表

WOHLTHAT.

大ブリテン北愛蘭聯合王國政府代表

HENRY G. MAURICE.

GEO. HOGARTH.

アイルランド自由國政府代表

SEAN O,FAOLAIN O,DULCHACNTGH.

ニユージーランド政府代表

G. MCNAMARA.

諾威政府代表

BIRGER BERGERSEN.

最終議定書

一、本日捕鯨取締協定ノ調印ヲ完了セシ本會議ハ直チニ其ノ效果ヲ收ムベク參加國政府ハ下記ノ如キ諸觀點ヲモ考慮ニ入レラレムコトヲ希望ス

二、本協定ハ一ケ年間其ノ效力ヲ有シ且參加國政府若クハ其等ノ中イヅレカノ政府ガ之レニ反對セザル限リ右協定期間以後ニ於テモ效力ヲ持續スル樣期待サル

尙本會議ノ意見トシテハ捕鯨事業ノ盛行ノ依テ繫ルベキ鯨族維持ニ關シテ寄與スルコト甚大ナルベキナリ

三、經驗ニ徵セバ然ルヨリ良キ保護方法ガ必要ニシテ且望マシキ事ナリ故ニ本會議ハ鯨族ノ保護及濫獲防止ニ對シ、ヨリ以上ノ方法ガ關係政府ニヨリテ遲滯ナク試ミラレ且政府ハ法令ニ依ツテ經驗ガ許ス限リノ鯨漁取締規則ヲ課シ得ルニ必要ナル手段ヲ講ズベキ事ヲ希望ス

四、本協定ハ母船及陸上根據地ノ鯨漁ニ對スル一般的適用ノ規則ヲ主トシテ制定セリ

此等規則中最重要ナル事項ハ禁漁期間ノ遵守、既ニ絕滅ニ瀕セル鯨種ノ捕獲禁止、稚鯨、乳呑鯨ヲ隨伴スル母鯨ノ捕獲禁止及各種鯨ノ制限體長以下ノ鯨ノ捕獲禁止、捕獲セラレタル鯨體ノ經濟的及徹底的處分利用及捕獲セシ時ヨリ母船又ハ陸上根據地ノ如何ヲ不問鯨體ガ處理セラレル迄ノ時間ノ制限等ナリ

此等取締ノ目的ハ鯨ノ捕殺頭數ヲ制限シ以テ鯨體ノ濫費ヲ防止スルニアリ

五、然シ本協定ノ或ル條項特ニ廣範圍ノ水面ニ於ケル有鬚鯨類ニ對スル母船式鯨漁業ノ絕對的禁止ノ條項ハ母船式鯨漁業ニノミ適用セラルルニ付此處ニ母船式鯨漁業ト沿岸捕鯨業トノ差異ニ付キ一言セザルベカラズ。陸上根據地特ニ赤道附近ノ根據地ニヨツテ行ハレシ鯨漁ハ捕獲セラレシ鯨體ノ生理的狀態ハ鯨油ノ生產ガ低下スル如キ狀態ニアリ、且鯨ノ分娩期ニ捕獲セ

ラルル故ニ濫獲、損傷ノ度甚シト論ンゼラレテ居リ此レニ對シテ本協定ニ於テ各種ノ鯨ニツキテノ制限最小體長ヲヨリ大ナラシメタルニ依リ陸上根據地ヘ引渡サルルベキ鯨ノ捕獲頭數ガ減ジ母船ノ如キ移動性ナキ陸上根據地ニテハ鯨ノ追求ニ不利ニシテ且陸上根據地ニ於テ如何ニ捕獲セラルルトモ其頭數ハ全捕獲頭數總計ニ比シテ微々タルモノニ過ギヌトノ說アリ

本會議ハ陸上根據地ノ鯨漁ガ愼重ニ研究セラレ此ノ研究ニ基キテ陸上根據地捕鯨業ニ對シ若シ必要アラバ何等カヨリ以上ノ取締法ガ一般的區域或ハ特殊的區域ニ對シテ制定セラルル樣考究スベキ事ヲ慫慂ス。本會議ハ母船式鯨漁業ニ課セラレタル制限ハ陸上根據地捕鯨業ノ發展ヲ誘致スル懼レアリ、故ニ各國政府ハ夫々自國ノ立場ニ依リ該發展ヲ阻止及制限シ得ベキモノナリトノ見地ヲ有ス

六、本會議ハ政府ガ若シ適當ナリト認ムルナラバ鯨ノ濫獲ニ對スル更ニ嚴重ナル取締ヲ徹底スル爲母船及陸上根據地ニ附隨シテ雇傭セラレ居ル捕鯨船ノ隻數ヲ制限シ得ベキ事ヲ慫慂ス

七、本會議ハ各國政府ガ永久的ニ若ハ一定期間如何ナル水面區域ニ於テモ絕對的ニ鯨漁ヲ禁止スル權能ヲ現在有セザレバ今後之レヲ有スベキ事ヲ慫慂ス。過去ノ經驗ニ徵シ哺育海區ナリト證明セラレタル海區ハ永久的ニ禁漁シ或ハ鯨漁ノ危害ヲ避クベキ鯨ノ避難區域ヲ設定スル爲ニ大西洋若クハ其他ノ海洋ヲ選定シ周年禁漁トナス事ハ望マシキ事ト思ハル

八、本會議ハ各國政府ガ鯨ノ捕殺方法ヲ取締リ得ル事ヲ慫慂ス、現在ノ捕鯨方法ニテハ鯨ハ致命的ニ損傷セラルルモ推進砲及炸裂砲ヲ包含スル現在使用シ居ル砲及銛ガ不完全ナル爲ニ鯨ヲ逸失スル事アリ此ノ結果鯨ノ濫失ヲ招致ス故ニ適當ナル砲ノ使用ニ依リ則チ電氣ヲ應用シテ發射セラルル銛ヲ使用スル事ニ依リ鯨ガ命中後速カニ失命シ斯クシテ鯨體ノ濫失ヲ避ケ得ル樣ニ鯨ノ捕獲方法ヲ規定スル事ハ望マシキ事ノ如ク思考セラル。尙斯ル方法ヲ規定スル事ニ依リ現在ノ捕鯨方法ニ依ル慘酷性ヲ多少共減ジ得ラル可

キ事ガ期待セラレル

九、本會議ハ更ニ協定國ガ自國領土ニ登錄セラレタル船舶ヲ非協定國ニ移轉スル事ニ依リ本協定及之ニ基キテ發セラルル諸規則ヲ履行セザル如キ事態ガ惹起セザル樣然ル可キ手段ヲ講ズベキ事ヲ慫慂ス然シテ此ノ目的ノ爲一國ヨリ他國ヘノ母船及捕鯨船ノ移轉ハ政府ノ認可ニ依ツテノミ許可セラルベキナリ

十、本會議ハ協定セラレタル諸規則ガ鯨族ノ保護及捕鯨業ノ發達ニ對シ確實ニ貢獻スル所アラント信ズルモノナリ本會議ニ參加セシ各國政府代表者ハ悉ク本協定ニ調印セシニ非ラズシテ彼等代表者中ノアルモノハ本國政府ヨリ調印ノ權限ヲ賦與セラレ居ラザリキ然レドモ結局本會議參加國政府ハ悉ク本協定ニ加入スベキモノナリ本會議ハ各締約國ガ之ニ參加セザリシ重要捕鯨國ノ本協定ニ加入スル樣盡力スベキ事ヲ慫慂ス本會議ハ本協定ノ目的ガ非締約國ノ無統制的鯨漁ノ發展ニヨツテ妨害セラルル懼レアルコトヲ認ム、其場合ニ於テハ本協定ノ効力ガ持續セラルルヤ又ハ締約國政府ガ斯クシテ發生セル情勢ニ適合スル樣該政府ノ取締規則ヲ變更スルコトニ同意セズ更ニ各國ガ捕鯨ヲ自國民ニ無制限ニ許可シ其ノ結果鯨數ガ減少シ捕鯨業ハ收支相償フコトヲ得ザルガ如キ事態ヲ發生スルニ至ルカハ測リ知レザル處ナリ何故ナラバ本會議ハ鯨漁ガ今ニシテ嚴重ニ制限セラレザレバ斯ル事態ハ恐ラク遠キ將來ニ非ル事ヲ確信スル故ナリ最後ニ本會議ハ更ニ改メテ來年度ニ於テ適時會議ガ開催セラレテ次年度漁期ノ結果ヲ研究シ且ツ本協定ノ修正及擴張ノ問題ヲ考究セラレムコトヲ希望ス

本協定ハ英國政府ノ記錄所ニ保存セラル可キ單一ノ正本ニ對シ一九三七年六月八日ロンドンニ於テ調製セラレタリ右ニ對シ英國政府ニヨリテ確認セラレタル謄本ガ他ノ締約國政府ニ交付セラル可キモノトス

國際捕鯨會議プロトコル

ロンドン一九三八年六月

南阿聯邦、**アメリカ**合衆國、**アルゼンチン**共和國、濠洲自治殖民地、**カナダ**、愛蘭、獨逸、大**ブリテン**及北愛蘭、**ニユージーランド**及諾威ノ各國政府ハ一九三七年六月八日**ロンドン**ニ於テ調印セラレタル捕鯨取締ニ關スル國際協定(以下現行協定トス)ニ若干ノ修正ヲ爲スコトガ望マシト思料セルヲ以テ右協定第二十一條ノ規定ニ從ヒ下記ノ如ク同意セリ

第一條　現行協定第五條及第七條ノ規定ニ關シ一九三八年十月一日ヨリ一九三九年九月三十日迄ノ期間南緯四〇度以南ノ如何ナル海面ニ於テモ座頭鯨ノ捕獲或ハ處理ヲ目的トシテ母船或ハ之ニ附屬セル捕鯨船ノ使用ヲ禁ズ

第二條　現行協定第七條ノ規定ニ拘ラズ一九三八年十二月八日ヨリ向フ二ケ年間西經七〇度ヨリ西方西經一六〇度ニ至ル間ニ於ケル南緯四〇度以南ノ海面ニ於テ有鬚鯨捕獲又ハ處理ノ目的ノ爲母船又ハ之ニ附屬セル捕鯨船ノ使用ヲ禁ズ

第三條　(一)南緯四〇度以南ノ海面ニ於テ有鬚鯨ノ處理ノ目的ノ爲使用セラレタル母船ハ現行協定第七條ニ規定セラレ居ル漁期終了後十二ケ月ノ期間內ハ其ノ他ノ場所ニ於テ其ノ目的ノ爲使用セラレザルモノトス

(二)調印國政府ノ領海內ニ於テ一九三七年ノ期間中操業セル母船ノミガ本**プロトコール**調印後ニ於テモ其ノ目的ノ下ニ操業シ得ルモノトシ斯ル操業ヲ爲ス船舶ハ陸上根據地ト看做サルベシ但シ漁期中領海內ノ一定位置ニ於テ繫留サレ居ルモノトシ十二ケ月ノ期間中ノ如何ナル期間ニ於テモ六ケ月以上ニ亘リテ操業スルコトヲ得ズ但シ右六ケ月ノ期間ハ繼續的ナルモノトス

第四條　現行協定ノ第五條ニ下記ヲ追加ス但シ鯨肉ガ人間或ハ動物ノ食料トシテ地方的消費ニ使用セラルル場合ニ於テハ陸上根據地ニ引渡サルル爲捕獲スベキ鯨ノ體長制限左ノ如シ

體長六五呎以上ノ白長須、五〇呎以上ノ長須並ニ三〇呎以上ノ抹香

第五條　現行協定第七條ニ下記ヲ追加ス

前記禁漁期間中ニ於ケル處理ノ禁止ニ拘ラズ漁期中ニ捕鯨セラレタル鯨ノ處理ハ漁期終了後ニ於テ完成セラルルモ差支ナシ

第六條　現行協定第八條ニ於テ處理ナル語ノ後ニ有鬚ナル語ヲ挿入ス

第七條　現行協定第九條ノ ABC 及 D ニ記載セラレタル區域ニ對シ下記區域ガ置換セラルベシ

A　北緯六六度以北ノ海面但シ東經一五〇度ヨリ東方西經一四〇度ニ至ル迄ノ間ニ於テハ斯クノ如キ船舶或ハ捕鯨船ニヨル鯨ノ捕獲ハ北緯六六度及北緯七二度ノ間ニ於テモ許容セラルベシ

B　南緯四〇度以北ノ大西洋及其ノ附屬海

C　南緯四〇度及北緯三五度ノ間ニ於ケル西經一五〇度以東ノ太平洋及其ノ附屬海

D　南緯四〇度及北緯二〇度ノ間ニ於ケル西經一五〇度以西ノ太平洋及其ノ附屬海

E　南緯四〇度以北ノ印度洋及其ノ附屬海

第八條　現行協定ノ第十二條ハ下記ノ如ク書換ラルベシ

母船ニ引渡サルベキ鯨ノ捕獲ハ鯨ノ捕殺ノ時ヨリ處理ノ爲母船ノ甲板上ニ齎ラセラルル時迄鯨屍體三三時間ヲ超エテ海中ニ放置セザル樣母船ノ船長又ハ之ニ代リテ指揮ヲナス者ニヨリ調節或ハ制限セラルベキモノトス

第九條　本**プロトコール**ハ調印國ガ夫々之ヲ實施シ能フ範圍內ニ於テ一九三八年七月一日ヨリ暫定的ニ効力ヲ發生スベシ

第十條　(一)本**プロトコール**ハ批准セラルベシ而シテ批准書ハ大**ブリテン**及北愛蘭聯合王國政府宛出來ル限リ速ニ供託セラルベシ

（二） 本**プロトコール**ハ英國、獨逸及諸威政府ノ批准書ノ供託ニヨリ公式ニ効力ヲ發生スベシ

（三） 現行協定加入國ノ如何ナル他ノ政府ニ對シテモ本**プロトコール**ハ批准書供託ノ日或ハ加入通告ノ日ヨリ効力ヲ發生スベシ

（四） 英國政府ハ本**プロトコール**ノ効力ヲ發生セシ期日及其後受理セル批准或ハ加入ノ日付ヲ他國政府ニ通知スベシ

第十一條 （一）本**プロトコール**ハ之ニ調印セザリシ或ハ**プロトコール**ノ正式發効以前ニ於テ現行協定ニ加入セントスル如何ナル政府モ之ニ加盟スルコトヲ得ベシ

（二） 加入ハ英國政府宛ノ書類ニ依ル通告ノ方法ニヨリ爲サルベク右通知ノ受理ノ日ヨリ直ニ効力ヲ發生スベシ

（三） 英國政府ハ本**プロトコール**ニ調印セル或ハ加入セル總テノ政府ニ受理ノ加入書及其ノ日付ヲ通告スベシ

第十二條 本**プロトコール**ノ正式發効後ニ於テ供託或ハ通告サルベキ現行協定ノ批准或ハ加入ハ現行協定ガ本**プロトコール**ニ依リ修正セラレタルモノト看做サルベシ

下記代表ハ本**プロトコール**ニ調印セリ

本**プロトコール**ハ英國並ニ北愛蘭聯合王國政府ノ記錄書ニ保存セラルベキ單一ノ正本ニ對シ一九三八年六月二四日**ロンドン**ニ於テ調製セラレタリ

右ニ對シ英國政府ニヨリテ確認セラレタル謄本ガ他ノ調印國政府ニ交付セラルベキモノトス

國際捕鯨會議一九三八年六月ロンドンニテ會議ノフアイナル・アクト

一、一九三七年六月八日ロンドンニ於テ調印セラレタル「フアイナルアクト」第十一條ニ包含セラレ居ル慫慂ノ趣旨ニ從ヒ一九三八年六月十四日ヨリ數日間「ロンドン」ニ於テ現行協定（爾後原協定ト稱ス）ノ修正並ニ擴張方ニ付會議ヲ開催セリ

二、下記政府ハ會議ニ代表ヲ派遣セリ

南阿聯邦、**アメリカ**合衆國、**アルゼンチン**、**オーストラリヤ**、加奈陀、丁抹、**アイルランド**、**フランス**、獨逸、大**ブリテン**及北愛蘭聯合王國、日本、**ニュージランド**及諸威。尙**ポルトガル**政府ハオブザーバーヲ出席セシメ、**ニューフアンドランド**ハ英國代表ニヨリ之ヲ代表セラレタリ

三、原協定ハ愛蘭、獨逸、諸威、大**ブリテン**及北愛蘭聯合王國並ニ**アメリカ**合衆國政府ニヨリ批准セラレ加奈陀及**メキシコ**ハ其後之ニ加入セリ其他ノ調印國ニ關シテハ**ニュージランド**ハ實際的ニ原協定ヲ批准セリ

アルゼンチン共和國ハ行政上ノ命令ニ依リ原協定ヲ實施シツツアリ公式批准ハ單ニ時日ノ問題ナリ會議ハ濠洲自治植民地及南阿聯邦政府ニヨル原協定ノ批准ノ遲延ハ唯單ニ憲法上ノ困難ニ基クモノト解シ居レリ會議ハ各國政府ガ出來得ル限リ早キ機會ニ於テ之等ノ困難ヲ除去スルニ必要ナル手續ヲ採ラレ協定ニ批准セラルルモレト信ズ

丁抹政府ハ原協定及**プロトコール**中ノ諸規定ヲ實施スルニ必要ナル權能ガ法律ニヨリ與ヘラレタル曉ニハ速ニ原協定及**プロトコール**ヘ加入ノ意志ヲ通告セリ。フランス政府ハ本**フアイナル、アクト**中ニ後述スル陸上根據地ニ關スル若干ノ留保ヲ付シ現行協定ニ加入方準備中ナリ會議ノ終リニ於テ日本代表ハプロトコール第三條第二項ニ關スル留保ヲ付シ一ケ年ノ期間ヲ

置キテ原協定及**プロトコール**ニ加入スルニ必要ナル立法上並ニ其他ノ手續ヲ採ルノ用意アル旨ヲ會議ニ通告セリ又日本政府ハ正式加入ニ至ル迄ハ出來得ル限リ現行協定ノ趣旨ニ沿フ尙**ポルトガル**ノ態度ニ付テハ現在ノ處據ル可キ通告ナク**ニューフアンドランド**ハ其ノ決定ヲ留保セリ

四、一九三八年六月三十日以後迄其ノ存續ヲ延長スル爲原協定第二十一條ニヨリ要求セラレ居ル必要ナル過半數ハ確保セラレタリ

五、會議ハ下記ノ事實ニ注目セリ

南氷洋昨年度漁期ノ捕獲統計ニ據レバ捕獲鯨ノ實數（約四四、〇〇〇頭）並ニ鯨油生產量（約三、二五〇、〇〇〇バレル）ハ前年度漁期ノ數字ニ比シ夫々一〇、〇〇〇頭及六〇〇、〇〇〇バレルノ增加ヲ示シ居ルヲ以テ一九三七年度會議ノ**フアイナルアクト**第二條ニ表明セラレタル現行協定ハ鯨族ノ資源維持ニ貢獻スベシトノ意見ハ結果ニ於テ辯證セラレザリキ

六、會議ハ又一九三八年五月二十三日**コペンハーゲン**ニ於テ開催セラレタル海ノ開發ニ關スル國際會議ノ捕鯨委員會ノ下記ノ如キ決議ヲ受理セリ

委員會ハ白長須資源ノ明カナル減少ノ眞ニ驚ク可キモノアルニ鑑ミ白長須ノ資源ヲ捕鯨ガ最早ヤ經濟的開發ノ對照タリ得ザル水準迄減少セザル樣維持スルニ有效ナル一定限度ノ總計鯨油量以上ハ如何ナル漁期ニ於テモ生產セラレザルベシトノ意見ナリ

本決議ハ一九三八年五月二十八日右國際會議ニヨリ其ノ最終會議ニ於テ本捕鯨會議ノ委員ノ注意ヲ喚起スベシトノ要求ヲ附シ採用セラレタルモノナリ

七、前記第五條ニ述ベタル事實並ニ海ノ開發ニ關スル國際會議ノ捕鯨委員ノ前記決議ノ趣旨ニ徵シ會議ハ鯨族ノ破壞ヲ制限スベク期待サルベキ左ノ一般適用ノ諸方法ヲ考慮セリ

A　漁期ノ短縮

B　各母船隊ニ附屬シテ使用スル捕鯨船數ノ制限

C　南氷洋漁期間ノ最高生產量ノ制限卽チ之ニヨリ生產ノ限度ガ定メラレ右限度ノ到達セラレタル場合ハ漁期終了前ト雖モ爾後ハ全捕鯨ガ中止セラルベキモノトス

D　最高鯨油生產量ノ設定、卽チ各船隊ハ、南氷洋ノ一漁期ニ於テ之ヲ超過セザルモノトス

E　座頭鯨ノ保護ニ關スル特別ノ方法

F　南緯四十度以南ノ海面ニ於テ禁漁區域ヲ設置スルコト

G　母船式捕鯨ニ對スル禁止區域ノ追加

八、前條Aノ方法ニ關シテハ會議ハ一九三八年—三九年漁期ニ對シ其ノ態度ヲ保留セル日本代表ヲ除キ原協定第七條ニ規定セラレ居ル漁期卽チ十二月八日ヨリ翌年三月七日迄ヲ維持スルコトニ同意セリ

南氷洋ニ於ケル漁期ガ更ニ短縮セラレタル場合ハ捕鯨ヲ有利ニ行ヒ得ル母船ハ假令存在スルモ極メテ少數ナルベク又漁期ノ短縮ハ全捕獲鯨ノ完全利用ヲ確保スベキ原協定第十一條、第十二條ノ規定ノ違反ヲ益々誘致セシムル虞アルベシ

九、Bノ方法ニ關シテハ各母船ニ附屬スベキ捕鯨母數ハ七隻ニ限定サルベシトノ提議ガ爲サレタルモ會議ハ本提議ニ關シテモ又如何ナル他ノ捕鯨船數ノ制限ニ付テモ何等意見ノ一致ヲ得ルコト能ハザリキ

十、Cノ方法ハ海ノ開發ニ關スル國際會議ノ捕鯨委員會ニヨリ鯨族資源ノ過度ノ開發ニ對スル最モ有效ナル制限トシテ主張セラレタル處ナルモ會議ハ現在ニ於テハ之ガ採用ヲ慫慂スルコトハ不可能ナリト思考セリ

十一、會議ハDノ方法ノ適用ニハ同意スルコトハ能ハザリキ特ニ本方法ニ付テハ最モ能率的ノ母船ノ操業ハ制限セラルルコトトナルモ小型ノ而シテ能率惡キ母船ノ操業ヘノ效力ハ假令アルモ極メテ小ナルベキヲ以テ其ノ負擔ハ不公平ナリトノ抗議アリタリ各母船ニ對シ其ノ能力ニ應ゼザル別個ノ最高限度ガ決定セラレ得ルヤ否ヤニ關スル論議ガ提起セラレタルモ之等ヲ基

礎トスル協調ノ達セラレザルハ明白ナリキ

十二、會議ハ EC 或ハ D ノ方法ヲ今直チニ採用スルコトハ不可能ナリシモ之等ハ後ノ會議ニ於テ考慮サルル樣總テノ關係國政府ニヨリ更ニ技術的ノ調査ヲ行フ要アル問題ナリトノ空氣濃厚ナリキ

十三、E ノ方法ニ關シテハ**デイスカヴアリー**委員ニヨリ最近發行セラレタル座頭鯨ノ資源狀態ニ關スル報告書竝ニ本種ノ憂慮スベキ減耗ヲ指適スベキ其ノ他ノ證據ニ付注意ガ喚起セラレ會議ハ本問題ヲ研究スル爲小委員會ヲ任命セリ右小委員會ハ南半球ノ全テノ**セクター**ニ於テ座頭鯨資源ハ極メテ重大ナル危機ニ在ルコトヲ示スベキ豐富ナル生物學的證據アルコトヲ報告シ如何ナル海面ニ於テモ少クトモ南半球、北大西洋及其ノ附屬海ニ於テハ最少一ケ年間ハ本種ノ捕獲ヲ爲サザルベキコトヲ慫慂セリ然レドモ主トシテ或ル陸上根據地ハ其ノ鯨油生產ヲ大部分座頭鯨ニ依存シ居ルモノアリトノ理由ニヨリ本提議ニ會議ノ一般的承認ヲ得ルハ不可能ナリキ而シテ座頭鯨捕獲ノ全般的禁止ハ假令一ケ年ト雖モ之等陸上根據地ニ及ボス影響ハ母船式漁業ノ其ニ比シ不釣合ナリトノ主張アリタリ會議ハソレ故全般的禁止ノ願ハシキコトハ首肯スルモ先ヅ母船式ニヨル座頭鯨ノ捕獲ハ南緯四十度以南ノ海面ニ於テハ禁止サルベキコトニ同意セリ之ヲ實施スベキ規定ハ從ツテ**プロトコル**（第一條）ニ具體化セラレタリ本保護ノ方法ハ南緯四十度以北ノ大部分ニ於テ總テノ有鬚鯨ノ享有スル免除ト相俟ツテ有效ナル結果ヲ有スベキコトヲ望ム而シテ會議ハ代表セラレ居ル政府及其他ノ關係政府ガ一九三九年九月三十日以後ニ於テモ適當ノ間座頭鯨ノ完全ナル保護ノ目的ヲ以テ本問題ヲ更ニ研究セラレンコトヲ切ニ慫慂ス

一四、F ノ方法ニ關シテハ會議ハ西經七〇度及西經一六〇度ノ間ニ於ケル南緯四〇度以南ノ海面ヲ少クトモ二ケ年間鯨ノ禁止區域トスルコトニ同意セリ從ツテ本規定ハ**プロトコル**中ニ記載セラレタリ（第二條）本**セクター**ニ於テハ營利的捕鯨ハ今日迄經營セラレタルコト無キモ**デイスカヴアリー**委員

ノ調査セル資料ニ依レバ本區域ニ於テモ有鬚鯨ノ豐富ナルコト明カナリ而シテ會議ハ本區域ニ於ケル鯨族ガ今日迄ニ享有セル免除ハ今後モ維持セラルベキコトハ最モ望マシキコトナリトノ意見ニ同意セリ

本區域カラ鯨族ガ如何ナル範圍ニ迄近接海面ニ移動スルヤ又ハ其ノ反對ノ現象ハ如何ナル程度ニ行ハルルヤニ關シテハ據ル可キ資料無キモ之ノ種ノ移動ガ或ル程度迄實際ニ行ハルルモノト思料ス可キ理由アリ從ツテ本區域ニ於テ爲サレタル保護ハ有效ナル結果ヲ生ズベシ

一五、G ノ方法ニ關シテハ原協定第九條ノ**グリンランド海**ノ限界竝ニ該條ニヨリ保護セラレ居ル區域內ニ北氷洋ガ如何ナル範圍迄包含セラレ居ルヤニ關シ既ニ若干ノ疑問ガ提出セラレ居リタリ從ツテ北緯六六度以北ノ全海面ヲ保護區域トシ大西洋及印度洋竝ニ太平洋ノ閉鎖海面ニ夫々ノ附屬海ヲ追加スベキコトガ提議セラレタリ然シ乍ラ日本ノ代表ハ北緯六六度及七二度ノ太平洋北部ノ北氷洋ニ於ケル捕鯨ヲ容認セラレンコトヲ會議ニ要求セリ會議ハ第三條ニ示セル日本政府ノ態度ニ關スル滿足ナル聲明ニ鑑ミ之等ノ海面ヲ制限ヨリ除外スルコトニ同意セリ從ツテ本問題ニ關スル規定ハプロトコル中ニ挿入セラレタリ（第七條）

一六、昨年度會議ノ**フアイナル・アクト**第五條ニ於テ母船式捕鯨業ニ課セラレタル制限ハ陸上根據地ヨリノ捕鯨業發展ヲ誘致スル虞アル旨ノ注意ヲ喚起シ斯ル場合ハ各國政府ハ該發展ヲ阻止或ハ制限シ得ル權限ヲ有スル樣慫慂セラレタリ、昨年度ノ會議以來現行協定第九條ノ規定ニ拘ラズ或場所ニ於テハ母船カ一國ノ領海內ニ滯在シ居ル場合ハ母船ヲ一時的ノ陸上根據地トシテ使用スルコトハ合法的ナリトノ假定ニ基キ今迄ニ見ラレザル發展ガ誘致セラレタリ、會議全體ノ（**アメリカ**合衆國代表ハ不同意）意見トシテハ原協定第九條ノ文句ハ例外ナク當該區域ノ全體ニ於テ母船ヲ鯨體處理ニ使用スルコトヲ禁止シ居ルモノナリ、會議ノ大部分ノ意見ハ少クトモ獨立運動ノ力ヲ喪失スル迄ハ母船ハ船舶トシテノ特性ヲ失ハザルベク又領海內ニ

繫留セラレ居ル母船ハ港ニ投錨又ハ繫留セラレ居ル船舶ト同樣船舶ナルコト明カナリ會議ハ第九條ノ右解釋ノ正當ナルコトニ付キテハ何等疑問ヲ有セザル處スルモ今回惹起セラレタル事態ニ鑑ミ母船ヲ陸上根據地トシテ使用スルコトノ容認セラレザルハ疑問ノ餘地ナキコト乍ラ現在ノ企業ニ關シテハ讓歩ヲ爲ス旨ノ規定（第三條）ヲプロトコル中ニ記載スルコトガ望マシト思考セリ

一七、フランス代表ハフランス政府ハ左ノ留保ヲ付シ現行協定ニ加入スル用意アル旨ヲ聲明セリ

一、原協定ニ於テ使用セラレ居ル陸上根據地ナル語ハ陸上ノ工場又ハ沿岸近クニ於テ全漁期中同一地點ニ固定又ハ投錨サレ居ル構造物上ニ設置セラレタル工場ニシテ爾後深海ニ於テ漁業ヲ爲ス母船トシテ使用シ得ラレザルモノヲ意味ス

二、斯クノ如ク定義セラレタル陸上根據地ノ數ヲ制限スベキ如何ナル規定ガ設置セラルルトモ、フランスハ南半球ニ於ケル自國ノ領土內ニ於テ三ケ所ノ斯クノ如キ作業場ヲ建設シ或ハ維持スベキ權利ヲ留保ス

プロトコル第三條ノ規定竝ニ本**フアイナル・アクト**第十六條ノ記載ニヨリ**フランス**政府ノ第一ノ留保ハ滿足セラレ居ルモノト思ハレル、尙上陸根據地ノ數ヲ制限スベキ規定ハ**プロトコル**中ニハ無シ、從ツテ**フランス**共國和政府ノ加入ハ明白ナリ

一八、丁抹代表ニヨリ會議ニ報告セラレタル處ニ據レバ**フエロエ**島ニ於テハ捕鯨ハ主トシテ島民ノ爲鯨肉ノ形ニ於テ食料ヲ供給スル爲經營セラレ居ルモノニシテ**フエロエ**島ニ於ケル捕鯨ハ今日迄二ケ所ノ陸上根據地ヨリ何等體長ノ制限無ク行ハレ來リシモノナリト。丁抹ハ其他ノ點ニ付キテハ何等ノ異存ナキモ體長制限ガ之等根據地ニ影響ヲ與フル限リ原協定ニ加入スル爲ニハ此ノ點ニ關シテ留保ヲ爲スコトガ必要ナル旨ガ仄カサレタリ

此ノ特別ノ場合及同樣ノ他ノ場合ヲ考慮シ會議ハ原協定ノ第五條ニ但書ヲ

追加スルコトニ同意セリ。**プロトコル**（第四條）ノ記載ニヨレバ鯨肉ガ地方的消費ノ爲使用セラルル場合ニ於テハ陸上作業場ヨリ操業スル捕鯨船ニヨリ捕獲セラルル鯨ニ適用ザルベキ白長須、長須及抹香ノ體長制限ハ夫々五呎ヲ減少セシムルコトトナリタリ本規定ハ根據地ノ存在スル國ノ地方的需要ニ應ズルヲ其ノ目的トスル根據地ニノミ其ノ適用ヲ限定スルモノナリ

一九、原協定第七條ハ三月七日ノ夜半以前ニ於テ捕獲セラレタル鯨ハ漁期終了後ニ於テモ其ノ處理ヲ容認スベキ樣改正サルベシトノ意見ニ同意セリ、從ツテ本規定ハ**プロトコル**中（第五條）ニ挿入セラレタリ

二〇、會議ハ原協定第八條ノ日本ニ於ケル陸上根據地—其ノ或ルモノハ實際一ケ年中六ケ月以上ニ亘リテ操業シ捕獲ノ大部分ハ抹香鯨ヨリ成ルーニ及ボス影響ニ關スル日本代表ノ聲明ヲ考慮セリ

斯ノ如キ陸上根據地ノ場合ヲモ出來得ル限リ考慮シ會議ハ第八條ノ適用ヲ有鬚鯨ニ限定スルコトニ同意セリ而シテ右ニ關スル修正ハ**プロトコル**中ニ包含セラレタリ（第六條）

二一、會議ハ鯨ノ捕獲ヨリ處理迄ノ時間ヲ制限スルヲ目的トスル原協定第十二條ノ適用ニ於テハ若干ノ困難ガ經驗セラレタル旨ノ報告ヲ考慮シ同ジ目的ヲ意味スル他ノ言葉ニテ之ヲ書直スコトニヨリ條項ノ正確ナル解釋ニ關スル不確定性ヲ除去スルコトニ同意セリ從ツテ規定ガ**プロトコル**中ニ挿入セラレタリ（第八條）

二二、會議ハ一九三六—三七年度南氷洋漁期及一九三七年度夏期一五頭以上ノ脊美鯨ガ捕獲セラレタルコトヲ關心ヲ以テ知リタリ、之等ノ鯨ノ或ルモノハ測定セラレ其ノ內ニハ四頭ノ胎兒（體長ハ夫々二〇呎、一九呎、一七呎及一呎）ガ發見セラレ居ルコトヲ知リタリ、之等ノ鯨ノアルモノハ原協定ノ調印國政府ノ國民ニヨリ捕獲セラレタルモノナリ、會議ハ之等ノゼネバ條約及原協定ノ違反ニ關シ關係國ガ注意ヲ喚起セラレンコトヲ切望ス、經

濟的ノ見地ヨリスレバ、今尙生存スル小數ノ脊美鯨ノ捕獲ハ船隊ニ僅少ノ利益ヲ加フベキモ會議ノ意見ニヨレバ原協定ノ規定ニモ拘ラズ背美鯨ガ捕獲セラレシノミナレズ特ニ前記統計ノ示スガ如ク生殖鯨ガ捕獲セラレ居ルハ極メテ歎ハシキ次第ナリ、會議ハ從ツテ之等書モ興味アル哺乳類ノ殘存者ノ保護ノ爲關係國政府ハ原協定第四條ノ規定ヲ嚴格ニ實施セラレンコトノ希望ヲ表明ス

二三、會議ハ**デイスカヴアリー・コンミツデイー**ノ實施セル鯨ノ標識ノ存續竝ニ擴張方ニ關シ捕鯨企業家ノ援助ヲ求ムル旨ノ同**コンミツテイー**ノ提案ニ關スル**マツキントーシユ**博士ノ聲明ニ留意セリ、會議ハ又獨逸政府ガ鯨ノ標識ノ爲採ラント申込タル方法ニツキ獨逸代表ノ聲明ヲ聽取セリ、會議ノ意見ニ依レバ鯨ノ標識ハ鯨族ノ保存ノ問題ニ付緊密ノ關係ヲ有スル鯨族ノ移動ニ關スル知識ニ重大ナル貢獻ヲ爲スモノト思料セラルルヲ以テ會議ハ關係國政府及捕鯨業者ガ右調査ノ發展ヲ援助スベク最善ヲ盡サレンコトノ希望ヲ表明セリ

二四、一九三七年度會議ノ**フアイナル・アクト**第九條ニ關シテハ獨逸及諸威政府ハ彼等ノ領土内ニテ登錄セラレ居ル船舶ノ移轉ヲ處理スルニ必要ナル權能ヲ獲得セルコト及アメリカ合衆國政府ハ既ニ之等ノ權能ヲ所持セルコトガ報告セラレタリ

會議ハ他國モ早キ期日ニ於テ同樣ナル權能ヲ獲得スベキ手續ヲ採ラレンコトヲ表明セリ

二五、結論トシテ會議ハ將來ノ會議開催ノ問題ハ發展ノ程度ニ鑑ミ關係國政府ノ考慮ニ委サルベキコトヲ提議セリ

一九三八年六月二四日**ロンドン**ニ於テ締結シ正本ハ一通トシ右正本ハ大**ブリテン**並ニ北愛蘭聯合王國政府ノ記錄所ニ保存セラルベキモノトス、同國政府ハ確認セル謄本ヲ他ノ總テノ調印國政府ニ送付ス

南阿聯邦政府代表
C. T. te WATER
F. J. du TOIT

亞米利加合衆國政府代表
HERSHAL V. JOHNSON
REMINGTON KELLOGG
WILFRED N. DERBY

アルゼンチン共和國政府代表
MANUEL E. MALBRAN
M. FINCATI

オーストラリヤ自治植民地政府代表
ROBERT G. MENZIES

加奈陀政府代表
VINCENT MASSEY

丁抹政府代表
P. F. ERICHSEN

アイルランド政府代表
SEAN O'FAOLAIN O'DULCHAONTIGH
J. D. RUSH

獨逸政府代表
HELMUTH WOHLTAT

大ブリテン北愛蘭聯合王國政府代表
HENRY G. MAURICE
GEO. HOGARTH

日本政府代表
A. KODAKI

ニユージーランド政府代表
W. J. JORDAN

諸威政府代表
BIRGER BERGERSEN

國際捕鯨取締條約（譯文）

國際捕鯨取締條約

加盟國

アルバニヤ王國

獨逸（共和）國

アメリカ合衆國

ベルギー王國

イギリス帝國

大帝國及北アイルランド及國際聯盟加入ノ諸屬領

カナダ

オーストラリヤ

ニユージランド

南阿聯邦

印度

コロンビヤ共和國

デンマーク王國（アイスランド）

スペイン共和國

フインランド共和國

フランス共和國

ギリシヤ共和國

イタリー王國

メキシコ共和國

ノールウエイ王國

オランタ王國

ポーランド共和國

ルーマニヤ王國

スイス共和聯邦

チエツコスロバキヤ共和國

トルコ共和國

ユーゴースラビヤ王國

以上各加盟國（自治領）ノ全權委員ハ昭和六年九月二十四日ゼネバニ於テ左ノ條項ヲ協定セリ

（尙本條約ハ昭和十年一月十六日以後ソノ效力ヲ發生セリ）

第一條　締約國ハ本條約諸規定ノ適用及之ニ違反スル行爲ノ處罰ヲ確保スル爲、各其ノ法權ノ範圍內ニ於テ適當ノ方法ヲ講ズベキコトニ同意ス

第二條　本條約ハ有鬚鯨類ニ限リ之ヲ適用ス

第三條　本條約ハ下記ニ揭グル場合ニ限リ締約國領土ノ沿岸ニ居住スル土人ニ之ヲ適用セズ

一、土人ガ櫂又ハ帆ヲ以テ運航セシムル「カヌー」「ピローグ」其他專ラ原始的小舟ヲ使用スル場合

二、土人ガ火器ヲ携帶セザル場合

三、土人ガ土人以外ノモノニ雇傭セラレザル場合

四、土人ガ其ノ捕鯨ノ生產品ヲ第三者ニ引渡スコトヲ要セザル場合

第四條　「ライト・ホエール」（脊美鯨類）ノ捕殺ヲ禁ズ

「ライト・ホエール」トハ「ノースケープ・ホエール」「グリーンランド・ホエール」「サウザン・ライトホエール」「パシフイク・ライトホエール」及「サウザン・ピグミー・ライトホエール」ヲ包含スルモノトス

第五條　乳呑鯨及未成熟鯨乳呑鯨ヲ隨伴スル母鯨ハ之ヲ捕殺スルコトヲ得ズ

第六條　捕獲シタル鯨體ハ特ニ左ノ方法ニ依リ成ルベク完全ニ之ヲ利用スベシ

一、鯨油ハ一切ノ脂肪、頭、舌竝ニ大腸ノ排泄孔ニ至ル迄ノ尾部ヨリ煮沸其他ノ方法ニ依リ搾取スルコト

本號ノ規定ハ食用ニ供スル目的ヲ有セザル鯨體又ハ其ノ部分ニノミ適用ス

二、鯨體ヲ處理スベキ陸上工場又ハ工船ハ脂肪肉及骨ヨリ鯨油ヲ搾取スルニ必要ナル器具ヲ備ヘ付クルコト

三、鯨ヲ沿岸ニ牽引シタルトキハ鯨油搾出後ノ殘滓ヲ利用スルニ必要ナル方法ヲ講ズルコト

第七條　捕鯨船ノ砲手及船員ハ其ノ給料ガ出來高拂ナル場合ニ於テハ捕獲シタル鯨ノ大小、種類、價額及鯨油ノ搾出量等ニ依テ給料額ヲ定メラルベク單ニ鯨ノ捕獲頭數ノミニ依ルコト無キ條件ヲ以テ雇傭セラルベシ

第八條　締約國ノ船舶ハ締約國タル所屬國ヨリ當該船舶ニ付免許ヲ受クルカ又ハ船舶所有者若ハ傭船者ガ該船舶ヲ捕鯨ニ使用スベキ旨ヲ締約國タル自國政府ニ通告シ政府ヨリ通告ノ證明ヲ受クルニ非ザレバ鯨ノ捕獲又ハ處理ニ從事スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ鯨ノ捕獲陸揚又ハ處理ノ爲其ノ領土又ハ領海ヲ使用セントスル一切ノ船舶ニ對シ締約國ガ更ニ自國ノ權限ニ基ク免許ヲ受クベキコトヲ要求スル權利ヲ害セラルルコト無シ該免許ハ船舶ノ國籍ノ如何ヲ問ハズ之ヲ拒否シ又ハ當該締約國ガ必要又ハ適當ト認ムル條件ヲ之ニ附スルコトヲ得

第九條　本條約ノ適用區域ハ公海領海及內海ヲ含ム一切ノ海洋トス

第十條

一、締約國ハ自國ノ國旗ヲ揭揚スル捕鯨船ヨリ捕鯨シタル鯨ニ關スル完全ナル生物學的報告ヲ提出セシムベシ。該報告ニハ少クモ左ノ事項ヲ記載セラルベシ

（一）　捕獲日時

（二）　捕獲場所

（三）　種　類

（四）　性　別

（五）　水中ヨリ引揚ゲタルトキハ鯨ノ實測體長又ハ氣中ニ於テ裁斷シタルトキハ見込體長

（六）　胎兒ヲ有スル場合ハ胎兒ノ體長及判別シ得ル場合ハ胎兒ノ性別

（七）　可能ナル場合ハ胃ノ內容物ニ關スル報告

二、前項第五號及第六號ニ揭ゲタル體長ハ吻端ヨリ尾鰭ノ交點ニ至ル直線ノ長サヲ謂フ

第十一條　各締約國ハ其ノ管轄ニ屬スル一切ノ陸上工場又ハ工船ヨリ各工場ニ於テ處理シタル各種ノ鯨ノ頭數、品種別鯨油ノ秤量及肉粉、肥料其ノ他該鯨ヨリ採取シタル生產物ノ數量ヲ明カニシタル報告ヲ提出セシムベシ

第十二條　締約國ハ其ノ管轄區域內ニ於テ行ハレタル鯨ニ關スル作業ノ統計報告ヲ在オスロー國際捕鯨統計局ニ通報スベシ、該報告ニハ少クトモ第十條各號ニ揭ゲタル事項及下記ノ各號ニ揭グル事項ヲ包含スベシ

一、各工船ノ名稱及噸數

二、捕鯨船ノ隻數及總數

三、當該期間內作業ヲ爲シタル陸上工場ノ一覽表

前項ノ報告ハ一年ヲ超エザル適當ノ期間每ニ之ヲ提出スベシ

第十三條　締約國ガ其ノ領土若ハ領海ニ於テ又ハ其ノ船舶ニ依リ本條約諸規定ノ遵守ヲ確保スル爲ニ努力スベキ義務ハ本條約ノ適用無キ締約國ノ領土若ハ之ニ近接スル領海又ハ其ノ領土ニテ登錄セラレタル船舶ニ關シテハ適用セラレズ

第十四條　本條約ハ佛文及英文ヲ以テ共ニ正文トス本條約ハ國際聯盟加盟國タルト非加盟國タルトヲ問ハズ總テノ國ニ於テ一九三二年三月三十一日迄之ニ署名スルコトヲ得

第十五條　本條約ハ批准ヲ要ス。批准書ハ國際聯盟事務總長ニ寄託セラルベキモノトス。事務總長ハ國際聯盟ノ總テノ加盟國及非加盟國ニ對シ其ノ寄託ノ日ヲ附記シテ批准書ノ受理ヲ通告スベシ

第十六條　一九三二年四月一日以降ニ於テハ右期日以前ニ本條約ニ署名セザリシ國際聯盟加盟國及非加盟國ハ何レモ本條約ニ加入スルコトヲ得

加入書ハ國際聯盟事務總長ニ寄託セラルベキモノトス事務總長ハ國際聯盟ノ總テノ加盟國及非加盟國ニ對シ寄託及寄託ノ日ヲ通告スベシ

第十七條　本條約ハ國際加盟事務總長ガ國際聯盟加盟國又ハ非加盟國ノ少クトモ八箇國ノ批准書又ハ加入書ヲ受理シタル日ヨリ九十日ヲ經タル後效力ヲ發生ス、但シ右八箇國中ニハ諸威王國及大「ブリテン」北愛蘭聯合王國ヲ包含スルコトヲ要ス

本條約ノ效力發生後批准書又ハ加入書ヲ寄託シタル國際聯盟加盟國又ハ非加盟國ニ關シテハ本條約ハ其ノ批准書又ハ加入書寄託ノ日ヨリ九十日ヲ經タル後效力ヲ發生ス

第十八條　本條約ノ效力發生後ニ於テ現ニ本條約ヲ實施セル聯盟加盟國又ハ非加盟國中二國ノ要求ニ依リ國際聯盟理事會ガ本條約ノ修正ノ爲會議ヲ召集シタル場合ハ各締約國ハ該會議ニ代表者ヲ派遣スベキコトニ同意ス

第十九條

一、本條約ハ效力發生ノ日ヨリ三ケ年ヲ經タル後廢棄ノ通告ヲ爲スコトヲ得

二、廢棄ノ通告ハ國際聯盟事務總長宛書面ヲ以テ爲スモノトス事務總長ハ國際聯盟ノ總テノ加盟國及非加盟國ニ對シ右通告ノ受理及受理ノ日ヲ通告スヘシ

三、廢棄ノ通告ハ受理後六ケ月ヲ經テ效力ヲ生ズ

第二十條

一、各締約國ハ署名批准又ハ加入ノ際本條約ヲ承認スルコトニ依リ其ノ殖

民地、保護領、海外領土又ハ其ノ宗主權若ハ委任統治ニ屬スル地域ノ全部又ハ一部ニ付キ何等ノ義務ヲ負擔セザル旨ヲ宣言スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本條約ハ該宣言ノ目的タル地域ニ適用セラレザルモノトス

二、各締約國ハ前號ニ掲ゲタル宣言ノ目的タル地域ノ全部又ハ一部ニ付本條約ヲ適用スベキ旨ヲ將來任意ノトキニ於テ國際聯盟事務總長ニ通告スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本條約ハ事務總長ガ該通告ヲ受理シタル日ヨリ九十日後ニ於テ該通告ニ掲ゲタル一切ノ地域ニ適用セラルルモノトス

三、各締約國ハ何時ニテモ第十九條ニ掲ゲタル三ケ年ヲ經タル後其ノ殖民地、保護領、海外領土又ハ其ノ宗主權若ハ委任統治ニ屬スル地域ノ全部又ハ一部ニ付本條約ノ適用ヲ停止スベキ旨ヲ宣言スルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ本條約ハ國際聯盟事務總長ガ右宣言ヲ受理シタル日ヨリ六ケ月後ニ於テ該宣言書ニ記載シタル地域ニ付適用ヲ停止セラル

四、國際盟事務總長ハ國際聯盟ノ總テノ加盟國及非加盟國ニ對シ本條ノ規定ニ依リ受理シタル宣言又ハ通告並ニ各其ノ受理ノ日ヲ通知スベシ

第二十一條　本條約ノ效力發生シタルトキ國際聯盟事務總長ハ直ニ之ヲ登錄スベシ

AGREEMENT FOR THE REGULATION OF WHALING.

The Governments of the Union of South Africa, the United States of America, the Argentine Republic, the Commonwealth of Australia, Germany, the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland, the Irish Free State, New Zealand and Norway, desiring to secure the prosperity of the whaling industry and, for that purpose, to maintain the stock of whales, have agreed as follows:—

ARTICLE 1.

The contracting Governments will take appropriate measures to ensure the application of the provisions of the present Agreement aud the punishment of infractions against the said provisions, and, in particular, will maintain at least one inspector of whaling on each factory ship under their jurisdiction. The inspectors shall be appointed and paid by Governments.

ARTICLE 2.

The present Agreement applies to factory ships and whale catchers and to land stations as defined in Article 18 under the jurisdiction of the contracting Governments, and to all waters in which whaling is prosected by such factory ships and/or whale catchers.

ARTICLE 3.

Prosecutions for infractions against or contraventions of the present Agreement and the regulations made thereunder shall be instituted by the Government or a Department of the Government.

ARTICLE 4.

It is forbidden to take or kill Grey Whales and/or Right Whales.

ARTICLE 5.

It is forbidden to take or kill any Blue, Fin, Humpback or Sperm whales below the following lengths, viz.:—

(*a*) Blue whales ... ... 70 feet.
(*b*) F.n whales ... ... 55 feet.
(*c*) Humpback whales ... ... 35 feet.
(*d*) Sperm whales... ... ... 35 feet.

ARTICLE 6.

It is forbidden to take or kill calves, or suckling whales or female whales which are accompanied by calves or suckling whales.

ARTICLE 7.

It is forbidden to use a factory ship or a whale catcher attached thereto for the purpose of taking or treating baleen whales in any waters south of 40° South Latitude, except during the period from the 8th day of December to the 7th day of March following, both days inclusive, provided that in the whaling season 1937–38 the period shall extend to the 15th day of March, 1938, inclusive.

ARTICLE 8.

It is forbidden to use a land station or a whale catched attached thereto for the purpose of taking or treating whales in any area or in any waters for more than six months in any period of twelves months, such period of six months to be continuous.

ARTICLE 9.

It is forbidden to use a factory ship or a whale catcher attached thereto for the purpose of taking or treating baleen whales in any of the following areas, viz.:—

(*a*) in the Atlantic Ocean north of 40° South Latitude and in the Davis Strait, Baffin Bay and Greenland Sea;
(*b*) in the Pacific Ocean east of 150° West Longitude between 40° South Latitude and 35° North Latitude;

(*c*) in the Pacific Oceae west of 150° West Longitude between 40° South Latitude and 20° North Latitude;
(*d*) in the Indian Ocean north of 40° South Latitude.

ARTICLE 10.

Notwithstanding anything contained in this Agreement, any contracting Government may grant to any of its nationals a special permit authorising that national to kill, take and treat whales for purposes of scientific research subject to such restrictions as to number and subject to such other conditions as the contracting Government thinks fit, and the killing, taking and treating of whales in accorcance with the terms in force under this article shall be exempt from the operation of this Agreement.

Any contracting Government may at any time revoke a permit granted by it under this article.

ARTICLE 11.

The fullest possible use shall be made of all whales taken. Except in the case of whales or parts of whales intended for human food or for feeding animals, the oil shall be extracted by boiling or otherwise from all blubber, meat (except the meat of sperm whales) and bones other than the internal organs, whale bone and flippers, of all whales delivered to the factory ship or land station.

ARTICLE 12.

There shall not at any time be taken for delivery to any factory ship or land station a greater number of whales than can be treated efficiently and in accordance with article 11 of the present Agreement by the plant and personnel therein within a period of thirty six hours from the time of the killing of each whale.

ARTICLE 13.

Gunners and crews of factory ships, land stations and whale catchers shall be engaged on terms such that their remuneration shall depend to a considerable extent upon such factors as species, size and yield of whales taken, and not merely upon the number

of the whales taken, and no bonus or other remuneration, calculated by reference to the result of their work, shall be paid to the gunners and crews of whale catchers in respect of any whales the taking of which is forbidden by this Agreement.

ARTICLE 14.

With a view to the enforcement of the preceding article, each contracting Government shall obtain, in respect of every whale catcher under its jurisdiction, an account showing the total emolument of each gunner and member of the crew and the manner in whicn the emolument of each of them is calculated.

ARTICLE 15.

Article 5, 9, 13 and 14 of the present Agreement, in so far as they impose obligations not already in force, shall not until the 1st day of December, 1937, apply to factory ships, land stations or catchers attached thereto which are at present operating or which have already taken practial measures with a view to whaling operatins during the period before the said date. In respect of such factory ships, land stations and whale catchers, the Agreement shall in any event come into force on the said date.

ARTICLE 16.

The contracting Governments shall obtain with regard to all factory ships and land stations under their jurisdiction records of the number of whales of each species treated at each factory ship or land station and as to the aggregate amounts of oil of each grade and quantities of meal, guano and other products derived from them, together with particulars with respect to each whale treated in the factory ship or land station as to the date and place of taking, the species and sex of the whale, its length and, if it contains a foetus, the length and sex, if ascertainable, of the foetus.

ARTICLE 17.

The contracting Governments shall, with regard to all whaling operations under their jurisdiction, communicate to the International

Bureau for Whaling Statistics at Sandefjord in Norway the statistical information specified in Article 16 of the present Agreement together with any information which may be collected or obtained by them in regard to the calving grounds and migration routes of whales.

In communicating this information the Governments shall specify;—

(*a*) the name and tonnage of each factory ship;
(*b*) the number and aggregate tonnage of the whale catchers;
(*c*) a list of the land stations which were in operation during the period concerned.

ARTICLE 18.

In the present Agreement the following expressions have the meanings respectively assigned to them, that is to say:—

"factory ship" means a ship in which or on which whales are treated whether wholly or in part;

"whale cather" means a ship used for the purpose of hunting, taking, towing, holding on to, or scouting for whales;

"land station" means a factory on the land, or in the territorial waters adjacent thereto, in which or at which whales are treated whether wholly or in part;

"baleen whale" means any whale other than a toothed whale;

"blue whale" means any whale known by the name of blue whale, Sibbald's rorqual or sulphur bottom;

"fin whale" means any whale known by the name of common finback, common finner, common rorqual, finback, fin whale, herring whale, razorback, or true fin whale;

"grey whale" means any whale known by the name of grey whale, California grey, devil fish, hard head, mussel digger, grey back, rip sack;

"humpback whale" means any whale known by the name of bunch, humpback, humpback whale, humpbacked whale, hump whale op hunchbacked whale;

"right whale" means any whale known by the name of Atlantic right whale, Arctic right whale, Biscayan right whale, bowhead, great polar whale, Greenland right whale, Greenland whale, Nordkaper. North Atlantic right whale,

North Cape whale, Pacific right whale, pigy right whale, Southern pigmy right whale or Southern right whale;

"sperm whale" means any whale known by the name of sperm whale, spermacet whale, cachalot or pot whale;

"length" in relation to any whale means the distance measured on the level in a straight line between the tip of the upper jaw and the notch between the flukes of the tail.

ARTICLE 19.

The present Agreement shall be ratified and the instruments of ratification shall be deposited with the Government of the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland as soon as possible. It shall come into force upon the deposit of instruments of ratification by a majority of the signatory Governments, which shall include the Governments of the United Kingdom, Germany and Norway; and for any other Government not included in such majority on the date of the deposit of its instrument of ratification.

The Government of the United Kingdom will inform the other Governments of the date on which the Agreement thus comes into force and the date of any ratification received subsequently.

ARTICLE 20.

The present Agreement shall come into force provisionally on the 1st day of July, 1937, to the extent to which the signatory Governments are respectively able to enforce it; provided that if any Government within two months of the signature of the Agreement informs the Government of the United Kingdom that it is unwilling to ratify it the provisional application of the Agreement in respect of that Government shall thereupon cease.

The Government of the United Kingdom will communicate the name of any Government which has signified that it is unwilling to ratify the Agreement to the other Governments, any of whom may within one month of such communication withdraw its ratification or accesion or signify its unwillingness to ratify as the case may be, and the provisional application of the Agreement in respect of that Government shall thereupon cease. Any such withdrawal or communication shall be notified to the Government of the

United Kingdom, by whom it will be transmitted to the other Governments.

ARTICLE 21.

The present Agreement shall, subject to the preceeding article, remain in force until the 30th day of June, 1938, and thereafter if, before that date, a majority of the contracting Governments, which shall include the Governments of the United Kingdom, Germany and Norway, shall have agreed to extend its duration. In the event of such extension it shall remain in force until the contracting Governments agree to modify it, provided that any contracting Government may, at any time after the 30th day of June, 1938, by giving notice on or before the 1st day of January in any year to the Government of the United Kingdom (who on receipt of such notice shall at once communicate it to the other contracting Governments) withdraw from the Agreement, so that it shall cease to be in force in respect of that Government after the 30th day of June following, and that any other contracting Government may, by giving notice in the like manner within one month of the receipt of such communication, withdraw also from the Agreement, so that it shall cease to be in force respecting it after the same date.

ARTICLE 22.

Any Government which has not signed the present Agreement may accede thereto at any time after it has come into force. Accession shall be effected by means of a notification in writing addressed to the Government of the United Kingdom and shall take effect immediately after the date of its receipt.

The Government of the United Kingdom will inform all the Governments which have signed or acceded to the present Agreement of all accessions received and the date of their receipt.

In faith whereof the Undersigned, being duly authorised, have signed the present Agreement.

Done in London the 8th day of June, 1937, in a single copy, which shall remain deposited in the archives of the Government of the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland,

by whom certified copies will be transmitted to all the other contraction Governments.

For the Government of the Union of South Africa:

F. J. Du TOIT.

For the Government of the United States of America:

HERSCHEL V. JOHNSON.
REMINGTON KELLOGG.

For the Government of the Argentine Republic:

MANUEL E. MALBRAN.
M. FINCATI.
T. L. MARINI.

For the Government of the Commonwealth of Australia:

S. M. BRUCE.

For the Government of Germany:

WOHLTHAT

For the Government of the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland:

HENRY G. MAURICE.
GEO. HOGARTH.

For the Government of the Irish Free State:

SEAN O'FAOLAIN O'DULCHAONTIGH.

For the Government of New Zealand:

G. McNAMARA.

For the Government of Norway:

BIRGER BERGERSEN.

FINAL ACT.

The Conference, having this day signed an Agreement for the Regulation of Whaling, to take immediate effect, desires to add, for the consideration of the Governments represented at the Conference, the following observations:—

2. The Agreement is valid for one year and will, it is hoped, continue in force for future years, unless the Governments, or any of them, decide to the contrary. It is likely, in the opinion of the Conference, to go far towards maintaining the stock of whales, upon which the prosperity of the whaling industry depends.

3. Experience may prove, however, that further measures of conservation are necessary or desirable. The Conference desires, therefore, to suggest that certain further methods of conservation and of preventing wastage of whales should be examined by the Governments concerned without delay, and that the Governments should take the necessary measures by legislation to place themselves in a position to impose such further regulations of whaling as experience may dictate.

4. The Agreement prescribes regulations mainly of general application to whaling from factory ships and land stations alike. The most important of these regulations are those requiring the observance of close seasons, prohibiting the taking of whales of certain species already threatened with extinction, prohibiting the taking of female whales with calves or suckling whales and of whales of different species below size limits prescribed for each species, requiring full commercial use to be made of every part of every whale taken, and limiting the time within which, from the time of catching, whales must be treated in a factory ship or land station as the case may be. The purpose of these regulatinns is to limit the number of whales killed and to prevent the waste of whale material.

5. Certain provisions of the Agreement, however, affect only pelagic whaling, in particular those provisions which absolutely prohibit pelagic whaling for baleen whales in certain large areas

of the sea. This differentiation between whaling prosecuted by means of factory ships and by means of land stations needs explanation. It has been urged that whaling as hitherto prosecuted from some land stations, especially near the equatorial zone, has been wasteful and harmful because the physiological condition of the whales taken was such that their oil yield was low and because whales were taken at these stations when they were about to throw their calves. Against this it may be argued that the raising of the size limits for various species under the Agreement will greatly restrict the catch brought to the land stations, that the land stations, not enjoying the mobility of the factory ships, are already handicapped in the pursuit of whales, and that whatever catch they take is a comparatively insignificant fraction of the total catch. The Conference recommends that the catch of the land stations should be carefully studied and that the Governments should consider, in the light of such study, what further regulations, if any, should be attached to whaling from land stations, either generally or in particular geographical areas. In the view of the Conference, there is a certain risk that the restrictions imposed on pelagic whaling may lead to a development of whaling from land stations, and the Governments should accordingly place themselves in a position to check or regulate such development should it occur.

6. The Conference further recommends that the Governments should put themselves in a position to limit, if it is thought fit, the number of whale catchers that may be employed in connection with any factory ship or land station with a view to further limitation of the destruction of whales.

7. The Governments are also recommended to take powers, if they do not already possess them, to prohibit whaling entirely in any area of the sea either permanently or for a limited period. It is felt that it may be desirable, in the light of experience gained, to close permanently areas which may be proved to be calving areas, or to close from year to year selected areas of the Antarctic Ocean or elsewhere for the purpose of giving to the whales a sanctuary in which they may escape molestation.

8. The Conference also recommends that the Governments should place themselves in a position to regulate the methods of

killing whales. Under existing methods of whaling, whales may be fatally injured, but lost owing to defects in the guns or harpoons in use, including the propelling and bursting charges. This involves waste of whales. It is suggested that it may prove desirable so to regulate the methods of taking whales as to ensure that, by the use of suitable explosive charges, or by the use of a harpoon electrically charged, the whale when hit may be speedily killed and wastage thus avoided. Moreover, a regulation of this character may be expected to abate something of the undoubted cruelty of present methods of whaling.

9. The Conferenee further recommends that the contracting Governments should take steps to prevent this Agreement and any regulations made thereunder from being defeated by the transfer of ships registered in their territories to the Flag of another Government not a party to this Agreement, and suggests that for this purpose it might be provided that the transfer of a factory ship or whale catcher from its national Flag to the Flag of any other country should be permitted only under licence of the Government.

10. The Conference believes that the regulations upon which it has agreed will certainly contribute to the maintenance of the stock of whales and to the prosperity of the whaling industry. Not all the representatives of Governments present at the Conference have been able to sign the Agreement, some of them not being authorised by their Governments in that behalf. It is hoped that all Governments represented will eventually accede to the Agreement. The Conference desires to urge upon the contracting Governments that they should use their utmost endeavours to secure the adhesion of such Powers as are interested in the whaling industry but were not represented at the present Conference. The Conference recognises that the purpose of the present Agreement may be defeated by the development of unregulated whaling by other countries, in which case it would be a matter for consideration whether the present Agreement should be continued in force, or whether the contracting Governments should not agree to modify their regulations to meet the situation thus created, or even to permit their nationals to pursue whaling without regulation, so that they may derive form its pursuit such

benefit as may be had before the stock of whales has been reduced to a level at which whaling ceases to be remunerative. For the Conference is convinced that, unless whaling is now strictly regulated, that eventuality cannot be regarded as remote.

11. In conclusion, the Conference desires to urge that a further Conference should be held at a convenient time next year, at which the results of the forthcoming season may be studied and the question of the modification or extension of the present Agreement be considered.

Done in London, the 8th day of June, 1937, in a single copy, which shall remain deposited in the archives of the Government of the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland, by whom certified copies will be transmitted to the other Governments which have signed the Agreement for the Regulation of Whaling.

For the Government of the Union of South Africa:

F. J. du TOIT.

For the Government of the United States of America:

HERSCHEL V. JOHNSON.
REMINGTON KELLOGG.

For the Government of the Argentine Republic:

MANUEL E. MALBRAN.
M. FICANTI.
T. L. MARINI.

For the Government of the Commonwealth of Australia:

S. M. BRUCE.

For the Government of Germany:

WOHLTHAT.

For the Government of the United Kingdom of Great Britain Northern Ireland:

HENRY G. MAURICE.
GEO. HOGARTH.

For the Government of the Irish Free State:

SEAN O'FAOLAIN O'DULCHAONTIGH.

For the Government of New Zealand:

G. McNAMARA.

For the Government of Norway:

BIRGER BERGERSEN.

INTERNATIONAL WHALING CONFERENCE.

LONDON—JUNE, 1938.

PROTOCOL

The Governments of the Union of South Africa, the United States of America, the Argentine Republic, the Commonwealth of Australia, Canada, Eire, Germany, the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland, New Zealand and Norway, desiring to introduce certain amendments into the International Agreement for the Regulation of Whaling, signed in London on the 8th June, 1937 (hereinafter referred to as the Principal Agreement) in accordance with the provisions of Article 21 thereof, have agreed as follows:—

ARTICLE 1.

With reference to the provisions of Articles 5 & 7 of the Principal Agreement it is forbidden to use a factory ship or a whale catcher attached thereto for the purpose of taking or treating humpback whales in any waters south of 40° South Latitude during the period from 1st October, 1938 to 30th September, 1939.

ARTICLE 2.

Notwithstanding the provisions of Article 7 of the Principal Agreement it is forbidden to use a factory ship or a whale catcher attached thereto for the purpose of taking or treating baleen whales in the waters south of 40° South Latitude from

70° West Longitude westwards as far as 160° West Longitude for a period of teo years from the 8th day of December, 1938.

ARTICLE 3.

(1) No factory ship which has been used for the purpose of treating baleen whales south of 40° South Latitude shall be used for that purpose elsewhere within a period of twelve months from the end of the open season prescribed in Article 7 of the Principal Agreement.

(2) Only such factory ships as have operated during the year 1937 within the territorial waters of any signatory Government shall, after the signature of this Protocol, so operate, and any such ships so operating shall be treated as land stations and remain moored in territorial waters in one position during the season and shall operate for not more than six months in any period of twelve months, such period of six months to be continuous.

ARTICLE 4.

To Article 5 of the Principal Agreement there shall be added the following:—

"except that blue whales of not less than 65 feet, fin whales of not less than 50 feet and sperm whales of not less than 30 feet in length may be taken for delivery to land stations provided that the meat of such whales is to be used for local consumption as human or animal food."

ARTICLE 5.

To Article 7 of the Principal Agreement there shall be added the following:—

"Notwithstanding the above prohibition of treatment during a close season the treatment of whales which have

been taken during the open season may be completed after the end of the open season."

ARTICLE 6.

In Article 8 of the Principal Agreement the word "baleen" shall be inserted after the word "treating".

ARTICLE 7.

For the areas specified in (a) (b) (c) and (d) of Article 9 of the Principal Agreement there shall be substituted the following areas, viz—

(a) in the waters north of 66° North Latitude except that from 150° East Longitude eastwards as far as 140° West Longitude the taking or killing of whales by such ship or catcher shall be permitted between 66° North Latitude and 72° North Latitude.

(b) in the Atlantic Ocean and its dependent waters north of 40° South Latitude.

(c) in the Pacific Ocean and its dependent waters west of 150° West Longitude between 40° South Latirude and 35° North Latitude.

(d) in the Pacific Ocean and its dependent waters west of 150° West Longitude between 40° South Latitude and 20° North Latitude.

(e) in the Indian Ocean and its dependent waters north of 40° South Latitude.

ARTICLE 8.

For Article 12 of the Principal Agreement there shall be substituted the following, viz—The taking of whales for delivery to a factory ship shall be so regulated or restricted by the master or person in charge of the factory ship that no whale carcase

shall remain in the sea for a longer period than 33 hours from the time of killing to the time when it is taken up on to the deck of the factory ship for treatment.

ARTICLE 9.

The present Protocol shall come into force provisionally on the first day of July, 1938, to the extent to which the signatory Governments are respectively able to enforce it.

ARTICLE 10.

(i) The present Protocol shall be ratified and the instruments of ratification shall be deposited with the Government of the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland as soon as possible.

(ii) It shall come into force definitively upon the deposit of the instruments of ratification by the Governments of the United Kingdom, Germany and Norway.

(iii) For any other Government which is a party to the Principal Agreement the present Protocol shall come into force on notification of accession.

(iv) The Government of the United Kingdom will inform the other Governments of the date on which the Protocol comes into force and the date of any ratification or accession received subsequently.

ARTICLE 11.

(i) The present Protocol shall be open to accession by any Government which has not signed it and which accedes to the Principal Agreement before the definitive entry into force of the Protocol.

(ii) Accession shall be effected by means of a notification in writing addressed to the Government of the United Kingdom

and shall take effect immediately after the date of its receipt.

(iii) The Government of the United Kingdom will inform all the Governments which have signed or acceded to the present Protocol of all accessions received and the date of their receipt.

ARTICLE 12.

Any ratification of, or accession to the Principal Agreement which may be deposited or notified after the date of definitive coming into force of the present Protocol shall be deemed to relate to the Principal Agreement as amended by the present Protocol.

In witness whereof the undersigned duly authorised thereto have signed the present Protocol.

In witness where of the undersigned duly authorised thereto have signed the present Protocol.

Done in London the twenty-fourth day of June, 1938 in a single copy which shall be deposited in the archives of the Government of the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland by whom certified copies shall be communicated to all the signatory Governments.

For the Govenment of the Union of South Africa.

C. T. TE WATER
F. J. DU TOIT

For the Government of the United States of America:

HERSCHAL V. JOHNSON
REMINGTON KELLOGG
WILFRED N. DERBY

For the Government of the Argentine Republic:

MANUEL E. MALBRAN
M. FINCATI

For the Government of the Commonwealth of Australia:

ROBERT G. MENZIES

For the Government of Canada:

VINCENT MASSEY

For the Government of Eire:

SEAN O'FAOLAIN O'DULCHAONTIGH
J. D. RUSH

For the Government of Germany:

HELMUTH WOHLTAT

For the Government of the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland:

HENRY G. MAURICE
GEO. HOGARTH

For the Government of New Zealand

W. J. JORDAN

For the Government of Norway:

BIRGER BERGERSEN

INTERNATIONAL WHALING CONFERENCE.

LONDON—JUNE, 1938.

FINAL ACT OF THE CONFERENCE.

1. In accordance with the Recommendation contained in paragraph 11 of the Final Act signed in London on 8th June, 1937, a further Conference met in London on 14th June, 1938, and subsequent days to consider modifications or extensions of the existing Agreement, hereinafter referred to as the Principal Agreement.

2. The following Governments sent Delegates to the Conference:—
Union of South Africa, United States of America, Argentine, Australia, Canada, Denmark, Eire, France, Germany, United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland, Japan, New Zealand and Norway. An observer also attended on behalf of the Portuguese Government, and the interest of Newfoundland were watched by the United Kingdom Delegation.

3. The Principal Agreement has been ratified by the Governments of Eire, Germany, Norway, United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland and United States of America, whilst Canada and Mexico have since acceded to it. With regard to the remaining signatory Governments, New Zealand has actually ratified the Principal Agreement. The Argentine Republic is enforcing the Principal Agreement by Executive Decree, and formal retification is only a matter of time. The Conference understands that ratification of the Principal Agreement by the Governments of the Commonwealth

of Australia and of the Union of South Africa has been delayed only by constitutional difficulties. The Conference is confident that these Governments will take steps at the earliest possible moment to remove these difficulties and to ratify. The Government of Denmark has notified its intention of acceding to the Principal Agreement and the Protocol as soon as the necessary powers to enforce their provisions have been obtained by legislation. The Government of France is prepared to accede to the Principal Agreement subject to certain reservations affecting land stations, which are dealt with later in this Act. Towards the end of the proceedings of the Conference the Japanese Delegation informed the Conference that their Government was prepared to take the necessary legislative and other measures to enable them to accede to the Principal Agreement and the Protocol after an interval of a year subject to a reservation in respect of the first paragraph of Article 3 of the Protocol. The Japanese Government is also prepared to observe the principles of the present Agreement as nearly as possible in the meantime. There is no information at present available as the attitude of Portugal and the Government of Newfoundland has reserved its decision.

4. The necessary majority required by Article 21 of the Principal Agreement for the extension of its duration after 30th June, 1938, has been secured.

5. The Conference took note of the fact that, according to the statistics of the catch of the last Antarctic season, the opinion expressed in paragraph 2 of the Final Act of the Conference of 1937, that the Principal Agreement was likely to go far in maintaining the stock of whales, had not been justified by the event, inasmuch as the actual number of whales killed (approximately 44,000) and the number of barrels of oil produced (approximately 3,150,000) were, respectively, some 10,000 and 600,000 in excess of the corresponding figures for the

previous season.

6. The Conference had also before it a Resolution of the Whaling Committee of the International Council for the Exploration of the Sea, which met in Copenhagen on 23rd May, 1938, in the following terms:—

> "The Committee, viewing with alarm the evident decline of the stock of Blue Whales, is of opinion that nothing less than a limitation of the total amount of whale oil which may be taken in any whaling season can be effective in preserving the stock of Blue Whales from being reduced to the level at which it can no longer be the object of economic exploitation."

This resolution was adopted by the Council at its concluding Meeting on 28th May, 1938, with a request that it should be brought to the notice of the Members of the present Conference.

7. In the light of the facts set forth in paragraph 5 above, and the terms of the above Resolution of the Whaling Committee of the International Council for the Exploration of the Sea, the Conference considered the following measures of general application which might be expected to limit the destruction of whales:—

(a) a further reduction of the open season;

(b) a limitation of the number of catchers which might be used in connection with each expedition;

(c) an overhead limitation of output during the Antarctic whaling season, by which is meant that a limit of output should be fixed, after which all whaling should cease, though the limit might be reached before the end of the open season;

(d) the fixing of a maximum oil production which no expedition should exceed in any one Antarctic season;

(e) special measures of protection for humpback whales;
(f) the establishment of a sanctuary in waters south of 40° South Latitude;
(g) the closure of additional areas against pelagic whaling.

8. With regard to method (a) in the foregoing paragraph, the Conference agreed, with the exception of the Japanese Delegation who reserved their position for the season 1938-39, that the open season provided for the Article 7 of the Principal Agreement, that is to say, from the 8th day of December to the 7th day of March following, should be maintained. It was felt that few, if any, expeditions would be able to engage pofitably in whaling if the open season in the Antarctic were further curtailed; and that a further curtailment of the open season would increase the temptation to evade the provisions of Articles 11 and 12 of the Principal Agreement, which are designed to secure that the fullest possible use shall be made of all whales taken.

9. With regard to method (b) a proposal was put forward that the number of whale catchers attached tc any expedition shoule be limited to seven, but the Conference was unable to reach agreement either upon this proposal or upon any limitation in the number of whale catchers.

10. Although method (c) was advocated by the Whaling Committee of the International Council for the Exploration of the Sea as the most effective restriction of undue exploitation of the whale stock, the Conference did not feel able at the present time to recommend its adoption.

11. The Conference could not agree on the application of method (d). In particular, objection was taken to this method on the ground that its incidence would be unfair, in that it would limit the operations of the most efficient factory ships

and have little, if any, effect upon the operations of the smaller and less efficient factory ships. The question whether different maxima might be fixed for different expeditions according to their capacity was raised, but it was clear that agreement would not be reached on this basis.

12. Although the Conference was unable to agree to the immediate adoption of methods (b), (c) or (d) there was a strong feeling that these were matters calling for further expert examination by all the Governments concerned, with a view to their consideration at a subsequent Conference.

13. With regard to method (e) attention was drawn to a Report recently issued by the Discovery Committee concerning the condition of the stock of humpback whales and to other evidence pointed a Committee to study this question. The Committee reported that there was ample biological evidence to show that the humpback stock was in very serious danger in all sectors of the southern hemisphere, and recommended that there should be no hunting of this species of whale for at least a year in any waters or at least in the southern hemisphere and North Atlantic and dependent waters. It proved impossible to obtain the general agreement of the Conference to this proposal chiefly because some land stations depend mainly upon humpbacks for their output of oil, and it was contended that the total prohibition, even for one year, of the hunting of humpbacks would have an effect on these land stations disproportionate to that which it would have on pelagic expeditons. The Conference, therefore, while admitting the deserability of a total prohibition, agreed that in the first instance the hunting of humpbacks by means of pelagic expeditions should be prohibited in the waters south of 40° South Latitude. A provision to this effect has consequently been embodied in the Protocol (Article 1). It is hoped that this measure of protection coupled with the immunity which all baleen whales would enjoy in the greater part of the

waters north of 40° South Latitude should have useful results and the Conference strongly recommends the Governments represented thereat and other Governments concerned to study this question furthe with a view to giver complete protection to humpback whales for a suitable period after 30th September, 1939.

14. With regard to method (f) the Conference agreed that the sector of the waters south of 40° South Latitude which lies between 70° West Longitude and 160° West Longitude should be a sanctuary for whales for at least two years and provision has been made accordingly in the Protocol (Article 2). In this sector commercial whaling has not hitherto been prosecuted but the evidence acquired by the Discovery Committee shows that it is frequented by baleen whales, and the Conference agreed that it was highly desirable that the immunity which whales in this area had hitherto enjoyed should be maintained. Little information is available as to the extent to which whales from this area travel into the adjoining areas or vice versa, but there is reason to think that such movement does, to some extent, take place and that therefore the protection provided in this area may have useful results.

15. With regard to method (g), certain doubts having arisen already as to the limits of the Greenland Sea referred to in Article 9 of the Principal Agreement and as to the extent to which the Arctic Ocean is included within the area protected by that Article, it was suggested that the whole of the waters North of 66° North Latitude should be brought under protection, and that to the Atlantic and Indian Ocean and to the closed areas of the Pacific Ocean should be added their respective dependent waters. The Japanese Delegation, however, asked for a concession permitting whaling in the Arctic Ocean north of the Pacific Ocean, between 66 North Latitude, and 72° North Latitude. In view of the satisfactory declaration as to the position of the Japanese Government referred to in paragraph 3, the Conference agreed to exclude these waters from the restriction. Provision to these points has accordingly been made in the Protocol (Article 7).

16. In the fifth paragraph of the Final Act of the Conference of last year attention was drawn to the risk that the restrictions imposed on pelagic whaling might lead to a development of whaling from land stations, and the Governments were accordingly advised to place themselves in a position to check or regulate such development should it occur. Since the Conference of last year an unforeseen development has occurred owing to the assumption in crteain quarters that, in spite of the provisions of Article 9 of the Principal Agreement, it was legitigate to use a factory ship as a temporary "land station" when it remained within the territorial waters of a State. In the opinion of the Conference as a whole (United States of America Delegation dissenting) the wording of Article 9 of the Principal Agreement prohibits the use of a factory ship for treating whales in the whole of the areas specified, without exception. Briefly, the majority view of the Conference is that a factory ship does not lose its character of being a ship until at least it loses its power of independent movement, and that a factory ship moored in territorial waters is no less a ship than any other ship which drops its anchor or is moored in a port. Although the Conference has no doubt of the correctness of this interpretation of Article 9, it has been thought desirable, in view of the events which have occurred, to embody in the protocol an Article (Article 3) which, while placing beyond doubt the fact that it is not permissible to use a factory ship as a "land station", neverthless makes a concession in respect of existing enterprises.

17. The French Delegation declared that the French Government was ready to accede to the present Agreement subject to the following reservations. First, that the term "land

station" employed in the Principal Agreement means a factory on land or a factory placed near the coast on a construction fixed or anchored at the same spot during the whole of the hunting season, and one which cannot be subsequently employed as a factory ship fishing in the deep sea. Secondly, should any regulations be introduced regulating the number of land stations as thus defined, France reserves the right to establish or to maintain three of such stations in her possessions in the Southern hemisphere. In view of the provisions of Article 3 of the Protocol coupled with the statement in paragraph 16 of this Final Act, the first reservation of the French Government appears to be satisfied. Furthermore, there is no provision in the Protocol regulating the number of land stations. The way, therefore, is clear for the accession of the Government of the French Republic.

18. It was represented to the Conference by the Danish Delegation that in the Faroe Islands whale hunting was prosecuted mainly to provide food in the form of whale meat for the population of the Islands, and that hitherto whaling had been conducted from two land stations in the Faroe Islands without regard to size limits. They intimated that it would be necessary for them, in order to accede to the Principal Agreement, which Denmark was otherwise ready to accept, to make a reservation in respect of size limits so far as they affected these stations. To meet this particular case and other cases of a similar character the Conference agreed to attach a proviso to Article 5 of the Principal Agreement. The Protocol (Article 4) provides that the size limit for blue, fin and sperm whales applicable to whales taken by catchers working from land stations may be reduced by five feet in each instance provided that the meat of such whales is to be used for local consumption. It is understood that this provision is to be limited in its application to stations which are genuinely intended to supply the local

needs of the country in which the station is situated.

19. It was agreed that Article 7 of the Principal Agreement should be amended so as to allow of the treatment of whales after the end of the open season provided that they were killed before midnight on March 7th. Provision has been made accordingly in the Protocol (Article 5).

20. The Conference considered a statement by the Japanese Delegation with regard to the effect of Article 8 of the Principal Agreement upon land stations in Japan, some of which actually operate for more than six months in any one year, a considerable portion of the catch consisting of sperm whales. In order to meet so far as possible the case of such land stations the Conference agreed to confine the application of Article 8 to baleen whales and an amendment to this effect has been included in the Protocol (Article 6).

21. The Conference having considered reports to the effect that some difficulty has been experienced in the application of Article 12 of the Principal Agreement, the purpose of which is to limit the period between the killing and the treatment of a whale, it was agreed to remove the uncertainty as to the exact interpretation of the Article by re-drafting it on different lines with the same purpose in view. Provision has been made accordingly in the Protocol (Article 8).

22. The Conference learned with concern that during the Antarctic whaling season of 1936/37, and the summer of 1937, no less than 15 right whales had been killed. They were informed that some of these whales had been measured and among them four foetuses were found, the lengths of which were approximately twenty feet, nineteen feet, seventeen feet and one foot respectively. Some of these whales were taken by Nationals of Governments which were signatories to the Principal Agreement. The Conference desires to draw the attention of the Governments concerned to these breaches of

the Geneva Convention and the Principal Agreement. From the commercial point of view, little advantage can accrue to any expedition by the taking of the few right whales that still exist, and in the opinion of the Conference, it is deplorable not only that right whales should be killed in spite of the provisions of the Principal Agreement, but that in particular as the statistics prove, breeding right whales should have been killed. The Conference, therefore, expresses the hope that, with a view to the preservation of the remainder of these most interesting mammals, the Governments concerned should sternly enforce the provisions of Article 4 of the Principal Agreement.

23. The Conference took note of a statement by Dr. Mackintosh of the proposals of the Discovery Committee for enlisting the support of whaling enterprises in the continuation and development of whale marking as carried out by the Committee. The Conference also heard a statemnt from the German Delegation as to the steps which the German Government proposes to take for the marking of whales. The Conference expressed the hope that the Governments and the whaling enterprises concerned will do their best to encourage the development of whale marking, which, in the view of the Conference, is likely to make an important contribution to the knowledge of the movement of whales, which has a very close bearing upon the problem of conservation of whales.

24. With reference to paragraph 9 of the Final Act of the Conference of 1937, it was reported that the Governments of Germany and Norway had acquired the necessary powers to deal with transfers of ships registered in their territories and that the Government of the United States of America already possessed those powers. The Conference expressed the hope that other countries would take steps to acquire similar powers at an early date.

25. In conclusion, the Conference suggested that the

question of holding a future Conference should be left to the consideration of the Governments concerned, in the light of developments.

Done in London the 24th day of June, 1938 in a single copy which shall be deposited in the archives of the Government of the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland by whom certified copies shall be communicated to all the signatory Governments.

For the Government of the Union of South Africa.

C. T. te WATER
F. J. du TOIT

For the Government of the United States of America:

HERSCHAL V. JOHNSON
REMINGTON KELLOGG
WILFRED N. DERBY

For the Government of the Argentine Republic:

MANUEL E. MALBRAN
M. FINCATI

For the Government of the Commonwealth of Australia:

ROBERT G. MENZIES

For the Government of Canada:

VINCENT MASSEY

For the Government of Denmark:

P. F. ERICHSEN

For the Government of Eire:

SEAN O'FAOLAIN O'DULCHAONTIGH
J. D. RUSH

For the Government of Germany:

HELMUTH WOHLTAT

For the Government of United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland:

HENRY G. MAURICE

GEO. HOGARTH

For the Government of Japan:

A. KODAKI

For the Government of New Zealand:

W. J. JORDAN

For the Government of Norway:

BIRGER BERGERSEN

INTERNATIONAL CONVENTION FOR THE REGULATION OF WHALING GENEVA, SEPTEMBER 24, 1931

ARTICLE 1.

The High Contracting Parties agree to take, within the limits of their respective jurisdictions, appropriate measures to ensure the application of the provisions of the present Convention and the punishment of infractions of the said provisions.

ARTICLE 2.

The present Convention applies only to baleens or whalebone whales.

ARTICLE 3.

The present Convention does not apply to aborigines dwelling on the coasts of the territories of the High Contracting Parties provided that:—

1. They only use canoes, pirogues or other exclusively native craft propelled by oars or sails.
2. They do not carry firearms.
3. They are not in the employment of persons other than aborigines.
4. They are not under contract to deliver the products of their whaling to any third person.

ARTICLE 4.

The taking or killing of right whales, which shall be deemed to include North-Cape whales, Greenland whales, Southern right whales, Pacific right whales and Southern pigmy right whales, is prohibited.

ARTICLE 5.

The taking or killing of calves or suckling whales, immature whales, and female whales which are accompanied by calves (or suckling whales) is prohibited.

ARTICLE 6.

The fullest possible use shall be made of the carcases of whales taken. In particular:—

1. There shall be extracted by boiling or otherwise the oil from all blubber and from the head and the tongue and, in addition, from the tail as far forward as the outer opening of the lower intestine.

   The provisions of this sub-paragraph shall apply only to such carcases or parts of carcases as are not intended to be used for human food.

2. Every factory, whether on shore or afloat, used for treating the carcases of whales shall be equipped with adequate apparatus for the extraction of oil from the blubber, flesh and bones.

3. In the case of whales brought on shore, adequate arrangements shall be made for utilising the residues after the oil has been extracted.

ARTICLE 7.

Gunners and crews of whaling vessels shall be engaged on terms such that their remuneration shall depend to a considerable extent upon such factors as the size, species, value and yield of oil of whales taken, and not merely upon the number of whales taken, in so far as payment is made dependent on results.

ARTICLE 8.

No vessel of any of the High Contracting Parties shall engage in taking or treating whales unless a licence authorising such vessel to engage therein shall have been granted in respect of such vessel by the High Contracting Party, whose flag she flies, or unless her owner or charterer has notified the Government of the said High Contracting Party of his intention to employ her in whaling, and has received a certificate of notification from the said Government.

Nothing in this article shall prejudice the right of any High Contracting Party to require that, in addition, a licence shall be

required from his own authorities by every vessel desirous of using his territory or territorial waters for the purposes of taking, landing or treating whales, and such licence may be refused or may be made subject to such conditions as may be deemed by such High Contracting Party to be necessary or desirable, whatever the nationality of the vessel may be.

ARTICLE 9.

The geographical limits within which the articles of this Convention are to be applied shall include all the waters of the world, including both the high seas and territorial and national waters.

ARTICLE 10.

1. The High Contracting Parties shall obtain, with regard to the vessels flying their flags and engaged in the taking of whales, the most complete biological information practicable with regard to each whale taken, and in any case on the following points:—

   (a) Date of taking.
   (b) Place of taking.
   (c) Species.
   (d) Sex.
   (e) Length; measured, when taken out of water; estimated, if cut up in water.
   (f) When foetus is present, length and sex if ascertainable.
   (g) When practicable, information as to stomach contents.

2. The length referred to in sub-paragraphs (e) and (f) of this article shall be the length of a straight line taken from the tip of the snout to the notch between the flukes of the tail.

ARTICLE 11.

Each High Contracting Party shall obtain from all factories, on land or afloat, under his jurisdiction, returns of the number of whales of each species treated at each factory, and of the amounts of oil of each grade, and the quantities of meal, guano and other products derived from them.

ARTICLE 12.

Each of the High Contracting Parties shall communicate statistical information regarding all whaling operations under their jurisdiction to the International Bureau for Whaling Statistics at Oslo. The information given shall comprise at least the particulars mentioned in article 10 and: (1) the name and tonnage of the whale catchers; (2) the number and aggregate tonnage of the whale catchers; (3) a list of the land stations which were in operation during the period concerned. Such information shall be given at convenient intervals not longer than one year.

ARTICLE 13.

The obligation of the High Contracting Party to take measures to ensure the observance of the conditions of the present Convention in his own territories and territorial waters, and by his vessels, shall not apply to those of his territories to which the Convention does not apply, and the territorial waters adjacent thereto, or to vessels registered in such territories.

ARTICLE 14.

The present Convention, the French and English texts of which shall both be authoritative, shall remain open until the thirty-first of March, 1932, for signature on behalf of any Member of the League of Nations or of any non-member State.

ARTICLE 15.

The present Convention shall be ratified. The instruments of ratification shall be deposited with the Secretary-General of the League of Nations, who shall notify their receipt to all Members of the League of Nations and non-member States indicating the dates of their deposit.

ARTICLE 16.

As from the first of April, 1932, any Member of the League of Nations, and any non-member State, on whose behalf the Convention has not been signed before that date, may accede thereto.

The Instruments of accession shall be deposited with the

Secretary-General of the League of Nations, who shall notify all the Member of the League of Nations and non-member States of their deposit and the date thereof.

ARTICLE 17.

The present Convention shall enter into force on the ninetieth day following the receipt by the Secretary-General of the League of Nations of ratifications or accessions on behalf of not less than eight Members of the League or non-member States, including the Kingdom of Norway and the United Kingdom of Great Britain and Norther Ireland.

As regards any Member of the League or non-member State on whose behalf an instrument of ratification or accession is subsequently deposited, the Convention shall enter into force on the ninetieth day after the date of the deposit of such instrument.

ARTICLE 18.

If after the coming into force of the present Convention the Council of the League of Nations, at the request of any two Members of the League or non-member States with regard to which the Convention is then in force, shall convene a Conference for the revision of the Convention, the High Contracting Parties agree to be represented at any Conference so convened.

ARTICLE 19.

1. The present Convention may be denounced after the expiration of three years from the date of its coming into force.

2. Denunciation shall be effected by a written notification addressed to the Secretary-General of the League of Nations, who shall inform all the Members of the League and the non-member States of each notification received and of the date of its receipt.

3. Each denunciation shall take effect six months after the receipt of its notification.

ARTICLE 20.

1. Any High Contracting Party may, at the time of signature, ratification or accession, declare that, in accepting the present

Convention, he does not assume any obligations in respect of all or any of his colonies, protectorates, overseas territories or territories under suzuraninty or mandate; and the present Convention shall not apply to any territories named in such declaration.

2. Any High Contracting Party may give notice to the Secretary-General of the League of Nations at any time subsequently that he desires that the Convention shall apply to all or any of his territories which have been made the subject of a declaration under the preceding paragraph, and the Convention shall apply to all the territories named in such notice ninety days after its receipt by the Secretary-General of the League of Nations.

3. Any High Contracting Party may, at any time after the expiration of the period of three years mentioned in article 19, declare that he desires that the present Convention shall cease to apply to all or any of his colonies, protectorates, overseas territories or territories under suzurainty or mandate, and the Convention shall cease to apply to the territories named in such declaration six months after its receipt by the Secretary-General of the League of Nations.

4. The Secretary-General of the League of Nations shall communicate to all the Members of the League of Nations and the non-member States all declarations and notices received in virtue of this article and the dates of their receipt.

ARTICLE 21.

The present Convention shall be registered by the Secretary-General of the League of Nations as soon as it has entered into force.

昭和十四年四月十五日印刷
昭和十四年四月二十日發行

農林省水産局編纂

東京市芝區田村町五丁目五番地

發行兼印刷者　阿部留治

東京市芝區田村町五丁目五番地

印刷所　農業と水産社印刷部

月山社

東京市芝區田村町五丁目五番地

發行所　農業と水産社

電話芝(43)二三八一番
振替東京七九四三四番

定價金壹圓

11

912
61